

# 令和4年度業務実績等報告書 別冊

小項目別の業務実績及び自己評価

# 目 次

## 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

### 1 県立病院が担うべき医療等の提供

(1) 地域医療の提供	1
(2) 高度・専門医療の提供	15
(3) 災害医療等の提供	39
(4) 認知症の専門医療の提供	42
(5) 介護サービスの提供	45

### 2 地域連携の推進

(1) 地域医療構想への対応	49
(2) 地域包括ケアシステムの推進	52
(3) 地域の保健・福祉関係機関等との連携の推進	58

### 3 医療従事者の養成と専門性の向上

(1) 県内医療に貢献する医師の確保・養成	64
(2) 機構職員の養成	68
(3) 県内医療技術者の技術水準の向上への貢献	75
(4) 信州木曽看護専門学校の運営	82

### 4 医療の質の向上に関すること

(1) より安全で信頼できる医療の提供	88
(2) 医療等サービスの一層の向上	92
(3) 先端技術の活用	97

(4) 信州大学等との連携	100
(5) 医療に関する研究及び調査の推進	102
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	
1 業務運営体制の強化	106
2 働き方改革への対応	111
3 職員の勤務環境の向上	118
第3 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画	
1 経常黒字の維持	122
2 経営基盤の強化	
(1) 収益の確保	127
(2) 費用の抑制	140
第4 その他業務運営に関する事項	
1 コンプライアンスの推進と適切な情報管理	146
2 施設整備及び医療機器に関する事項	149
3 コロナ禍で取組む事項	152

◎ 評定区分

評定区分	判断の目安となる業務実績
S	年度計画を大幅に上回って達成している（定量的目標においては対年度計画値の120%以上）
A	年度計画を達成している（定量的目標においては対年度計画値の100%以上120%未満）
B	年度計画を概ね達成している（定量的目標においては対年度計画値の80%以上100%未満）
C	年度計画を下回っており、改善を要する（定量的目標においては対年度計画値の60%以上80%未満）
D	年度計画を大幅に下回っており、抜本的な改善を要する（定量的目標においては対年度計画値の60%未満）

## 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

### 1 県立病院が担うべき医療等の提供

#### (1) 地域医療の提供

〔自己評定〕 B

〔自己評定の理由〕

信州医療センター、阿南病院及び木曽病院では、地域の医療需要に応じた初期・二次医療サービスを提供するとともに、地域の救急病院として救急患者の受入れを行った。また、地域において各病院が担うべき在宅医療（訪問診療等）や各種検診業務についても積極的に実施した。

信州医療センターは、在宅医療において24時間365日緊急連絡対応体制をとり、患者の状況に応じた必要時の緊急訪問を積極的に行った。また、産科医療に関しては、須坂市と連携した妊産婦をサポートして産後うつを予防する「須坂モデル」の取り組みなど、地域で安心して子育てができる環境づくりのための産後ケア事業を実施した。

阿南病院は、診療所にいる患者を病院にいる医師が診るオンライン診療及び近隣診療所との医療機器の共同利用を開始した。また、急性期から回復期、慢性期に至るまで幅広く患者層を受入れ、救急、訪問、へき地診療、施設の後方支援等を担った。また、リハビリテーションのリノベーションを推進した。

木曽病院は、急性期医療を担う木曽郡内唯一の病院として、救急告示医療機関、災害拠点病院、へき地医療拠点病院等の指定を受け、24時間365日体制で救急医療を提供した。また、在宅療養中の患者ニーズに対応するため、在宅療養支援病院として緊急時の連絡体制並びに24時間往診及び24時間訪問看護の提供が可能な体制を確保した。また、医師・看護師・薬剤師等によるへき地巡回診療を定期的実施し、無医地区の医療の提供に貢献した。令和4年4月1日に長野県から認知症疾患医療センター（連携型）の指定を受け活動を開始し、電話相談30件、面接相談2件を実施した。

こども病院は、地域医療支援病院として地域の医療機関と連携し、成人を対象とした放射線治療等により、高度医療機器の共同利用を推進した。また、救急車やドクターヘリによる小児救急患者の受入及びドクターカーの出動により長野県の小児高度救急医療及び地域小児救急の後方支援機能

を果たした。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績							
		病院	評定	取組結果及び取組の効果					
第1 1(1) 1	ア 地域医療 各病院は、地域の医療需要に応じた診療体制を整備するとともに、診療体制の充実を図る。	信州	A	取組結果及び取組の効果					
				項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
				時間外救急患者数	7,739人	—	—	5,747人	134.7%
				救急車受入台数	1,960台	—	—	1,716台	114.2%
				手術件数	1,697件	—	—	1,600件	106.1%
				<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の救急病院として、引き続き救急医療の提供を行った。</li> <li>・コロナ感染病床確保のため、入院制限を行った。</li> </ul>					
				項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年比
				人間ドック（日帰り）	2,294件	—	—	2,091件	109.7%
				〃（1泊2日）	135件	—	—	130件	103.8%
				健康診断	1,622件	—	—	1,624件	99.9%
がん検診	2,243件	—	—	2,083件	107.7%				
妊婦健診	5,026件	—	—	5,171件	97.2%				
予防接種（コロナワクチン除く）	4,507件	—	—	4,405件	102.3%				
2	同上	駒ヶ根	B	取組結果及び取組の効果					
				項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
				時間外救急患者件数	169件	—	—	226件	74.8%

				措置入院件数	24件	－	－	23件	104.3%
				<p>・第2期信州保健医療総合計画において、精神科救急の常時対応型施設として位置づけられており、24時間365日体制で重症精神科急性期患者の受入れを行った。</p> <p>・時間外救急患者件数は、新型コロナウイルス感染症の影響で減少したが、措置入院件数は前年度並みであった。</p>					
3	同上	阿南	A						
				項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
				時間外救急患者数	1,254人	－	－	1,019人	123.1%
				救急車受入台数	292件	－	－	223件	130.9%
				ドクターヘリ受入台数	11件	－	－	1件	1,100%
				手術件数	88件	－	－	86件	102.3%
				項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
				小児科	診療日数	12日	－	12日	100.0%
				日曜診療	患者数	223人	－	134人	166.4%
				項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
				人間ドック（日帰り）	238件	－	－	242件	98.3%
				生活習慣病予防検診	268件	－	－	269件	99.6%
				脳ドック	79件	－	－	65件	121.5%
				健康診断	1,014件	－	－	1,069件	94.9%
				がん検診	831件	－	－	984件	84.5%
				予防接種（コロナワクチン除く）	2,716件	－	－	2,441件	111.3%

4	同上	木曾	A	時間外救急患者数	3,398 人	—	—	3,284 人	103.5%																																				
				救急車受入台数	1,222 件	—	—	1,012 件	120.8%																																				
				ドクターヘリ受入台数	0 件	—	—	0 件	—																																				
				手術件数	457 件	—	—	686 件	66.6%																																				
<p>・急性期医療を担う木曾医療圏唯一の病院として、救急告示医療機関、災害拠点病院、へき地医療拠点病院等の指定を受け、24時間365日体制で全診療科がオンコール体制を敷き、救急医療を提供した。</p>																																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人間ドック（日帰り）</td> <td>503件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>515件</td> <td>97.7%</td> </tr> <tr> <td>健康診断</td> <td>1,459件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>722件</td> <td>202.1%</td> </tr> <tr> <td>がん検診</td> <td>419件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>401件</td> <td>104.5%</td> </tr> <tr> <td>妊婦健診</td> <td>1,006件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>729件</td> <td>138.0%</td> </tr> <tr> <td>予防接種（コロナワクチン除く）</td> <td>3,335件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>2,930件</td> <td>113.8%</td> </tr> </tbody> </table>										項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年比	人間ドック（日帰り）	503件	—	—	515件	97.7%	健康診断	1,459件	—	—	722件	202.1%	がん検診	419件	—	—	401件	104.5%	妊婦健診	1,006件	—	—	729件	138.0%	予防接種（コロナワクチン除く）	3,335件	—	—	2,930件	113.8%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年比																																								
人間ドック（日帰り）	503件	—	—	515件	97.7%																																								
健康診断	1,459件	—	—	722件	202.1%																																								
がん検診	419件	—	—	401件	104.5%																																								
妊婦健診	1,006件	—	—	729件	138.0%																																								
予防接種（コロナワクチン除く）	3,335件	—	—	2,930件	113.8%																																								
<p>・予防接種は、インフルエンザワクチンの供給増により増加した。</p>																																													
5	同上	こども	A	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																				
				救急患者数	3,462 人	—	—	3,447 人	100.4%																																				
				救急車受入台数	387 件	—	—	319 件	121.3%																																				
				ドクターヘリ受入台数	29 件	—	—	18 件	161.1%																																				
				ドクターカー出動回数	208 件	—	—	183 件	113.7%																																				
				コンパクトドクターカー出動回数	52 件	—	—	58 件	89.7%																																				
				手術件数	1,750 件	—	—	1,667 件	105.0%																																				
				小児緊急入院患	857 人	—	—	842 人	101.8%																																				

			者数																							
			<p>(ドクターヘリ受入台数：ピックアップ含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・24時間の救急担当医配置などの救急医療体制をとる中で、救急患者の受入や、ドクターカー及びコンパクトドクターカー260件の出動を行い、長野県の小児高度救急医療及び地域小児救急の後方支援機能を果たした。</li> <li>・ドクターカーを「迎え搬送」に、コンパクトドクターカーを「送り搬送」に運用し、病院間連携及び搬送事業体制の充実・強化が図られた。</li> <li>・年度後半から新型コロナウイルス感染拡大の影響が落ち着き、積極的な患者受入れを行ったことから、救急患者数、救急車及びドクターヘリ受入台数は前年度を上回った。</li> <li>・手術件数は前年度を上回り、特に小児外科、脳神経外科、血液腫瘍科の手術の増加が顕著であった。</li> <li>・高度小児医療機能とチーム医療を発揮し、6月1日に県内初の未成年患者からの臓器提供を実施した。</li> </ul>																							
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>妊婦健診</td> <td>3,586件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>3,597件</td> <td>99.7%</td> </tr> <tr> <td>予防接種（コロナワクチン除く）</td> <td>304件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>331件</td> <td>91.8%</td> </tr> </tbody> </table>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年比	妊婦健診	3,586件	—	—	3,597件	99.7%	予防接種（コロナワクチン除く）	304件	—	—	331件	91.8%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年比																					
妊婦健診	3,586件	—	—	3,597件	99.7%																					
予防接種（コロナワクチン除く）	304件	—	—	331件	91.8%																					
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊婦健診、予防接種ともに前年度比で若干の減少となった。</li> </ul>																							



6	【在宅医療件数 (訪問診療・訪問看護・訪問リハ)】 (単位：件)	信 州	C	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問診療</td> <td>51件</td> <td>265件</td> <td>19.2%</td> <td>214件</td> <td>23.8%</td> </tr> <tr> <td>訪問看護</td> <td>4,099件</td> <td>4,600件</td> <td>89.1%</td> <td>4,226件</td> <td>97.0%</td> </tr> <tr> <td>訪問リハビリ</td> <td>3,714件</td> <td>3,400件</td> <td>109.2%</td> <td>3,836件</td> <td>96.8%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>7,864件</td> <td>8,265件</td> <td>95.1%</td> <td>8,276件</td> <td>95.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・訪問看護では、新型コロナウイルス感染症拡大、在宅看取りの減少、療養者の状態悪化による入院が重なり利用者が減少した。在宅看取りの依頼の減少で訪問診療が減少した。</p> <p>・訪問リハビリでは、育休の取得のため、R3年9月からR4年8月末までスタッフが1.5人態勢となり訪問件数が減少。R4年9月より再度2人体制に整えた。</p>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	訪問診療	51件	265件	19.2%	214件	23.8%	訪問看護	4,099件	4,600件	89.1%	4,226件	97.0%	訪問リハビリ	3,714件	3,400件	109.2%	3,836件	96.8%	計	7,864件	8,265件	95.1%	8,276件	95.0%
	項目			実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																										
訪問診療	51件	265件	19.2%	214件	23.8%																													
訪問看護	4,099件	4,600件	89.1%	4,226件	97.0%																													
訪問リハビリ	3,714件	3,400件	109.2%	3,836件	96.8%																													
計	7,864件	8,265件	95.1%	8,276件	95.0%																													
7	同上 (単位：件)	駒 ヶ 根	A	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問看護</td> <td>2,282件</td> <td>2,057件</td> <td>110.9%</td> <td>1,796件</td> <td>127.1%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・精神科地域包括ケアシステムを推進するため、専門性の高い精神科訪問看護サービスを提供する訪問看護ステーション「こまほす」を開設した。(令和4年8月)</p> <p>・4月から、訪問看護のニーズにより対応するため、訪問看護師の夜勤免除を開始した結果、件数が増加した。</p> <p>・エリア別に担当者を配置し、効率的に訪問を行い件数が増加した。(1日平均10件)</p>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	訪問看護	2,282件	2,057件	110.9%	1,796件	127.1%																		
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																													
訪問看護	2,282件	2,057件	110.9%	1,796件	127.1%																													

8	阿南病院及び木曽病院は、関係機関と連携し在宅医療を提供する中で、地域包括ケアシステムの中核としての役割を果たす。 【在宅医療件数（訪問診療・訪問看護・訪問リハ）】 (単位：件)	阿南	B	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問診療</td> <td>205件</td> <td>250件</td> <td>82.0%</td> <td>237件</td> <td>86.5%</td> </tr> <tr> <td>訪問看護</td> <td>2,533件</td> <td>2,900件</td> <td>87.3%</td> <td>2,767件</td> <td>91.5%</td> </tr> <tr> <td>訪問リハビリ</td> <td>862件</td> <td>830件</td> <td>103.8%</td> <td>1,006件</td> <td>84.1%</td> </tr> <tr> <td>訪問服薬指導</td> <td>32件</td> <td>25件</td> <td>128.0%</td> <td>25件</td> <td>128.0%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3,632件</td> <td>4,005件</td> <td>90.7%</td> <td>4,035件</td> <td>90.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・地域医療総合支援センターを中心に、訪問診療、看護、リハビリ、服薬指導等を実施し、在宅医療の充実を図った。</p> <p>・新型コロナウイルスの感染拡大により、訪問服薬指導以外の件数は減少した。</p>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	訪問診療	205件	250件	82.0%	237件	86.5%	訪問看護	2,533件	2,900件	87.3%	2,767件	91.5%	訪問リハビリ	862件	830件	103.8%	1,006件	84.1%	訪問服薬指導	32件	25件	128.0%	25件	128.0%	計	3,632件	4,005件	90.7%	4,035件	90.0%
	項目			実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																					
訪問診療	205件	250件	82.0%	237件	86.5%																																								
訪問看護	2,533件	2,900件	87.3%	2,767件	91.5%																																								
訪問リハビリ	862件	830件	103.8%	1,006件	84.1%																																								
訪問服薬指導	32件	25件	128.0%	25件	128.0%																																								
計	3,632件	4,005件	90.7%	4,035件	90.0%																																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和4年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>阿南</td> <td>2,104</td> <td>4,005</td> </tr> </tbody> </table>		病院名	令和元年度実績	令和4年度目標	阿南	2,104	4,005																																						
病院名	令和元年度実績	令和4年度目標																																											
阿南	2,104	4,005																																											
9	同上 (単位：件)	木曽	B	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問診療</td> <td>232件</td> <td>500件</td> <td>46.4%</td> <td>559件</td> <td>41.5%</td> </tr> <tr> <td>訪問看護</td> <td>3,455件</td> <td>4,200件</td> <td>82.3%</td> <td>4,254件</td> <td>81.2%</td> </tr> <tr> <td>訪問リハビリ</td> <td>931件</td> <td>850件</td> <td>109.5%</td> <td>1,027件</td> <td>90.7%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4,618件</td> <td>5,550件</td> <td>83.2%</td> <td>5,840件</td> <td>79.1%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・在宅療養支援病院として、医師による24時間往診と訪問看護、緊急時の入院受入体制を確保・維持している。</p> <p>・訪問看護は、地域の高齢化及び自宅でのターミナルケア等の患者ニーズに対応するため、24時間365日訪問体制を継続中である。</p> <p>・訪問診療の実績件数の減少は、施設に対する訪問診療の頻度を見直し、毎月訪問を3か月に1回の訪問に変更したこと及び看取り患者の減少による。</p> <p>・訪問看護の実績件数の減少は、週3回以上の訪問利用者の看取りや施設入所利用者が増加したことによる。</p>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	訪問診療	232件	500件	46.4%	559件	41.5%	訪問看護	3,455件	4,200件	82.3%	4,254件	81.2%	訪問リハビリ	931件	850件	109.5%	1,027件	90.7%	計	4,618件	5,550件	83.2%	5,840件	79.1%						
	項目			実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																					
訪問診療	232件	500件	46.4%	559件	41.5%																																								
訪問看護	3,455件	4,200件	82.3%	4,254件	81.2%																																								
訪問リハビリ	931件	850件	109.5%	1,027件	90.7%																																								
計	4,618件	5,550件	83.2%	5,840件	79.1%																																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和4年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>木曽</td> <td>5,438</td> <td>5,850</td> </tr> </tbody> </table>		病院名	令和元年度実績	令和4年度目標	木曽	5,438	5,850																																						
病院名	令和元年度実績	令和4年度目標																																											
木曽	5,438	5,850																																											

				<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度の看取り件数は、年間33件。</li> </ul>																																			
10	<p>【在宅医療件数（訪問診療・訪問看護・訪問リハ）】 （単位：件）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和4年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>こども</td> <td>—</td> <td>60</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	令和元年度実績	令和4年度目標	こども	—	60	こども	B	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問診療 (患者数)</td> <td>44件 (8人)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>37件 (9人)</td> <td>118.9% (88.9%)</td> </tr> <tr> <td>訪問リハビリ (患者数)</td> <td>7件 (2人)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>7件 (3人)</td> <td>100.0% (66.7%)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>51件 (10人)</td> <td>60件 (—)</td> <td>85.0%</td> <td>44件 (12人)</td> <td>115.9% (83.3%)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度 訪問診療新規患者は4人、訪問リハビリテーション新規患者は2人</li> <li>新規患者は呼吸管理が必要な症例と終末期の症例であった。</li> <li>訪問リハビリは症状に合わせたポジショニングや移動支援を行い、終末期をできるだけ在宅で生活できるよう支援できた。支援内容を評価し今後にもつなげていく。</li> <li>引き続き地域で訪問診療が必要な医療ケア児に対するサービスを提供、拡張していく。</li> <li>地域中核病院、開業医等への小児在宅ケアの推進のため研修や同行訪問を今後計画していく予定。</li> </ul>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	訪問診療 (患者数)	44件 (8人)	—	—	37件 (9人)	118.9% (88.9%)	訪問リハビリ (患者数)	7件 (2人)	—	—	7件 (3人)	100.0% (66.7%)	計	51件 (10人)	60件 (—)	85.0%	44件 (12人)	115.9% (83.3%)
病院名	令和元年度実績	令和4年度目標																																					
こども	—	60																																					
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																		
訪問診療 (患者数)	44件 (8人)	—	—	37件 (9人)	118.9% (88.9%)																																		
訪問リハビリ (患者数)	7件 (2人)	—	—	7件 (3人)	100.0% (66.7%)																																		
計	51件 (10人)	60件 (—)	85.0%	44件 (12人)	115.9% (83.3%)																																		
11	<p>信州医療センターは、産科医療体制の充実に努めるとともに、院内助産体制の整備について検討し、木曽病院は、産科医療体制を維持する。</p> <p>【分娩件数】 （単位：件）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和4年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>信州</td> <td>230</td> <td>250</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	令和元年度実績	令和4年度目標	信州	230	250	信州	A	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>分娩件数</td> <td>253件</td> <td>250件</td> <td>101.2%</td> <td>256件</td> <td>98.8%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>年々出生数が減少している中でも分娩件数は大きな減少なく、対前年度比98.8%であった。</li> <li>病院全体での面会禁止のなかでも、COVID抗原定量検査、体調管理票の記入など条件付きで立ち合い分娩を継続したことで、バースレビューでの分娩に対する満足度が高かった。</li> <li>新型コロナウイルス感染症蔓延の中で、妊産褥婦の感染者が増加したため、陽性妊婦の対</li> </ul>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	分娩件数	253件	250件	101.2%	256件	98.8%												
病院名	令和元年度実績	令和4年度目標																																					
信州	230	250																																					
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																		
分娩件数	253件	250件	101.2%	256件	98.8%																																		

				<p>応マニュアルを作成し、受け入れを実施した。近隣の病院で妊婦健診を受診している妊婦の隔離期間中の受け入れを実施し、帝王切開分娩だけでなく、経膈分娩での対応も行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7月に産科医師が1人退職したが、須高地域の分娩を担う施設としての役割を果たすため、当院で実施可能な院内助産の体制を整え、院内助産を開始した。日中のみの実施であり、件数は年度末までで2件であるが、引き続き分娩の取り扱いが継続できるよう検討し、地域へも院内助産を広報していく予定である。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症蔓延の状況下でも妊産婦が安心して妊娠、出産、育児ができるように、ZOOMでのペアレンツクラス・ヨガ教室を開始した。また、ホームページやSNSで院内助産やペアレンツクラス・ヨガ教室についての情報を発信し、積極的な広報を行った。</li> </ul>																		
12	<p>同上</p> <p>(単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>令和元年度 実績</th> <th>令和4年度 目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>木 曾</td> <td>103</td> <td>80</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	令和元年度 実績	令和4年度 目標	木 曾	103	80	木 曾	A	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>実 績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>分娩件数</td> <td>78 件</td> <td>80 件</td> <td>97.5%</td> <td>75 件</td> <td>104.0%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レディースルームの開設により、分娩件数は増加した。</li> </ul>	項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	分娩件数	78 件	80 件	97.5%	75 件	104.0%
病院名	令和元年度 実績	令和4年度 目標																				
木 曾	103	80																				
項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																	
分娩件数	78 件	80 件	97.5%	75 件	104.0%																	
13	<p>同上</p> <p>(単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>令和元年度 実績</th> <th>令和4年度 目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>こども</td> <td>331</td> <td>300</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	令和元年度 実績	令和4年度 目標	こども	331	300	こ ど も	A	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>実 績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>分娩件数</td> <td>312 件</td> <td>300 件</td> <td>104.0%</td> <td>293 件</td> <td>106.5%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分娩件数は計画数及び前年度数を上回った。</li> </ul>	項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	分娩件数	312 件	300 件	104.0%	293 件	106.5%
病院名	令和元年度 実績	令和4年度 目標																				
こども	331	300																				
項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																	
分娩件数	312 件	300 件	104.0%	293 件	106.5%																	
14	<p>【令和4年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産後の母親のメンタルヘルスを向上させる「須坂モデル」の普及促進と産後ケア利用の拡充</li> </ul>	信 州	D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産後ケア事業の実施状況</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>内 容</th> <th>実 績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>宿泊型</td> <td>5 人</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>34 人</td> <td>14.7%</td> </tr> <tr> <td>デイサービス型</td> <td>1 人</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>2 人</td> <td>50.0%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・須高地域、近隣地域の行政と連携し、出産後に不安を抱える母子に育児相談・指導を実施</li> </ul>	内 容	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	宿泊型	5 人	—	—	34 人	14.7%	デイサービス型	1 人	—	—	2 人	50.0%
内 容	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																	
宿泊型	5 人	—	—	34 人	14.7%																	
デイサービス型	1 人	—	—	2 人	50.0%																	

				<p>する助産師外来や母乳外来、デイサービス型・宿泊型産後ケア事業や妊産婦を多職種でサポートして産後うつを予防する取り組み（須坂モデル）を継続して実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症による面会制限と入院時のCOVID検査を理由に、産後ケアの利用を希望しない褥婦が多く、宿泊型、デイサービス型ともに件数が大幅に減少した。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症禍でも満足度の高い産後ケア事業が出来るよう、産後ケアプラン用紙を作成し、より希望に沿ったケアが提供できる取り組みを行った。</li> <li>・産後ケア事業について知らない妊産婦も多いため、SNSを活用して情報を視覚的に発信することや利用しやすい体制を作ること、デイサービス、宿泊型だけではなくアウトリーチ型の産後ケアの体制整備を検討していくことが課題である。</li> </ul>												
15	<p>【令和4年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・院内保育所を活用した妊婦検診時の子供の一時預かりの検討</li> </ul>	信州	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営企画室会議の下に設置の分娩件数増加検討ワーキンググループが中心となり、検討を行ってきた。</li> <li>・関係各所の合意、運用の方法など準備をしてきたが、コロナ感染状況を鑑み実施を延期している状況である。</li> </ul>												
16	<p>【令和4年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーションセンター改修工事及び休日リハ・小児リハ提供に向けた体制整備などのリノベーションの実施</li> </ul>	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリ室の床材の変更、言語聴覚室の整備、車いすトイレの整備、ADL（日常生活動作）練習機器の整備などの改修工事により、リハビリテーションセンターの快適性が高まり、患者サービスの充実・向上につながった。</li> <li>・休日リハビリ及び小児リハビリに関しては、令和5年度中の開始を目指している。</li> </ul>												
17	<p>【令和4年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産科ユニットを整備し、産科の療養環境を改善</li> </ul>	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産科病棟の改修を完了し、レディースゾーンの受入れを開始</li> <li>・前年度実績を3件上回る78件の分娩があった。</li> </ul>												
18	<p>【令和4年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療支援病院として地域の医療機関との連携を推進</li> </ul>	こども	B	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>放射線治療紹介人数</td> <td>33人</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>86人</td> <td>38.4%</td> </tr> </tbody> </table>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	放射線治療紹介人数	33人	—	—	86人	38.4%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比											
放射線治療紹介人数	33人	—	—	86人	38.4%											

			(延べ)																																								
			放射線治療算定件数 (延べ照射回数及び 治療計画数)	788件	—	—	1,882件 41.3%																																				
			リニアック稼働額 (成人及び小児)	10,996千円	—	—	26,745千円 41.1%																																				
			<p>・機器更新の為、7月から12月14日までリニアックの稼働を停止し、機器更新期間中の検査が出来ず、実施者数の減少となった。</p> <p>(高度医療機器の共同利用件数：延べ件数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リニアック</td> <td>788件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1,882件</td> <td>41.9%</td> </tr> <tr> <td>MRI</td> <td>2件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>0件</td> <td>皆増</td> </tr> <tr> <td>3Dモデル</td> <td>0件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>17件</td> <td>皆減</td> </tr> <tr> <td>RI</td> <td>45件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>46件</td> <td>97.8%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>406件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1,945件</td> <td>20.9%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・リニアックは更新工事(7月から12月)の為件数は減少。</p> <p>・MRIは自施設の予約で2ヵ月先まで予約が埋まっている状況ではあるが、2件の検査を実施。</p> <p>・3Dモデルは装置老朽化による故障と保守契約の終了により、受託検査を中止している。</p> <p>・RIの受託検査は昨年度から開始した認知症に関する検査依頼が継続的にあり、前年度並みの検査数となった。</p>					項目	実績	年度目標	対目標比	前年度	対前年度比	リニアック	788件	—	—	1,882件	41.9%	MRI	2件	—	—	0件	皆増	3Dモデル	0件	—	—	17件	皆減	RI	45件	—	—	46件	97.8%	計	406件	—	—	1,945件	20.9%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度	対前年度比																																						
リニアック	788件	—	—	1,882件	41.9%																																						
MRI	2件	—	—	0件	皆増																																						
3Dモデル	0件	—	—	17件	皆減																																						
RI	45件	—	—	46件	97.8%																																						
計	406件	—	—	1,945件	20.9%																																						

19	<p>へき地医療</p> <p>阿南病院及び木曾病院は、へき地医療拠点病院として、救急医療体制を含めた地域住民への医療提供体制を維持するとともに、関係機関等との連携のもと、無医地区への巡回診療を行う。</p> <p><b>【巡回診療実施体制】</b></p> <table border="1" data-bbox="237 528 757 708"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和4年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>阿南</td> <td>26回 (71人)</td> <td>26回 (75人)</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	令和元年度実績	令和4年度目標	阿南	26回 (71人)	26回 (75人)	阿南	<p>B</p> <p><b>【巡回診療実施件数】</b></p> <table border="1" data-bbox="909 240 2042 395"> <thead> <tr> <th>地区名</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>阿南町和合(日吉地区)</td> <td>25回 (72人)</td> <td>26回 (75人)</td> <td>96.2% (96.0%)</td> <td>26回 (74人)</td> <td>96.2% (97.3%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>・無医地区において隔週の巡回診療を実施した。</p>	地区名	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	阿南町和合(日吉地区)	25回 (72人)	26回 (75人)	96.2% (96.0%)	26回 (74人)	96.2% (97.3%)												
病院名	令和元年度実績	令和4年度目標																															
阿南	26回 (71人)	26回 (75人)																															
地区名	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																												
阿南町和合(日吉地区)	25回 (72人)	26回 (75人)	96.2% (96.0%)	26回 (74人)	96.2% (97.3%)																												
20	<p>同上</p> <p><b>【巡回診療実施体制】</b></p> <table border="1" data-bbox="237 831 757 1011"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和4年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>木曾</td> <td>24回 (43人)</td> <td>24回 (48人)</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	令和元年度実績	令和4年度目標	木曾	24回 (43人)	24回 (48人)	木曾	<p>B</p> <p><b>【巡回診療実施件数】</b></p> <table border="1" data-bbox="909 791 2042 1106"> <thead> <tr> <th>地区名</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>台</td> <td>7回 (7人)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>7回 (7人)</td> <td>100% (100%)</td> </tr> <tr> <td>才児</td> <td>11回 (11人)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>12回 (25人)</td> <td>91.7% (44.0%)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>18回 (18人)</td> <td>24回 (48人)</td> <td>75.0% (37.5%)</td> <td>19回 (32人)</td> <td>94.7% (66.7%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>・上松町2地区(台、才児)への巡回診療を各地区月1回計画した。ただし、患者の入院・施設入所により受診者が見込まれない場合は実施を見送ったことから、年18回の開催となった。</p> <p>・対象患者の入院や施設入所により、患者数が減少した。</p>	地区名	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	台	7回 (7人)	-	-	7回 (7人)	100% (100%)	才児	11回 (11人)	-	-	12回 (25人)	91.7% (44.0%)	計	18回 (18人)	24回 (48人)	75.0% (37.5%)	19回 (32人)	94.7% (66.7%)
病院名	令和元年度実績	令和4年度目標																															
木曾	24回 (43人)	24回 (48人)																															
地区名	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																												
台	7回 (7人)	-	-	7回 (7人)	100% (100%)																												
才児	11回 (11人)	-	-	12回 (25人)	91.7% (44.0%)																												
計	18回 (18人)	24回 (48人)	75.0% (37.5%)	19回 (32人)	94.7% (66.7%)																												

21	へき地診療所からの要請に基づき医師を派遣する等の支援を行う。 【令和4年度に推進する事項】 ・地域の医療、保健及び福祉医療機関との連携強化による無医地区の医療機能の充実（阿南・木曾）	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別養護老人ホーム等、診療圏内の7施設に常勤医師6人を派遣した。</li> <li>・派遣先の全施設で閉域通信網を通じて病院内の電子カルテサーバとアクセスし、診療の際に画像データ等の閲覧や処方入力を行うなど、電子カルテによる診療を実施した。</li> <li>・リハビリ指導のため、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士を診療圏内の町村及び福祉施設へ派遣した。</li> <li>・乳児健診における町村保健師等と連携した発達障がい児の早期発見とフォローアップ体制を維持した。</li> </ul>																														
22	同上	木曾	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木曾郡内の診療所が当院の検査機器を共同利用して患者のCT検査、MRI検査（いずれも単純撮影のみ）等を簡便に行う仕組みを継続して実施した。</li> <li>・歯科口腔外科開設に伴う診療所インプラントCTの紹介の仕組みを継続して実施した。</li> </ul> <p>【共同利用件数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CT</td> <td>71件</td> <td>44件</td> <td>161.4%</td> <td>51件</td> <td>139.2%</td> </tr> <tr> <td>MRI</td> <td>13件</td> <td>14件</td> <td>92.9%</td> <td>9件</td> <td>144.4%</td> </tr> <tr> <td>その他（骨密度）</td> <td>4件</td> <td>2件</td> <td>200.0%</td> <td>5件</td> <td>80.0%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>88件</td> <td>60件</td> <td>146.7%</td> <td>65件</td> <td>135.4%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな共同利用体制を構築してから、3年目を迎え地域の診療所からの依頼は順調に推移している。</li> </ul>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	CT	71件	44件	161.4%	51件	139.2%	MRI	13件	14件	92.9%	9件	144.4%	その他（骨密度）	4件	2件	200.0%	5件	80.0%	計	88件	60件	146.7%	65件	135.4%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																													
CT	71件	44件	161.4%	51件	139.2%																													
MRI	13件	14件	92.9%	9件	144.4%																													
その他（骨密度）	4件	2件	200.0%	5件	80.0%																													
計	88件	60件	146.7%	65件	135.4%																													
23	【令和4年度に推進する事項】 ・へき地診療所への代診医の派遣及びオンライン診療の実施	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常勤医師不在の売木村診療所へ代診医師を派遣するとともに、診療所にいる患者を病院にいる医師が診るオンライン診療を開始した。 (対面診療47回 オンライン診療30回 計77回)</li> </ul>																														
24	【令和4年度に推進する事項】 ・下伊那南部地区診療所との連携方針を検討	阿南	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・診療所との連携を推進し、下伊那南部地域全体の医療機能の向上を図るため、CT及びMRIの共同利用を開始し、45件の依頼を受けた。</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>機器</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	機器	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																								
機器	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																													



				CT	30件	—	—	0件	皆増
				MRI	15件	—	—	0件	皆増
				計	45件	—	—	0件	皆増
				<ul style="list-style-type: none"> <li>電子カルテシステムの更新に併せ、飯田下伊那診療情報連携システム（ism-Link）の情報開示病院となり、下伊那南部地区診療所を含む他の医療機関、介護関係事業者等の中で、診療や介護に必要な情報を電子的に閲覧共有することにより、地域の医療と介護の適正、円滑な連携の推進に取り組んだ。自施設での同意件数は146件、他施設からの接続依頼は50件あった。</li> </ul>					
25	<b>【令和4年度に推進する事項】</b> ・ 準地域医療人材拠点病院として診療所への医師の派遣	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>木曾町みたけ診療所医師の体調不良に伴い、11月から月2回医師を派遣</li> </ul>					

## 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

### 1 県立病院が担うべき医療等の提供

#### (2) 高度・専門医療の提供

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

感染症医療の提供では、感染が拡大した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対し、信州医療センターが、県の感染症医療の拠点病院として適切な診療を提供するとともに、医療機関、地域住民等への正しい情報提供や相談等を実施した。

また、県立病院すべてが感染者等を積極的に受け入れ、感染拡大に対応した適切な医療の提供を行った。

精神医療の提供では、こころの医療センター駒ヶ根が、県の精神科医療の中核病院として24時間365日体制で精神科救急医療を行うとともに、児童精神科、アルコール・薬物依存など多職種チームによる専門医療を提供した。令和2年度から体制を整備していたインターネット・ゲーム依存症治療について外来受入れを開始し、県内で初めて令和4年4月から家族向けの学習プログラム、令和4年5月から入院・外来治療プログラムを開始した。また、救急外来やウォークイン患者に対しては、緊急性の評価を速やかに行い、的確な入院治療を開始した。

高度小児医療、周産期医療の提供では、こども病院が、一般の医療機関では対応が困難な高度な小児医療の中核病院、県の総合周産期母子医療センターとしての機能を担いつつ、長野県のアレルギー疾患拠点病院として患者支援体制の継続、成人先天性心疾患センター及び移行期医療支援センターを中心に信州大学医学部附属病院と連携した診断・治療、県内の移行期医療体制の充実に努めた。

がん診療機能の向上では、木曽病院は、歯科口腔外科の診療を週2回に増やして診療機能の充実を図り、こども病院は、小児がん連携病院として信州大学医学部附属病院及び相澤病院と連携し、全県的に小児がん治療の提供を行うとともに、令和4年4月から小児がんセンターを開設し、小児がん診療体制を強化した。各病院において、がんの治療や緩和ケア等で質の高い医療サービスの提供に努めた。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績							
		病院	評定	取組結果及び取組の効果					
第1 1(2) 1	<p>ア 感染症医療（新型コロナウイルス感染症対応を含む。）</p> <p>各病院は、新型コロナウイルス感染症重点医療機関及び診療・検査医療機関（駒ヶ根を除く。）として、県が実施する感染症対策と連携し感染者を積極的に受け入れるとともに、診療・検査体制の充実により適切な医療を提供する。また、感染防止対策を徹底し、院内感染の防止を図る。</p> <p>信州医療センターは、県の感染症医療の拠点病院として、感染症に対し適切な診療を提供するほか、感染症発生時に迅速な対応ができるよう定期的に受入訓練を実施するとともに、教育機能の拡充及び医療機関、地域住民への最新情報の発信に努める。</p> <p>【令和4年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染者のうち、高齢者、基礎疾患を有する中等症患者を常時受け入れられるよう体制を整備（信州）</li> </ul>	信州	S	・感染者等の受け入れ					
				項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
				感染者 受入数	328人 延べ3,294日	—	—	208人 延べ2,314日	157.7% 142.4%
				疑い患者 受入数	4人 延べ81日	—	—	2人 延べ2日	200.0% 4,050.0%
				計	332人 延べ3,375日	—	—	210人 延べ2,316日	158.1% 145.7%
				①県内感染者を積極的に受け入れ、常時入院患者に対応					
				②地域包括ケア病棟を転用し、受け入れを実施					
				・検査実績等					
				検査種類等	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
				PCR検査	1,541件	—	—	1,826件	84.4%
抗原定性検査	5,665件	—	—	3,625件	156.3%				
抗原定量検査	24,419件	—	—	8,240件	296.3%				
計	31,625件	—	—	13,691件	231.0%				
・発熱外来受け入れ									
検査種類等	実績	年度目標	対年度比	前年度実績	対前年度比				
発熱外来受け入れ	9,383件	—	—	4,620件	203.1%				

<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外渡航者外来での海外赴任者等に対するワクチンの予防接種及び帰国後の輸入感染症への対応（同上）</li> <li>・渡航者に対するビジネス PCR 検査やスクリーニング抗原検査を自費診療で行う体制を維持（同上）</li> <li>・第一種感染症指定医療機関として集団発生等に適切に対応するため、受入訓練を実施（同上）</li> <li>・新興感染症に迅速に対応するため、一般病棟の陰圧個室を改修（同上）</li> <li>・住民への新型コロナウイルスワクチン接種に伴う市町村への支援（各病院）</li> </ul>	<p>・ワクチン接種実績</p> <table border="1" data-bbox="936 236 2029 338"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>接種件数</td> <td>3,396 件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>5,072 件</td> <td>67.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【市町村へのワクチン接種支援】</p> <table border="1" data-bbox="936 434 1747 590"> <thead> <tr> <th rowspan="2">市町村名</th> <th rowspan="2">延べ日数</th> <th colspan="2">派遣延べ人数</th> </tr> <tr> <th>医師</th> <th>看護師</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>須坂市</td> <td>41 日</td> <td>41 人</td> <td>41 人</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染拡大防止対策 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 正面玄関での体温測定及び問診によるトリアージを実施</li> <li>② 感染状況に応じた面会の禁止及び制限</li> <li>③ 電話による処方箋の発行</li> <li>④ 感染者・家族のオンライン面会の実施（127回）</li> <li>⑤ 信州医療センター版COVIDロードマップを策定し、感染状況の変化に対応した対策を実施</li> <li>⑥ COVID-19スクリーニング検査の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>老人介護福祉施設利用患者に入院時COVID-19スクリーニング検査を実施</li> <li>職員家族COVID-19陽性者発生時、早期に職員にCOVID-19スクリーニング検査を実施</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>・感染患者等への対応 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 北 6 階結核病棟を転用し、新型コロナウイルス感染症患者の受入れを行った。</li> <li>② 感染者受入れ等の詳細 参照（第1-1-(2)-1）</li> <li>③ 新型コロナ感染患者の振り分け診察を実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>長野医療圏全体（長野市含む）462件</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	接種件数	3,396 件	—	—	5,072 件	67.0%	市町村名	延べ日数	派遣延べ人数		医師	看護師	須坂市	41 日	41 人	41 人
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																		
接種件数	3,396 件	—	—	5,072 件	67.0%																		
市町村名	延べ日数	派遣延べ人数																					
		医師	看護師																				
須坂市	41 日	41 人	41 人																				

			<p>振り分け診察後在宅等での療養となった患者に対し、電話診療を103回実施 また、新たに承認された内服治療薬（ラゲブリオ、パキロビッド）は院内配置が限られたため、須高薬剤師会と連携し院外処方を可能とした。</p> <p>・県民及び県内医療機関等への情報発信等</p> <p>① 各種媒体を活用し、地域住民に向けた新型コロナウイルス感染症及び当院の感染症病棟についての正しい情報を発信</p> <p>② 感染症センターの機能を生かした新型コロナウイルス感染症の診療等に関する情報提供</p> <p>③ 県内医療機関及び福祉施設を対象とした電話及びメールでの相談の実施</p> <p>④ 福祉施設での新型コロナウイルス感染症についての研修会を2回実施</p> <p>⑤ 須坂市地域医療ネットワーク、長野保健所主催研修会をそれぞれ1回実施</p> <p>⑥ 感染対策委員会リンクナース部会にて感染症病棟実施訓練を合計8回実施 延べ114人が参加</p> <p>・その他</p> <p>① ビジネス海外渡航者のためのPCR検査の実施と結果証明書の発行</p> <p>② 海外渡航者外来での海外赴任者等に対するワクチンの予防接種 令和4年度実績 261件 76人</p> <p>③ 世界的な新型コロナウイルス感染症のまん延によって、海外への旅行、留学、赴任が著しく減少したため、ワクチン接種は減少した。</p> <p>④ 新型コロナウイルス感染症の世界的な流行に伴い、複数の国が入国者に対して求めている渡航前のPCR検査と結果証明書の発行を、令和2年11月から実施している。 令和4年度実績 35件</p> <p>⑤ 平日の午前中に検査を受けた場合、翌日10時までに英文の陰性証明書を発行した。</p>												
2	各病院は、新型コロナウイルス感染症重点医療機関及び診療・検査医療機関（駒ヶ	駒ヶ	<p>A</p> <p>感染者等の受入れ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比						
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比										

<p>根を除く。)として、県が実施する感染症対策と連携し感染者を積極的に受け入れるとともに、診療・検査体制の充実により適切な医療を提供する。また、感染防止対策を徹底し、院内感染の防止を図る。</p> <p><b>【令和4年度に推進する事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染防止対策の徹底により、精神疾患を有する新型コロナウイルス感染者（疑い含む）の受け入れ及びデイケアの継続（駒ヶ根）</li> <li>・住民への新型コロナウイルスワクチン接種に伴う市町村への支援（各病院）</li> </ul>	根	<table border="1"> <tr> <td>感染者</td> <td>11人</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>5人</td> <td>220.0%</td> </tr> <tr> <td>受入数</td> <td>延べ89日</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>延べ58日</td> <td>153.4%</td> </tr> <tr> <td>疑い患者</td> <td>1人</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>8人</td> <td>12.5%</td> </tr> <tr> <td>受入数</td> <td>延べ3日</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>延べ23日</td> <td>13.0%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>12人</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>13人</td> <td>92.3%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>延べ92日</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>延べ81日</td> <td>113.6%</td> </tr> </table>	感染者	11人	—	—	5人	220.0%	受入数	延べ89日	—	—	延べ58日	153.4%	疑い患者	1人	—	—	8人	12.5%	受入数	延べ3日	—	—	延べ23日	13.0%	計	12人	—	—	13人	92.3%		延べ92日	—	—	延べ81日	113.6%	<p>・県からの要請を受け、即応病床の増床（2床から8床）に2回対応した。（8月と11月）</p> <p>・上伊那医療圏のみならず他圏域の陽性者患者の入院治療を実施した。</p> <p>検査実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>検査種類</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>PCR検査※</td> <td>849件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>109件</td> <td>778.9%</td> </tr> <tr> <td>抗原定性検査</td> <td>339件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>115件</td> <td>294.8%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,188件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>224件</td> <td>530.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※令和4年1月からPCR検査機器を導入し院内検査を開始。</p> <p>・入院患者に対し、入院前にPCR検査を実施するとともに、診療体制維持のため、感染疑いのあるすべての職員への検査を実施することにより、院内感染の発生を防御した。</p> <p>ワクチン接種実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>住民</td> <td>323件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>387件</td> <td>83.5%</td> </tr> <tr> <td>医療従事者</td> <td>366件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1,136件</td> <td>32.2%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>689件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1,523件</td> <td>45.2%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・西駒郷へワクチン接種のため医師、看護師、薬剤師を4回派遣した。</p> <p>・前年度は地域の医療従事者や医療専門学校へのワクチン接種に対応している。</p> <p>感染拡大防止対策</p>	検査種類	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	PCR検査※	849件	—	—	109件	778.9%	抗原定性検査	339件	—	—	115件	294.8%	計	1,188件	—	—	224件	530.4%	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	住民	323件	—	—	387件	83.5%	医療従事者	366件	—	—	1,136件	32.2%	計	689件	—	—	1,523件	45.2%
		感染者	11人	—	—	5人	220.0%																																																																																
受入数	延べ89日	—	—	延べ58日	153.4%																																																																																		
疑い患者	1人	—	—	8人	12.5%																																																																																		
受入数	延べ3日	—	—	延べ23日	13.0%																																																																																		
計	12人	—	—	13人	92.3%																																																																																		
	延べ92日	—	—	延べ81日	113.6%																																																																																		
検査種類	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																																																																		
PCR検査※	849件	—	—	109件	778.9%																																																																																		
抗原定性検査	339件	—	—	115件	294.8%																																																																																		
計	1,188件	—	—	224件	530.4%																																																																																		
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																																																																		
住民	323件	—	—	387件	83.5%																																																																																		
医療従事者	366件	—	—	1,136件	32.2%																																																																																		
計	689件	—	—	1,523件	45.2%																																																																																		

				<ul style="list-style-type: none"> <li>・院内フェーズに応じて面会を禁止し、オンライン面会を実施した。</li> <li>・来院者への検温を派遣職員により対応した。</li> <li>・院内フェーズに応じて昼食提供なしのデイケアやショートデイケアに変更し対応した。</li> </ul>																																																						
3	<p>同上</p> <p>【令和4年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健所等と連携した新型コロナウイルス感染者の受入れ及び検査体制の維持（阿南）</li> <li>・住民への新型コロナウイルスワクチン接種に伴う市町村への支援（各病院）</li> </ul>	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染者等の受入れ</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>感染者</td> <td>48人</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>49人</td> <td>98.0%</td> </tr> <tr> <td>受入数</td> <td>延べ448日</td> <td></td> <td></td> <td>延べ364日</td> <td>123.1%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染者の受入れ体制 第3病棟にて入院受け入れを行い、飯伊地区外の患者（18.8%）も積極的に受け入れた。</li> <li>・検査実績等</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>検査種類</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>PCR検査</td> <td>2,882件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1,333件</td> <td>216.2%</td> </tr> <tr> <td>抗原定性検査</td> <td>1,636件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>249件</td> <td>657.0%</td> </tr> <tr> <td>発熱外来受入れ</td> <td>2,323人</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>515人</td> <td>451.1%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染者数の増加に伴い、日曜日にも検査を実施したため、発熱外来受診者数が増加した。</li> <li>・新型コロナワクチン接種 下伊那南部地区の診療所医師及び行政と協同して新型コロナウイルスワクチン接種を実施</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 住民集団接種</li> <li>② 医療従事者への接種</li> <li>③ 8つの社会福祉施設での接種</li> <li>④ 外出が困難な患者への訪問接種</li> <li>⑤ 乳幼児・小児への接種</li> </ol> <table border="1"> <thead> <tr> <th>接種対象</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	感染者	48人	—	—	49人	98.0%	受入数	延べ448日			延べ364日	123.1%	検査種類	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	PCR検査	2,882件	—	—	1,333件	216.2%	抗原定性検査	1,636件	—	—	249件	657.0%	発熱外来受入れ	2,323人	—	—	515人	451.1%	接種対象	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比						
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																																					
感染者	48人	—	—	49人	98.0%																																																					
受入数	延べ448日			延べ364日	123.1%																																																					
検査種類	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																																					
PCR検査	2,882件	—	—	1,333件	216.2%																																																					
抗原定性検査	1,636件	—	—	249件	657.0%																																																					
発熱外来受入れ	2,323人	—	—	515人	451.1%																																																					
接種対象	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																																					

				一般住民	3,652 件	—	—	7,682 件	47.5%																														
				医療従事者	416 件	—	—	905 件	46.0%																														
				乳幼児・小児	531 件	—	—	74 件	717.6%																														
				計	4,599 件	—	—	8,661 件	53.1%																														
				<p>・感染拡大防止対策</p> <p>① 新型コロナウイルス感染症感染対策マニュアルの策定</p> <p>② 入館時の体温測定・問診・トリアージの実施</p> <p>③ 入院患者に対する面会の制限及び代替手段としてオンライン面会を実施（9回）</p> <p>④ 発熱患者に対する問診を非接触で行うWeb問診を導入（28回）</p>																																			
4	<p>同上</p> <p>【令和4年度に推進する事項】</p> <p>・感染者の受入れ、発熱外来及び自費での新型コロナウイルス検査の継続（木曽）</p> <p>・住民への新型コロナウイルスワクチン接種に伴う市町村への支援（各病院）</p>	木 曽	S	<p>・感染者等の受入れ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>感染者 受入数</td> <td>109 人 延べ 893 日</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>34 人 延べ 259 日</td> <td>320.6% 344.8%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>109 人 延べ 893 日</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>34 人 延べ 259 日</td> <td>320.6% 344.8%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・感染者の受入れ体制</p> <p>県のコロナ病床確保の要請により、病棟を新型コロナウイルス感染症へ転用し確保病床数を増強、前年度と比べ3倍以上の患者を受入れた。</p> <p>・検査実績等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>検査種類</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>PCR(LAMP) 検査</td> <td>595 件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>433 件</td> <td>137.4%</td> </tr> </tbody> </table>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	感染者 受入数	109 人 延べ 893 日	—	—	34 人 延べ 259 日	320.6% 344.8%	計	109 人 延べ 893 日	—	—	34 人 延べ 259 日	320.6% 344.8%	検査種類	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	PCR(LAMP) 検査	595 件	—	—	433 件	137.4%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																		
感染者 受入数	109 人 延べ 893 日	—	—	34 人 延べ 259 日	320.6% 344.8%																																		
計	109 人 延べ 893 日	—	—	34 人 延べ 259 日	320.6% 344.8%																																		
検査種類	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																		
PCR(LAMP) 検査	595 件	—	—	433 件	137.4%																																		



				<table border="1"> <tr> <td>P C R (IDNOW)検査</td> <td>2,891 件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1,371 件</td> <td>210.9%</td> </tr> <tr> <td>抗原定性検査</td> <td>229 件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>0 件</td> <td>皆増</td> </tr> <tr> <td>抗原定量検査</td> <td>5,786 件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>3,527 件</td> <td>164.0%</td> </tr> <tr> <td>発熱外来受入れ</td> <td>3,424 件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>2,298 人</td> <td>49.0%</td> </tr> </table>	P C R (IDNOW)検査	2,891 件	—	—	1,371 件	210.9%	抗原定性検査	229 件	—	—	0 件	皆増	抗原定量検査	5,786 件	—	—	3,527 件	164.0%	発熱外来受入れ	3,424 件	—	—	2,298 人	49.0%
P C R (IDNOW)検査	2,891 件	—	—	1,371 件	210.9%																							
抗原定性検査	229 件	—	—	0 件	皆増																							
抗原定量検査	5,786 件	—	—	3,527 件	164.0%																							
発熱外来受入れ	3,424 件	—	—	2,298 人	49.0%																							
				<p>・ワクチン接種実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>住民</td> <td>18 件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>847 件</td> <td>2.1%</td> </tr> <tr> <td>医療従事者</td> <td>929 件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1,799 件</td> <td>51.6%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>947 件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>2,646 件</td> <td>35.8%</td> </tr> </tbody> </table>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	住民	18 件	—	—	847 件	2.1%	医療従事者	929 件	—	—	1,799 件	51.6%	計	947 件	—	—	2,646 件	35.8%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																							
住民	18 件	—	—	847 件	2.1%																							
医療従事者	929 件	—	—	1,799 件	51.6%																							
計	947 件	—	—	2,646 件	35.8%																							
				<p>・感染拡大防止対策</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 病院職員（委託業者含む）へのワクチン接種</li> <li>② 木曽郡内町村のワクチン接種への協力</li> <li>③ 発熱外来の継続</li> <li>④ 自費でのウイルス検査の実施</li> <li>⑤ 正面玄関における体温計測及び体調確認の実施</li> <li>⑥ 入院患者の面会禁止を徹底</li> <li>⑦ 入院患者への術前抗原定量検査を実施</li> <li>⑧ 面会禁止となっている入院患者にオンラインによる面会及び窓越し面会を実施</li> <li>⑨ 感染対策物品（マスク、ガウン等）の購入と適正な在庫管理</li> </ol>																								
5	同上 【令和4年度に推進する事項】	こ ど	A	<p>・感染者等の受入れ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																		
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																							

<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児の新型コロナウイルス感染者の受入体制の継続、増設した感染隔離室を活用した感染防止対策の徹底及び検査体制の維持（こども）</li> <li>・基礎疾患のある5歳から11歳の小児への新型コロナウイルスワクチン接種を実施（同上）</li> <li>・住民への新型コロナウイルスワクチン接種に伴う市町村への支援（各病院）</li> </ul>	も		感染者	55人	-	-	3人	1833.3%
			受入数	延べ 247日			延べ 11日	2245.5%
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染者の受入れ体制 <ul style="list-style-type: none"> <li>○第7波～8波の大流行に伴い、職員約60人がCOVID-19に罹患した。院内感染例は14件起きたが、感染源1人→感染者1人程度がほとんどである。第8波では2件（+院内保育所で1件）のクラスターが発生したが、いずれも小規模で一次感染のみ。病棟閉鎖・入院制限は不要であった。</li> </ul> </li> <li>・感染拡大防止対策 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 外来付き添い者、面会者を全面禁止にしないまま、持ち込み防止体制を整備した上で、小児患者にとって必要な家族の面会ができる体制を維持した。患者家族からの院内感染なし。</li> <li>② 電話診療の継続</li> <li>③ iPadを活用した院内のテレビ電話による面会の継続</li> <li>④ 全職員対象（委託職員も含む）研修会として、新型コロナウイルス感染症と感染対策の基本に関するWeb研修会を実施。その受講率は2回とも100%</li> <li>⑤新型コロナウイルス感染症対策マニュアルの適宜改訂、それぞれの部署独自のマニュアルの作成とシミュレーションの継続を支援</li> <li>⑥安曇野赤十字病院の要請を受けて、臨時の発熱外来を開設した(8月)</li> <li>⑦院外の施設等（加算連携の2施設、成人の精神科施設、養護学校、医療福祉施設、乳児院、県からの指導依頼など）からのCOVID-19感染対策等の依頼にすべて応え、研修会の実施や相談対応を行った。今後も地域支援を継続する。</li> <li>⑧外来エリアで適切な感染対策を実践するため、5月から北棟に新設した外来隔離診察室の運用を開始した。</li> </ol> </li> </ul>					

			<p>・検査実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>検査種類</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>P C R検査</td> <td>3,124 件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1,082 件</td> <td>288.7%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・およそ1年間実施した新型コロナウイルス感染症入院時検査により、P C R検査は大幅に増加した。</p> <p>・ワクチン接種実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>住民</td> <td>221 件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>171 件</td> <td>129.2%</td> </tr> <tr> <td>うち基礎疾患がある小児患者</td> <td>91 件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>71 件</td> <td>128.2%</td> </tr> <tr> <td>医療従事者</td> <td>927 件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1,693 件</td> <td>54.8%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,148 件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1,864 件</td> <td>61.6%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・安曇野市、山形村からの依頼に応じてワクチン接種に必要な人員を派遣した。</p> <p>支援の実績（延べ人数）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>依頼主</th> <th>回数</th> <th>医 師</th> <th>看護師</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>安曇野市</td> <td>25</td> <td>54</td> <td>61</td> <td>115</td> </tr> <tr> <td>山形村</td> <td>15</td> <td>15</td> <td>0</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>40</td> <td>69</td> <td>61</td> <td>130</td> </tr> </tbody> </table>	検査種類	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	P C R検査	3,124 件	—	—	1,082 件	288.7%	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	住民	221 件	—	—	171 件	129.2%	うち基礎疾患がある小児患者	91 件	—	—	71 件	128.2%	医療従事者	927 件	—	—	1,693 件	54.8%	計	1,148 件	—	—	1,864 件	61.6%	依頼主	回数	医 師	看護師	計	安曇野市	25	54	61	115	山形村	15	15	0	15	計	40	69	61	130
検査種類	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																																												
P C R検査	3,124 件	—	—	1,082 件	288.7%																																																												
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																																												
住民	221 件	—	—	171 件	129.2%																																																												
うち基礎疾患がある小児患者	91 件	—	—	71 件	128.2%																																																												
医療従事者	927 件	—	—	1,693 件	54.8%																																																												
計	1,148 件	—	—	1,864 件	61.6%																																																												
依頼主	回数	医 師	看護師	計																																																													
安曇野市	25	54	61	115																																																													
山形村	15	15	0	15																																																													
計	40	69	61	130																																																													
6	<p>イ 精神医療</p> <p>こころの医療センター駒ヶ根は、県の政策的・先進的な精神医療を担う病院として、次に掲げる医療を提供する。</p>	駒ヶ根	<p>A</p> <p>・24時間365日、重症精神科急性期患者の受入れに対応する常時対応型施設として常に空床2床を確保し、精神保健指定医等による診療応需態勢を整備した。（国の精神科救急医療体制整備事業）また、措置入院を23人受け入れた。（3年度23人）</p> <p>・救急外来やウォークイン患者に対して、緊急性の評価を速やかに行い、的確な入院治療</p>																																																														

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神科救急医療の常時対応型病院として24時間体制の精神科救急・急性期医療を行うとともに、m-E C T（修正型電気痙攣療法）等の先進的な専門医療を充実する。</li> </ul> <p>【令和4年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療安全の向上と治療の充実のため、r T M S（反復経頭蓋磁器刺激療法）の機器を新たに導入し治療を開始</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>を開始した。</li> <li>・医療機関の診察時間外への緊急相談に対応する「精神障がい者在宅アセスメントセンター」への相談件数は321件であった。（3年度310件）</li> <li>・治療抵抗性や難治性疾患患者へのクロザピンの投薬（実人数16人）、m-E C T治療（実施件数322件）等の専門医療を提供した。</li> <li>・「治療抵抗性うつ病」の患者に対し、薬物療法ではない新たな治療の選択肢として、侵襲性の低い治療法となるr T M S（反復経頭蓋磁気刺激療法）を7月から開始した。（県内2施設目）患者4人に対し、最大6週間の治療を行った。極めて適用範囲が狭い治療のため、長野県、近隣県への広報活動などにより新規患者を確保する。</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・思春期、青年期の精神疾患の専門医療機能を充実させる。</li> </ul> <p>【令和4年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・思春期、青年期までの切れ目のない医療提供のため、子どものこころ総合医療センター（専門病棟新設）、思春期デイケア（小規模デイケア）の開設に向けた基本計画の策定</li> </ul>	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・思春期、青年期精神科医療の充実のため、信州大学医学部と連携した「児童・思春期、青年期精神科医療モデル病院」を目指して、開設予定である「子どものこころ総合医療センター」の基本計画を策定した。計画には、現状や課題、ニーズを整理し「専門医療、次世代型デイケア、人材育成、支援者支援」の4つの柱を掲げ、センターに必要な入院・外来、その他機能や部門別計画、収支計画を盛り込んだ。</li> <li>・基本計画の概要については知事の下承を得られたことで、次期「長野県総合5か年計画」にセンター開設について記載された。</li> <li>・子どものこころ総合医療センターの開設に向け、院内検討チームを中心にセンターの部門別計画、既存病棟の病床転換、後利用等の協議を職員一体となり進めた。</li> <li>・児童精神科病棟内に看護師を中心とする「検討ユニット」を立ち上げ、センター開設後の組織、運営体制を基本計画に反映させた。</li> </ul>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アルコール・薬物・ギャンブル等多様な依存症の専門医療機能の強化や医療従事者等への研修の充実を図るほか、ゲーム・ネット依存症の診療体制を整備する。</li> </ul> <p>【令和4年度に推進する事項】</p>	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネット・ゲーム依存症治療について、当院独自の治療の枠組みを確立させ、令和4年4月から県内で初めて家族向け学習プログラムを開始した。（全12回開催、27家族34人参加）</li> <li>・インターネット・ゲーム依存症の入院・外来治療プログラムは、令和4年5月から開始し、8人（入院3人、外来5人）に対して治療プログラムを行った。患者を外来受診か</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度から開発に取り組んだゲーム・ネット依存症治療プログラムを開始し、治療体制を整備</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>ら治療プログラムに円滑に繋げていく。</li> <li>・「依存症で悩む家族のためのプログラム（CRAFT）」の参加家族は12人、対象患者は10例（アルコール5例、薬物1例、ギャンブル4例）、内6例が就職や当院の依存症プログラムへの参加など、依存症問題の解消に繋がった。</li> </ul>
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心身喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律（平成15年法律第110号）に基づく指定入院・指定通院医療機関を運営し、同法の処遇対象者が社会復帰するために必要な医療を行う。</li> </ul>	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定入院医療機関として、厚生労働省が示す医療観察法各種ガイドラインに沿い、対象者10人の社会復帰に向けた治療を進めた。</li> <li>・新たな入院の受入れは3人、入院処遇の終了者（退院）は2人、居住予定地への転院は2人、1日平均数は6.6人であった。（3月末現在：入院6人）</li> <li>・全国的に医療観察法の病床が不足しているため、一般病床で医療観察法の対象者を受け入れる特定病床を令和4年3月14日から開始し、2人が対象となった。</li> <li>・指定通院医療機関として、対象者2人の治療を行った。</li> </ul>
10	<p>【令和4年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神科訪問看護ステーションを開設し訪問看護機能を強化するとともに、地域クリニック及び行政機関との連携を強化</li> </ul>	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神科地域包括ケアシステムを推進するため、専門性の高い精神科訪問看護サービスを提供する訪問看護ステーション「こまほす」を開設した。（令和4年8月）</li> <li>・開設にあたって地域の市町村、近隣のクリニックを訪問し、開設後の連携について協議した。その結果、クリニックから新たに5人の紹介があった。</li> <li>・4月から、訪問看護のニーズにより対応するため、訪問看護師の夜勤免除を行ったほか、エリア別に担当者を配置し、効率的に訪問を行い件数が増加した。（1日平均10件）</li> <li>・参照（p.2-No.6）</li> </ul>

11	<p>ウ 高度小児医療、周産期医療</p> <p>こども病院は、県における高度小児医療・総合周産期医療を担う病院として、次に掲げる医療を提供する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高度小児医療の中核病院として診療機能を強化させるとともに、全県的立場で小児重症患者の医療体制を充実する。</li> </ul>	こども	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参照 (p.5-No.5)</li> </ul>																														
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児在宅医療の支援体制の充実のほか、信州大学医学部附属病院等と連携した成人移行期患者に対する継続的な医療の充実に取り組む。</li> </ul>	こども	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長野県保健・疾病対策課、信州大学医学部附属病院信州がんセンター、当院移行期医療支援センターで共同して移行期医療支援体制検討会を5回開催。2月には、合同でシンポジウム「長野県の移行期医療における専門医療と地域の壁」を開催し、県内の移行期医療体制構築に向けて情報共有を行った。</li> <li>・移行期支援外来の介入件数は、1173件であった。外来だけではなく入院中からの介入件数も増加した。</li> <li>・移行医療支援外来の介入件数は、31件であった。</li> </ul> <p>(介入患者数)</p> <table border="1" data-bbox="936 911 2033 1010"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延べ患者数</td> <td>416人</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>283人</td> <td>147.0%</td> </tr> </tbody> </table>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	延べ患者数	416人	—	—	283人	147.0%																		
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																												
延べ患者数	416人	—	—	283人	147.0%																												
13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県の総合周産期母子医療センターとして、県内産科医療機関との連携を図りながら胎児診療を含む周産期医療の維持・向上に努める。</li> </ul>	こども	<p>S</p> <p><b>【高度検査機器を活用した遺伝子検査の実施】</b></p> <table border="1" data-bbox="936 1094 2033 1380"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>遺伝学的検査</td> <td>20件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>22件</td> <td>91.0%</td> </tr> <tr> <td>腫瘍関連検査</td> <td>60件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>45件</td> <td>133.3%</td> </tr> <tr> <td>病原体遺伝子検査</td> <td>35件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>71件</td> <td>49.3%</td> </tr> <tr> <td>SARS-COV2検査</td> <td>3,124件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1,082件</td> <td>288.7%</td> </tr> </tbody> </table>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	遺伝学的検査	20件	—	—	22件	91.0%	腫瘍関連検査	60件	—	—	45件	133.3%	病原体遺伝子検査	35件	—	—	71件	49.3%	SARS-COV2検査	3,124件	—	—	1,082件	288.7%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																												
遺伝学的検査	20件	—	—	22件	91.0%																												
腫瘍関連検査	60件	—	—	45件	133.3%																												
病原体遺伝子検査	35件	—	—	71件	49.3%																												
SARS-COV2検査	3,124件	—	—	1,082件	288.7%																												

				FA検査	52件	—	—	34件	152.9%
				新生児マススクリーニング検査	13,485件	—	—	13,710件	98.4%
				オプション新生児スクリーニング検査	5,685件	—	—	—	皆増
				<p>・10月から当院の新規事業として、県からの委託事業である先天性代謝異常等検査の追加検査として原発性免疫不全症及び脊髄性筋萎縮症に対するオプション新生児スクリーニング検査を開始し、早期診断・早期治療の体制を整備。先天性代謝異常等検査対象者の約90%が同検査を希望し、県内産科医療機関との良好な連携により高い受検率を実現した。</p> <p>・3月8日のSARS-CoV-2入院時検査の終了と同時に、COVID-19感染症診断検査は抗原定性検査に変更した。</p>					
14	<p><b>【令和4年度に推進する事項】</b></p> <p>・増設した新外来診察室を活用して増加傾向の外来患者への診療体制を強化するとともに、小児アレルギー患者や成人への移行期患者などの高まる診療ニーズに対応</p>	こ ど も	A	<p><b>【増改築工事の実施状況】</b></p> <p>・5月に改修工事を完了し、新外来診察室の運用を開始。増加傾向の外来患者への診療体制を強化し、小児アレルギー患者や成人移行期患者などの高まる診療ニーズに対応</p> <p>・小児の新型コロナウイルス感染者の受入体制を継続し、増設した感染隔離室を活用した感染防止対策の徹底及び検査体制を維持</p>					

15	<p>【令和4年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小児がんセンターを新たに設置し、院内の小児がん診療体制の整備・強化を図るとともに、日本小児血液がん学会の認定研修施設（親施設）の認定を受け、関連研修施設である信州大学医学部附属病院と連携しながら計画的な人材育成を推進</li> </ul>	こども	A	<p>【小児がんセンターの設置と活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国の小児がん拠点病院・連携病院事業により長野県の小児がん連携病院として長野県立こども病院と信州大学附属病院が指定された。</li> <li>・高度化している小児がん治療を患者へ安全かつ効率的に提供できるよう、4月に小児がんセンターを開設し、小児がん・血液がんに対して診療部、薬剤部、医療技術部、看護部、事務部など関連する部門が一体となり連携して最善の医療が提供できる体制を整備した。</li> <li>・今後、妊孕性温存療法、陽子線治療、ガンマナイフ治療、細胞治療など、最適な治療が提供できるように他施設と連携するとともに、小児腫瘍疾患の治療に関する多施設共同特定臨床研究、治験への参加及び観察研究などの臨床研究にも積極的に参加していく。</li> </ul>
16	<p>【令和4年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放射線治療装置（リニアック）を更新し、信州大学医学部附属病院と連携して全県的な小児がん治療体制の充実を図るとともに、地域医療支援病院として地域医療機関からの紹介による成人がん患者を対象とした放射線治療を拡充</li> </ul>	こども	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参照（p.11-No.18）</li> </ul>
17	<p>【令和4年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童精神科の常勤医師着任に伴い、外来診療やリエゾン体制等を整備し、多職種連携・チーム医療を推進し、院内外の児童精神科充実のニーズに対応</li> </ul>	こども	A	<p>【児童精神科の診療体制整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月の常勤医師着任に伴い、外来診療やリエゾン体制※等を整備し、院内外の児童精神科充実のニーズに対応 <ul style="list-style-type: none"> <li>※リエゾン体制：身体疾患で入院中の患者が精神心理面での問題を抱えた場合に、担当各科の医師や看護師等が多職種で連携して支援を行う体制</li> </ul> </li> <li>・発達障害専門外来学習会において、県内の幼稚園、小・中学校教諭及び保育士を対象とした「発達に課題のあるこどもへのかかわり方」について講演を実施（受講者数182</li> </ul>



				人)
18	<p>【令和4年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小児疾患動向の変化や地域から当院に期待される診療ニーズ等を踏まえ、更なる診療・ケアの質向上を図るため、病床運用の効率化と重点化を目的とした病棟再編成を検討</li> </ul>	こども	A	<p>【病床運用の効率化と重点化を目的とした病棟再編成の検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小児疾患動向の変化や地域から当院に期待される診療ニーズ等を踏まえ、更なる診療・ケアの質向上を図るため、病床運用の効率化と重点化を目的とした病棟再編成・集約化を実施（2月より運用病床163床へ変更）</li> <li>・病院将来構想検討を進めるため患者及び家族との座談会を2月25日に開催（患者及び家族7組10人、一般107人が参加）</li> </ul>
19	<p>【令和4年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度に開設した各センターについての取組を推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>〔小児アレルギーセンター〕</li> <li>県から指定された「アレルギー疾患医療拠点病院」として、重症・難治性アレルギー疾患患者の診療、地域への情報提供、人材育成、疫学や臨床研究への協力等を推進</li> <li>〔成人先天性心疾患センター〕</li> <li>日本成人先天性心疾患学会認定の「連携修練施設」として、「総合修練施設」である信州大学と連携した成人先天性心疾患の診断・治療、人材育成と臨床研究の支援を推進</li> <li>〔移行期医療支援センター〕</li> <li>他医療機関との連携強化による県内の移</li> </ul> </li> </ul>	こども	A	<p>【小児アレルギーセンターの活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長野県から指定されたアレルギー疾患医療拠点病院の責務として重症・難治性アレルギー疾患患者の診療、地域住民に対する情報提供、アレルギー医療に関わる医療従事者の人材育成、疫学や臨床研究への協力等を実施した。（人材育成）</li> <li>・県内小学校の教員に対して、アレルギーに関する研修を10回実施</li> <li>・外来及び入院時の食物経口負荷試験に関する研修に他院から医師20人受入（情報提供）</li> <li>・医療従事者、学校関係者、保健師などを対象とした小児アレルギー相談対応（相談件数8件）</li> <li>・10月、11月に市教育委員会との共催による地域住民に対する食物アレルギーの講習を実施（松本・上田）（疫学・臨床研究の推進）</li> <li>・6月に小児科学会地方会で小児アレルギー診療の現状調査結果について発表</li> <li>・12月に全国アレルギー疾患医療拠点病院の職員とその家族を対象とした全国疫学調査に参加</li> </ul>

	<p>行期医療体制の整備、小児慢性疾患全般に対する小児期から成人期への移行医療を円滑に推進</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・厚生労働行政推進調査事業免疫・アレルギー疾患政策研究事業「各都道府県におけるアレルギー疾患医療連携体制構築に関する研究」にアレルギー疾患医療拠点病院として研究分担者に参加</li> <li>(その他)</li> <li>・長野県アレルギー疾患医療連絡会議に委員として参加 (1月)</li> <li>・全国アレルギー疾患医療拠点病院連絡会議に参加 (2月)</li> </ul> <p><b>【成人先天性心疾患センター】</b></p> <table border="1" data-bbox="934 520 2022 842"> <thead> <tr> <th>(成人先天性心疾患に対する診療) 診断・治療実績</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>カテーテル検査</td> <td>19件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>37件</td> <td>51.4%</td> </tr> <tr> <td>カテーテル治療</td> <td>16件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>22件</td> <td>72.7%</td> </tr> <tr> <td>心臓大血管手術</td> <td>5件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>6件</td> <td>83.3%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本成人先天性心疾患学会認定の「連携修練施設」として、同学会より「総合修練施設」に認定されている信州大学医学部附属病院と連携し、成人先天性心疾患の診断・治療を行うとともに、人材の育成と臨床研究を支援</li> <li>・信州大学医学部附属病院成人先天性心疾患センター、県内基幹施設循環器グループとの合同カンファランスを7回開催</li> </ul> <p><b>【移行期医療支援センター】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年4月に開設。小児慢性疾患全般に対する小児期から成人期への移行医療を円滑に進めるため病院全体でサポートする体制を構築し外来枠を増枠 (支援件数31件) (連絡会議・研究会)</li> <li>・長野県保健・疾病対策課、信州大学医学部附属病院信州がんセンター、当院移行期医療支援センターで共同して移行期医療支援体制検討会を開催。新たなメンバーとして成</li> </ul>	(成人先天性心疾患に対する診療) 診断・治療実績	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	カテーテル検査	19件	—	—	37件	51.4%	カテーテル治療	16件	—	—	22件	72.7%	心臓大血管手術	5件	—	—	6件	83.3%
(成人先天性心疾患に対する診療) 診断・治療実績	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																						
カテーテル検査	19件	—	—	37件	51.4%																						
カテーテル治療	16件	—	—	22件	72.7%																						
心臓大血管手術	5件	—	—	6件	83.3%																						

		<p>人診療科医も参加し、5回開催することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2月に、『長野県の移行期医療における専門医療と地域の壁』をテーマにシンポジウムを開催し、県内の移行医療体制構築に向け情報共有を行った。</li> </ul> <p>(就学・就労支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小児慢性疾患患者の準備性・社会性を整えるため、小学校入学前、中学卒業前に知能、発達検査を行い、患者の適性に配慮した就学・就労を目指した支援を患者・家族に実施（就労支援：個別相談延べ6人・就労支援セミナー2回37人、学習サポート：延べ21人）</li> </ul> <p><b>【ニューロケア（神経治療）センターの活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ITB（バクロフェン髄注療法）の新規埋込を5人に実施し、毎年増加している。</li> <li>・VNS（迷走神経刺激療法）新規埋込2人、ジェネレーターの交換2人で実施。</li> <li>・ロボットスーツHALの定期実施者は8人となった。また、SSサイズのデモンストレーションを10人に対して行い、体験した患者からは前向きな意見を聴取できた。</li> <li>・新規ロボットスーツCuraraの共同開発チームを立ち上げた。</li> <li>・脊髄性筋萎縮症に対する新規治療は継続できている。当院で新生児スクリーニングを開始し、90%の同意率で進められており、より早期からの治療が可能となった。</li> <li>・重症心身障害児の側弯症手術の開始に向けてWGを立ち上げ、院内多職種及び信州大学医学部附属病院整形外科とミーティングにより準備を進め、10月から手術を開始（10月～3月に5例実施）</li> <li>・長野県医療的ケア児支援センター主催の研修会で、ニューロケアセンターの機能について講演し、地域の支援者や教育者向けに啓発した。東京で開催された脊髄性筋萎縮症に対する講演会と、長野県で開催されたバクロフェン髄注療法の研究会で、当センターの活動を全国の医療者に向けて紹介した。</li> </ul> <p>(代表的な治療法と症例)</p>
--	--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

				代表的な治療法	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比												
				バクロフェン持続髄注療法	手術5件 トライアル8件	—	—	手術2件 トライアル4件	250.0% 200.0%												
				迷走神経刺激療法	新規3件	—	—	新規1件	300.0%												
				ロボットスーツHAL療法	76件	—	—	97件	78.4%												
				ヌシネルセン髄注療法	7件	—	—	11件	63.6%												
20	<b>【令和4年度に推進する事項】</b> ・小児の先制医療の推進（小児がん経験者の晩期合併症早期発見のための検診の充実）	こども	A	<b>【長期フォローアップ外来】</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>長期フォローアップ外来</td> <td>77人</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>68人</td> <td>113.2%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・小児がん経験者の晩期合併症早期発見のための長期フォローアップ外来を推進するとともに、移行期医療支援センターと協力し他医療機関との連携を強化した。</p> <p><b>【新生児期からの先制医療】</b></p> <p>・”Family Centered Care”（父母がわが子の診療に参加できる診療体制）の実施は、新生児の治療および発育経過に大きなメリットがあると報告されている。新生児科では父母の同意のもと、”Family Centered Care”を取り入れた診療をスタートさせている。</p> <p><b>【臨床研究】</b></p> <p>・およそ500人の新生児および小児の脂質分析・リポ蛋白機能解析を実施した。現在、データを解析中であり、その結果として必要とされる追加実験を実施中である。今年度末を目標に英文専門誌への投稿を予定している。</p>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	長期フォローアップ外来	77人	—	—	68人	113.2%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																
長期フォローアップ外来	77人	—	—	68人	113.2%																

21	<p><b>【令和4年度に推進する事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当院の得意分野を充実させ、最近の小児患者のニーズに対応した診療を推進（例：成育女性科、あたまの形外来）</li> </ul>	こども	A	<p><b>【あたまの形外来】</b></p> <table border="1" data-bbox="936 236 2022 480"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者数</td> <td>686人</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>561人</td> <td>122.3%</td> </tr> <tr> <td>新患者数</td> <td>93人</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>121人</td> <td>76.9%</td> </tr> <tr> <td>矯正用ヘルメット作成数</td> <td>98件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>71件</td> <td>138.0%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・診療開始後2年半を経過し、広報やSNSなどを通じた頭蓋変形に対する治療有効性、県内外の関連施設に対する当院での活動に対する認知度が上がり患者数が増加した。</li> <li>・今後の患者数増加を見据えた専門外来担当医師を育成するため、国立成育医療研究センターでの頭蓋形状誘導療法研修会を受講した。</li> </ul> <p><b>【形成外科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度に引き続き先天性眼瞼下垂に関する講演会を1月に行い、52組の家族が参加した。（昨年度は46組参加）同講演参加者の外来予約開始を令和5年5月から開始した。</li> <li>・眼瞼下垂術後患者に対するオンライン診療を1月より開始した。</li> <li>・漏斗胸に関しては、年々増加している至適年齢（10-15歳）を超えた時期における治療法について検討し、新たな治療体制を確立して6例の治療を施行した。令和5年度には同様の患者13人を治療予定である。</li> </ul> <p><b>【成育女性外来】</b></p> <table border="1" data-bbox="936 1050 2022 1174"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>成育女性外来患者数</td> <td>163件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>131件</td> <td>124.4%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産科外来で適宜対応していた婦人科診療について院内に周知を行い、月経異常・無月経・月経痛などの症状で悩む患者及びその家族をケアし、治療や治療マネジメントを実施。院内認知が進み紹介元診療科も拡大した結果、新規患者の紹介数が増加した。</li> <li>・新たに血液腫瘍科からの依頼で血友病保因者の婦人科的なケアを開始した。</li> </ul>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	患者数	686人	—	—	561人	122.3%	新患者数	93人	—	—	121人	76.9%	矯正用ヘルメット作成数	98件	—	—	71件	138.0%	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	成育女性外来患者数	163件	—	—	131件	124.4%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																			
患者数	686人	—	—	561人	122.3%																																			
新患者数	93人	—	—	121人	76.9%																																			
矯正用ヘルメット作成数	98件	—	—	71件	138.0%																																			
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																			
成育女性外来患者数	163件	—	—	131件	124.4%																																			

**【周術期術前外来】**

項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
患者数	266人	—	—	62人	429.0%

患者内訳（眼科14人、麻酔科外来252人）

- ・毎週月曜日の麻酔科外来に付き添い、気道評価を行う術前オリエンテーション実施は定着したが、現在の対応範囲（麻酔科外来と眼科を中心とした依頼患者）では、全体の麻酔手術患者の2割に満たないため、今後、患者サポートセンターと協働しながら、術前に行うべき指導や説明などを見直し、患者・家族の支援体制を整えていく必要がある。

**【薬剤師外来】**

項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
持参薬なし面談 件数	597件	—	—	633件	48.1%
薬剤鑑別件数	809件	—	—	792件	105.9%
計	1,406件	—	—	1,425件	98.7%

- ・周術期薬剤管理業務のプロトコルに基づき、手術前中止薬が適正に管理されている。
- ・薬剤師の鑑別により周術期の副作用を回避できた事例が3件あった。

22	<p>エ がん医療</p> <p>質の高いがん医療を提供するため、がん診療連携拠点病院との連携を強化し、がん診療機能の向上に努める。</p> <p>信州医療センターは、内視鏡センターの充実強化を図り、木曽病院は、地域がん診療病院として、がん患者の診療及び相談支援体制の充実に努める。</p> <p>【令和4年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピロリ菌専門外来の利用促進と検査の積極的な広報</li> </ul>	信州	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・須高地域の市町村がん検診事業における対策型胃内視鏡検診の受託継続 令和4年度受託件数 452件（令和3年度 339件）</li> <li>・COVID-19感染対策を継続しながら内視鏡件数を伸ばしている。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="936 331 2024 480"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>内視鏡検査件数</td> <td>6,836件</td> <td>8,000件</td> <td>85.5%</td> <td>6,657件</td> <td>102.7%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間ドック受け入れ制限はなく、COVID-19感染対策を継続しながら受診者数を伸ばしてきた。対策型胃内視鏡検診においても6月から実施した。そのため前年度より実績を伸ばすことができた。</li> <li>・ピロリ菌抗体測定検査についての積極的広報の実施</li> </ul> <table border="1" data-bbox="936 715 2024 1096"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>健康管理センターにおける抗体測定検査件数</td> <td>93件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>80件</td> <td>116.3%</td> </tr> <tr> <td>ピロリ菌専門外来への紹介件数</td> <td>31件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>39件</td> <td>79.5%</td> </tr> <tr> <td>うちピロリ菌専門外来での受診件数</td> <td>21件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>24件</td> <td>87.5%</td> </tr> </tbody> </table>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	内視鏡検査件数	6,836件	8,000件	85.5%	6,657件	102.7%	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	健康管理センターにおける抗体測定検査件数	93件	—	—	80件	116.3%	ピロリ菌専門外来への紹介件数	31件	—	—	39件	79.5%	うちピロリ菌専門外来での受診件数	21件	—	—	24件	87.5%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																		
内視鏡検査件数	6,836件	8,000件	85.5%	6,657件	102.7%																																		
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																		
健康管理センターにおける抗体測定検査件数	93件	—	—	80件	116.3%																																		
ピロリ菌専門外来への紹介件数	31件	—	—	39件	79.5%																																		
うちピロリ菌専門外来での受診件数	21件	—	—	24件	87.5%																																		

23	<p>同上</p> <p><b>【令和4年度に推進する事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歯科口腔外科の診療を週1回から2回とし、診療機能を充実</li> </ul>	木曾	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域がん診療病院として、がん相談支援センターへ専従職員1人を引き続き配置した。</li> <li>・緩和ケアチームに認定看護師を引き続き専従で配置した。</li> <li>・信州大学医学部附属病院での症例検討会への定期的な参加及び信州大学がんセンターから派遣された教授による化学療法、放射線治療、緩和ケア等、病棟・外来での診療・職員への指導等、信州大学医学部附属病院との連携によりがん診療体制を強化した。</li> <li>・令和3年4月に歯科口腔外科を開設し、週1回行っていた診療に関して、令和4年4月からは、診療を週1回から2回とし、診療機能を充実した。</li> <li>・コロナの影響で終末期を在宅で看取るため、訪問診療を充実した。</li> <li>・がん患者家族への診断時からの早期介入を行った。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="936 619 2018 767"> <thead> <tr> <th>相談実績</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>がん相談支援センター</td> <td>2,064件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1,434件</td> <td>143.9%</td> </tr> </tbody> </table>	相談実績	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	がん相談支援センター	2,064件	—	—	1,434件	143.9%
相談実績	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比											
がん相談支援センター	2,064件	—	—	1,434件	143.9%											
24	<p>こども病院は、小児がん診療機能の向上を図るとともに、小児がん連携病院として、小児がん拠点病院と連携して診療体制の整備に努める。</p> <p><b>【令和4年度に推進する事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小児がんセンターを新たに設置し、院内の小児がん診療体制の整備・強化を図るとともに、日本小児血液がん学会の認定研修施設（親施設）の認定を受け、関連研修施設である信州大学医学部附属病院と連携しながら計画的な人材育成を推進（再掲）</li> </ul>	こども	A	<p><b>【小児がん診療体制の整備】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・信州大学医学部附属病院及び相澤病院とWEBを活用し密に連携し、小児がん治療の体制を構築した。また院内でも診療体制を見直し、小児神経、リハビリテーション科、リハビリテーション技術科と連携し小児から成人まで診療できる体制を整備した。長野県がん診療連絡協議会に参加することが承認され、来年度より活動を行う。</li> </ul> <p><b>【小児がんセンター開設と活動について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページを開設し、こども病院のがん診療について周知を行なった。</li> <li>・療育支援部に小児がん相談窓口の設置とメールによる相談も可能とした。</li> <li>・高次脳機能障害フォローアップ体制の強化を図るため、12月23日付けで長野県立総合リハビリテーションセンターとの移行期医療の連携体制構築に向けた協定書を締結した。</li> </ul>												



<p>・がん患者への適正な生殖医療の提供や就学・就労支援の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北信越小児がんカンファレンス（信州大学、金沢大学、富山大学、新潟大学、新潟がんセンター）を定期開催し、人材育成及び診療レベルの向上を目指した取り組みを始めた。</li> <li>・日本小児がん看護学会認定の小児がん専門看護師の資格を取得した看護師の配置を行なった。</li> <li>・日本小児がん研究グループが行う特定臨床研究に 11 症例を登録し治療を行なった。</li> </ul> <p><b>【長期フォローアップ外来】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期フォローアップ外来の受診者数は 77 人となり、前年度 68 人から増加。</li> <li>・新たな支援として、長野県総合リハビリテーションセンターと連携して、高次脳機能障害のフォローアップ体制を構築し、5 件の紹介を行った。</li> </ul> <p><b>【がん患者への適正な生殖医療の提供、就学・就労支援】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がん医療を推進するため、緩和ケア医療、妊孕性温存や就労支援の実施体制を療育支援部と連携し推進した。</li> <li>・妊孕性温存に関しては、情報提供 6 件、そのうち 1 件が卵子保存を行った。</li> <li>・高校生のオンライン授業に関しては、通信環境を無償で提供する支援を 3 人に実施。</li> <li>・復学支援に関しては、小学生 3 名、保育園 3 名に対応。</li> <li>・ターミナル期を家族で過ごすために 3 家族がファミリールームを利用された。</li> </ul>
-------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 県立病院が担うべき医療等の提供

(3) 災害医療等の提供

〔自己評定〕 B

〔自己評定の理由〕

こころの医療センター駒ヶ根では、D P A T（災害派遣精神医療チーム）の登録機関として、各研修に参加し資格取得と研鑽に務めるとともに令和4年10月には長野県総合防災訓練に参加した。

木曽病院では、松本市で開催された県総合防災訓練に1チームが参加した。また、災害拠点病院としての機能強化のため電子カルテデータの遠隔及び静的バックアップの仕組みを整備した。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第1 1(3) 1	災害医療等の提供 長野県地域防災計画に基づく県立病院の役割を果たすため、木曽病院は災害拠点病院及びD M A T（災害派遣医療チーム）指定病院として、こころの医療センター駒ヶ根はD P	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月5日 新規採用職員及び異動職員向けに防災についてのオリエンテーションを実施した。</li> <li>・4月26日 非常用連絡網メール配信システム「オクレンジャー」を使用し、全職員及び委託業者を対象とした非常招集及び伝達訓練（夜間想定）を実施した。</li> <li>・毎月、採用職員等に対してオクレンジャー登録を促すと同時に、登録状況を確認した。</li> </ul>

	<p>A T（災害派遣精神医療チーム）登録病院として、適時適切な医療活動を行う。</p> <p>他の県立病院においては、関係機関からの要請に応じた職員の派遣や患者の受け入れ等、適切に対応する。</p> <p>各病院は、災害発生時において必要な医療を確実に提供するため、電子カルテデータのバックアップのほか、災害時における医療提供体制を整備する。</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・衛星携帯電話の維持管理のため、トレーニングを兼ねた動作チェックを定期的を実施した。</li> <li>・大規模地震発生に備えて、院内のロッカーやスチール棚等の転倒防止対策について、順次実施した。</li> <li>・病棟個別の取組として看護部災害防災チームが中心となり毎月テーマを持ち学習会を開催した。</li> <li>・10月26日 総合消防・防災訓練を実施し、火災発生時の初期対応の流れなどの行動を確認した。病院職員、委託業者、須坂市消防署等 計52人参加。</li> <li>・11月26日 非常用連絡網メール配信システム「オクレンジャー」を使用し、全職員及び委託業者を対象とした非常招集及び伝達訓練（事前予告なし）を実施した。</li> <li>・11月19日、1月16日、3月4日 在宅医療提供機関におけるBCP策定支援研修に看護部訪問看護室師長、防災担当が参加した。</li> </ul>
2	<p>同上</p> <p>【令和4年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時におけるDMAT（木曽）・DPAT（駒ヶ根）等による適時適切な医療活動</li> </ul>	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DPAT先遣隊隊員技能維持研修に医師、看護師、公認心理師が参加した。</li> <li>・県総合防災訓練(10月23日)に向けて、分科会、全体会議に参加した。また、訓練から振り返り会まで参加した。</li> <li>・長野県DPAT研修会に参加し、7人がローカルDPATとして登録した。</li> </ul>
3	<p>同上</p>	阿南	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災電子カルテのバックアップデータを二次バックアップし、複数世代で管理するシステムの導入検討</li> </ul>
4	<p>同上</p> <p>【令和4年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時におけるDMAT（木曽）・DPAT（駒ヶ根）等による適時適切な医療活動</li> <li>・電子カルテの更新に合わせた遠隔バックアップの開始（木曽）</li> </ul>	木曽	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月に長野県DMAT看護師、業務調整員研修に3人が参加した。</li> <li>・5月の電子カルテ更新に合わせて、電子カルテデータの遠隔及び静的バックアップの仕組みを整備した。</li> <li>・8月に、風水害及び火災時の対応をテーマとした院内訓練を実施した。</li> <li>・8月に県木曽保健所職員を対象としたEMIS操作研修に、DMAT隊員2人を講師として派遣した。</li> <li>・9月に長野県DMAT緊急自動車運転研修に2人が参加し、緊急走行や安全補助要領等の</li> </ul>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>実技を学んだ。</li> <li>・10月に松本市で行われた長野県総合防災訓練に1チーム（5人）参加した。</li> <li>・11月に松本市で行われた長野県DMAT養成研修に参加し、看護師1人、業務調整員2人の新規隊員を増員した。</li> <li>・2月に富山市で行われた中部ブロックDMAT維持研修に、看護師1人、業務調整員2人参加した。</li> <li>・2月に長野県災害医療研修（Web）に参加した。</li> </ul>
5	同上	こ ど も	<p>A</p> <p><b>【災害時医療体制の整備、防災対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時医療体制を整備するため、令和4年11月11日に昨年の結果を踏まえた、病院全体を対象とした大規模災害訓練を行った</li> <li>・年間を通して災害マニュアルの見直しを行った。</li> <li>・災害等による電子カルテシステムダウン時に使用するBCP専用端末による通信確認を、毎月1日から5日の間に実施し、有事に備えた。</li> <li>・次期電子カルテシステム更新時には、厚生労働省の指針に基づいた電子カルテデータのバックアップを行うべく、入札の仕様書に反映させた。</li> </ul>

## 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

### 1 県立病院が担うべき医療等の提供

#### (4) 認知症の専門医療の提供

〔自己評定〕 B

〔自己評定の理由〕

こころの医療センター駒ヶ根では、令和2年4月に開設した「認知症疾患医療センター」において、専門相談や鑑別診断、日常生活支援を開始し、関係機関等と連携して認知症の専門医療・専門相談を提供した。

阿南病院では、高齢者の多い当地域において、地域住民が住み慣れた場所で生活していける居場所づくりや相談から治療につなげる支援を行った。

木曾病院では、認知症疾患医療センター（連携型）の指定を受け、認知症疾患医療センターへの相談窓口として活動を開始した。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果

第1 1(4) 1	<p>認知症の専門医療の提供</p> <p>こころの医療センター駒ヶ根は、認知症疾患医療センターにおいて、地元市町村、関係機関等と連携し、認知症に関する専門医療・専門相談を提供する。</p> <p><b>【令和4年度に推進する事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>認知症医療を推進するため、令和3年度に設置された認知症医療運営会議により、認知症疾患医療センターの運営体制をさらに強化（駒ヶ根）</li> </ul>	駒 ヶ 根	C				前年度実績	対前年度比		
				項目		実績	年度目標	対目標比		
				専門医療相談	電話	753件	—	—	1,198件	62.9%
					面接	488件	—	—	515件	94.8%
					計	1,241件	—	—	1,713件	72.4%
				もの忘れ外来件数		1,700件	—	—	1,903件	89.3%
				うち鑑別診断		104件	—	—	124件	83.9%
				ラウンド件数（延べ実施数）		143件	—	—	113件	126.5%
訪問支援（延べ件数）		17件	—	—	25件	68.0%				
ピア活動（認知症カフェ等参画）		32件	—	—	31件	103.2%				
<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響や専任の相談員の長期療養休暇により、専門医療相談及びもの忘れ外来件数が大きく減少した。</li> <li>当事者、家族、医療介護福祉関係者等からの相談対応を専用電話により行った。</li> <li>医師、保健師、公認心理師など多職種による「もの忘れ外来」を行い、地域包括支援センター、居宅介護事業所等への紹介など医療・介護の連携を進めた。</li> <li>入院患者に対して、多職種による「認知症・高齢者ケアサポートチーム」のラウンドを実施した。</li> <li>認知症医療の一層の推進を図るため「認知症医療運営会議」を3回実施するとともに、連携病院、行政・相談支援機関、福祉・介護機関、家族の会等との「地域連携会議」を行った。</li> <li>認知症地域包括ケア及び地域連携を推進することを目的として、認知症疾患医療センター研修会をオンラインで開催した。（接続数85施設、参加人数103人）</li> </ul>										

				<ul style="list-style-type: none"> <li>・駒ヶ根市が実施する「認知症初期集中支援チーム事業」に看護師と作業療法士が参画し、相談や訪問支援等を行った。</li> </ul>																			
2	<p>阿南病院及び木曽病院は、認知症に対する医療需要へ対応するため、診療及び患者や家族の相談・支援体制を充実する。</p> <p><b>【令和4年度に推進する事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・院内デイサービスの運営体制を確立するとともに、対応時間や内容等の充実を図り、入院生活の質を向上（阿南）</li> </ul>	阿南	A	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>相談業務（院外）</td> <td>118件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>112件</td> <td>105.4%</td> </tr> <tr> <td>認知症デイサービス</td> <td>700人 (218日)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>633人 (212日)</td> <td>110.6% (102.8%)</td> </tr> </tbody> </table>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	相談業務（院外）	118件	—	—	112件	105.4%	認知症デイサービス	700人 (218日)	—	—	633人 (212日)	110.6% (102.8%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症ケア加算Ⅱ算定開始に合わせ、院内研修を実施するなどケアの充実に努めた。</li> <li>・認知症看護認定看護師の配置を継続し相談体制を維持した。また、HDS-Rなどの認知機能スクリーニング検査は作業療法士の協力を得て実施した。</li> <li>・認知症看護認定看護師が院内デイサービスの運営に関わることで、認知症の入院患者の生活の質を維持した。</li> <li>・シルバー人材センターから看護師資格保有者を派遣してもらうなど、地域の医療資源を有効に活用しながら、院内デイサービス提供体制を維持した。</li> </ul>
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																		
相談業務（院外）	118件	—	—	112件	105.4%																		
認知症デイサービス	700人 (218日)	—	—	633人 (212日)	110.6% (102.8%)																		
3	<p>同上</p> <p><b>【令和4年度に推進する事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症疾患医療センター（連携型）として、認知症医療を充実（木曽）</li> </ul>	木曽	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症患者のアセスメントや看護方法等に係る院内研修の実施等により認知症ケア加算2を取得するなど認知症ケアを充実させた。</li> <li>・令和4年4月1日に長野県から認知症疾患医療センター（連携型）の指定を受け、認知症疾患医療センター運用フローを作成し活動を開始。認知症疾患医療センターへの相談窓口として、直通電話及び直通メールを設置し、患者サポートセンターや脳神経内科窓口においても相談を受付した。30件の電話相談と2件の面接相談を実施。</li> </ul>																			

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 県立病院が担うべき医療等の提供

(5) 介護サービスの提供

〔自己評定〕 B

〔自己評定の理由〕

阿南介護老人保健施設は、下伊那南部地域の老健施設の拠点として介護保険における入所、短期入所、通所リハビリテーションサービスを切れ目なく提供した。また、老健本来の役割を踏まえた入所者の在宅復帰の支援、在宅への入退所前後の訪問を積極的に推進し、優位な介護報酬の施設基準を取得し増収を図った。

木曾介護老人保健施設は、多職種による自宅訪問を実施し、在宅復帰に重点をおいたサービスを提供するとともに、在宅復帰支援機能評価指標の最上位である在宅超強化型の施設基準を取り入れ入所単価が増加した。

阿南病院訪問看護ステーションさくらは、人口減や在宅ニーズが低迷する中でも、在宅での療養生活を継続できるよう切れ目なく支援を行った。

木曾病院介護医療院は、入所者のニーズを把握し、多職種との連携を強化。そして、個々の状況に応じた生活支援を行った。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績						
		病院	評定	取組結果及び取組の効果				
第1 1(5)	介護サービスの提供 阿南介護老人保健施設、木曾介護老人保健	阿南	A	【阿南介護老人保健施設利用実績】				
				項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績



1	施設は、在宅復帰に重点を置いたサービスを提供する。			入所者数	14,322 人	14,600 人	98.1%	13,969 人	102.5%				
				入所単価	11,407 円	10,903 円	104.6%	11,018 円	103.5%				
				通所者数	679 人	660 人	102.9%	607 人	111.9%				
				通所単価	11,070 円	11,000 円	100.6%	11,156 円	99.2%				
				<b>【在宅超強化型】※基本サービス料+加算の算定額の比較</b>									
				項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比				
				加算件数	14,322 人	14,600 人	98.1%	13,969 人	102.5%				
				加算金額	146,676,590 円	142,052,200 円	103.3%	135,814,620 円	108%				
				<b>【通所リハママネジメント加算】</b>									
				項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比				
				算定件数	92 件	—	—	107 件	86%				
				算定金額	487,460 円	—	—	638,070 円	76.4%				
				<b>【科学的介護推進体制加算】</b>									
				項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比				
				算定件数	505 件	—	—	0 件	皆増				
算定金額	202,000 円	—	—	0 円	皆増								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 圏域全体の人口減少や他施設との競合など厳しい状況が続いているが、新規利用者の獲得に努め、入所者・通所者とも前年を上回った。</li> <li>・ 在宅復帰率の向上や在宅訪問を進め、基本サービスの施設基準について、「在宅超強化型」の単位数を年間通して算定できた。加えて科学的介護推進システム（LIFE）へのデータ提出により「栄養マネジメント強化加算」「通所リハママネジメント加算」「科学的介護推進体制加算」を算定することにより、入所単価が向上した。</li> </ul>													
2	同上	木	A	<b>【木曾介護老人保健施設利用実績】</b>									

		曾	<table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> <tr> <td>利用者数</td> <td>15,648人</td> <td>15,519人</td> <td>101.0%</td> <td>15,684人</td> <td>99.8%</td> </tr> <tr> <td>入所単価</td> <td>14,013円</td> <td>11,985円</td> <td>116.9%</td> <td>13,036円</td> <td>107.5%</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅復帰に向けた多職種による居宅訪問やサービスの充実を図り、在宅超強化型の施設基準取得及び維持を行い、入所単価が増加した。</li> <li>・木曽病院の歯科口腔外科との調整を図り、利用者の口腔機能向上と口腔衛生管理加算の新たな加算取得を行った。</li> <li>・新型コロナウイルス集団感染により一時受入停止をしたが、退所後の短期入所サービスへの移行など継続的な利用に努め、昨年度同等の利用者数を維持した。</li> </ul>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	利用者数	15,648人	15,519人	101.0%	15,684人	99.8%	入所単価	14,013円	11,985円	116.9%	13,036円	107.5%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																
利用者数	15,648人	15,519人	101.0%	15,684人	99.8%																
入所単価	14,013円	11,985円	116.9%	13,036円	107.5%																
3	<p>阿南病院は、訪問看護ステーションの運営を行い、在宅医療・介護サービスを提供する。</p> <p><b>【訪問看護ステーション利用者数】</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和4年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>阿南</td> <td>1,006人 (病院の訪問のみ)</td> <td>2,900人</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>【令和4年度に推進する事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関と連携し、介護ニーズに対応した訪問看護ステーションの安定的な運営及び利用者の拡大</li> </ul>	病院名	令和元年度実績	令和4年度目標	阿南	1,006人 (病院の訪問のみ)	2,900人	阿南	<p><b>B 【訪問看護ステーション利用実績】</b></p> <table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> <tr> <td>利用者数</td> <td>2,533人</td> <td>2,900人</td> <td>87.3%</td> <td>2,767人</td> <td>91.5%</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う訪問看護の利用控えが見受けられ、利用者数が減少した。</li> </ul>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	利用者数	2,533人	2,900人	87.3%	2,767人	91.5%
病院名	令和元年度実績	令和4年度目標																			
阿南	1,006人 (病院の訪問のみ)	2,900人																			
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																
利用者数	2,533人	2,900人	87.3%	2,767人	91.5%																

4	<p>木曾病院は、介護医療院の運営を行い介護ニーズに適切に対応する。</p> <p><b>【令和4年度に推進する事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域及び利用者家族のニーズに応え、利用者を確保し木曾介護老人保健施設の経営を安定化（木曾）</li> </ul>	木曾	B	<p><b>【木曾病院介護医療院利用実績】</b></p> <table border="1" data-bbox="981 236 2040 336"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用者数</td> <td>5,889人</td> <td>6,369人</td> <td>92.5%</td> <td>6,449人</td> <td>91.3%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入所者のニーズを把握し、多職種との連携を強化。そして、個々の状況に応じた生活支援を行ったが、長期利用者の退所で利用者数減となった。</li> </ul>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	利用者数	5,889人	6,369人	92.5%	6,449人	91.3%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比											
利用者数	5,889人	6,369人	92.5%	6,449人	91.3%											
5	<p><b>【令和4年度に推進する事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問看護ステーション事業所への移行に向けた検討</li> </ul>	信州	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・須高地区訪問看護連絡会に参加し、当院が訪問看護ステーション事業所へ移行することについて意見交換を実施した。</li> </ul>												

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

2 地域連携の推進

(1) 地域医療構想への対応

〔自己評定〕 B

〔自己評定の理由〕

地域医療構想を踏まえ、地域における医療連携体制の強化について、県立病院としての役割・使命を果たすべく、信州医療センター、阿南病院、木曾病院は、地域医療構想調整会議等の場における議論を通して検討を行った。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第1 2(1) 1	地域医療構想への対応 各病院（こころの医療センター駒ヶ根及びこども病院を除く。）は、地域医療構想を踏まえ、地域医療構想調整会議における議論を通じて、地域における医療連携体制の強化について検討し、県立病院としての役割・使命を果たす。	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 例年2回開催されている地域医療構想調整会議の第1回は9月30日、第2回が1月31日に開催された。これに先立ち7月1日に県医療政策課主催の長野県地域医療構想セミナーに参加した。第1回会議では以下の4点について県の担当者から説明があり、第2回会議で地域医療構想に関する将来意向調査の結果が報告された。</li> <li>① 今後の地域医療構想の進め方</li> <li>② 今後の各医療機関の役割分担の基本的な方向性</li> <li>③ 外来機能報告について</li> <li>④ 医師の働き方改革</li> </ul>

				<ul style="list-style-type: none"> <li>・①②については、長野医療圏において急性期病院が多く存在する中、当院は、一般急性期医療を主軸に回復期機能も保有することで、求められる役割を果たしていきたいと考えている。一部の疾患には三次救急にも対応する。特定の診療に特化した役割としては、産科医療の提供を継続する。須高地域の在宅医療・看護などの需要に対応し、かかりつけ医としての役割も果たしていく。また③に関しては紹介受診重点医療機関に係るもので、医事課でデータ分析を行った結果、当院は医療資源を重点的に活用する外来（重点外来）の基準を満たさず、当面は意向なしの方針とした。</li> <li>・前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症（新興感染症）に関する県、保健所、近隣医療機関との情報共有が積極的に行われ、当院は感染症指定医療機関・重点医療機関として連携体制の強化に貢献した。</li> <li>・長野医療圏域の保健所長と感染症患者受入病院長等の合同テレビ会議（毎週1回～隔週開催）などを通じ情報交換する中で、県からの要請に基づき以下のとおり即応病床数の確保を行った。令和4年1月24日より中軽症22床・重症1床（確保病床フェーズ3）、6月28日より中軽症14床（確保病床フェーズ2）、8月2日より確保病床フェーズ3。またこれに合わせ必要時スタッフの配置換え等を行うとともに、感染症対応スタッフ確保のため、確保病床フェーズ3の際には地域包括ケア病棟の稼働病床を50%にするなどの入院制限を行った。12月19日からは緊急フェーズ1として、県の要請で20床を追加し中軽症42床・重症1床として、地域包括ケア病棟をコロナ病棟に転用して対応した。</li> </ul>
2	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飯伊医療圏地域医療構想における医師確保に関する飯田医師会主催の検討会議に参加し、医師確保の現状について情報を共有するとともに県に対する要望事項について議論し、その結果を地域医療構想調整会議の場において県に伝えた。</li> <li>・75歳以上の千人あたり入所者定数が全国平均よりも3.7倍多く、受診患者に占める施設入所者の割合が多い診療圏であることから、下伊那南部地域に所在する福祉施設と病院とが相互に理解を深め連携しながら地域の保健、医療、福祉を一体的に推進するため、「地域医療福祉連携会議」を4回開催した。</li> </ul>

3	同上	木 曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8月、2月に開催された木曾医療圏地域医療構想調整会議にて木曾医療圏の将来的な医療機能の在り方について検討した。</li> <li>・ 9月に開催された木曾広域連合福祉・保健医療懇談会にて、認知症疾患医療センターを活用した地域連携、オンライン診療導入に向けた調査・研究、ヤングケアラーについて話し合いを持った。</li> </ul>
4	<b>【令和4年度に推進する事項】</b> ・ 地域医療構想の実現に向けた公立病院経営強化ガイドラインへの対応（本部）	本 部	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総務省開催の説明会に、県医療政策課とともに参加し、ガイドラインへの対応を協議した。</li> </ul>

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

2 地域連携の推進

(2) 地域包括ケアシステムの推進

〔自己評定〕 B

〔自己評定の理由〕

信州医療センターでは、地域包括ケア病棟において、急性期病院との連携のほか、慢性期対応病院や介護施設及び訪問看護ステーションとの連携を図り、地域包括ケアシステムの中核的役割を果たした。

こころの医療センター駒ヶ根では、8月に訪問看護ステーション「こまほす」を開設し、精神障がい者にも対応した地域包括ケアへの参画や精神科訪問看護の充実・強化により、地域生活、社会復帰支援を実施した。

阿南病院では、地域医療総合支援センターを中心に、訪問診療・看護・リハビリ・服薬指導等を実施し在宅医療の充実を図った。

木曽病院では、患者サポートセンターを中心に、地域の医療・介護・福祉施設等との連携、退院調整、相談支援等の実施体制を強化し、また、地域の高齢化及び住宅でのターミナルケア等の患者ニーズに対応するため、24時間365日訪問体制の維持等により、在宅医療を積極的に展開した。

こども病院は、医療的ケアが必要な在宅患者に対応するために開設した訪問診療センターにおいて、引き続き小児の訪問診療及び訪問リハビリを実施した。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績	
		病院	評定
			取組結果及び取組の効果

第1 2(2) 1	<p>地域の実情に応じた医療・介護ニーズに適切に対応するため、関係機関等と連携し、在宅医療に積極的に取り組むとともに、地域における各病院の立ち位置に応じて地域包括ケアシステムにおける役割を果たす。</p> <p>こころの医療センター駒ヶ根は、精神障がい者の地域生活を支援する体制を強化し、こども病院は、小児の訪問診療を充実する。</p>	信 州	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケア病棟を新型コロナウイルス専用病棟に転用し、即応病床を確保した。地域の病院と連携し、地域包括ケア病床の役割を当該病院に担っていただくなど、地域の実情に応じた医療・介護ニーズに適切に対応した。</li> <li>・地域の医療機関、保健所との連携により、新型コロナウイルス感染者の受け入れが滞りなく行えた。また、地域住民からの医療相談に適切な対応ができる体制を整え、相談者から信頼を得られた。</li> </ul>
2	<p>同上</p> <p><b>【令和4年度に推進する事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神科訪問看護ステーションを開設し、訪問看護機能を強化するとともに、地域クリニック及び行政機関との連携を強化（駒ヶ根）再掲</li> </ul>	駒 ヶ 根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神科地域包括ケアシステムを推進するため、専門性の高い精神科訪問看護サービスを提供する訪問看護ステーション「こまほす」を開設した。(令和4年8月)(p.2-No.6)</li> <li>・地域生活を支援するデイケアにおいて、円滑な地域移行に結びつけるため、一般就労出前講座（3回）や作業所見学（6回）、精神保健福祉士による社会資源に係る説明（1回）を実施した。</li> <li>・近隣のクリニックと連絡会を実施し、デイケアの利用方法について情報共有した。</li> <li>・デイケアの新たなプログラムを広報するため、開始前にパンフレットを作成し、近隣医療機関に配布した結果、新たなプログラム目的の新規利用者が増加した。</li> <li>・利用者のコミュニケーション能力を改善させるための新たなプログラムに加え、「アーユルヴェーダ※」を開始した。</li> </ul> <p>※病気の予防と治療だけに限らず、健康の維持と増進に関して学ぶプログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「やわらか頭教室(相手の気持ちや意図などを読み取るプログラム)」を、さらに活用しやすいように改変した。</li> </ul>



3	同上 <b>【令和4年度に推進する事項】</b> ・リソースナース（認定看護師、特定行為研修修了看護師等）を広報誌・出前講座等でPRするとともに、介護施設への派遣や訪問看護に出向くなど、院内外における専門性を活かした積極的な地域支援の実施（阿南）	阿南	B	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">訪問診療</td> <td>実患者数</td> <td>204人</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>232人</td> <td>87.9%</td> </tr> <tr> <td>件数</td> <td>205件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>237件</td> <td>86.5%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">訪問リハビリ</td> <td>実患者数</td> <td>292人</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>325人</td> <td>89.8%</td> </tr> <tr> <td>単位数</td> <td>1,723単位</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>2,050単位</td> <td>84.1%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・訪問診療は、患者さんの死亡や施設入所の増加により減少した。</p> <p>・訪問リハビリは、対象患者の入院・診療日数の減少により低下した。</p> <p><b>【リソースナースの活動実績】</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>出前講座</td> <td>6回</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>4回</td> <td>150%</td> </tr> <tr> <td>社会福祉施設への派遣</td> <td>9回</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>0回</td> <td>皆増</td> </tr> <tr> <td>院内研修会</td> <td>13回</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>7回</td> <td>185.7%</td> </tr> <tr> <td>地域医療福祉連携会議でのミニ講座</td> <td>4回</td> <td>4回</td> <td>100%</td> <td>1回</td> <td>400%</td> </tr> <tr> <td>リソースナース通信(院内)</td> <td>4回</td> <td>4回</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>皆増</td> </tr> <tr> <td>院内研修(コラボ研修)</td> <td>2回</td> <td>2回</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>皆増</td> </tr> </tbody> </table> <p>・各専門分野からの情報提供として、リソースナース通信を発行した。</p> <p>・各専門分野のリソースナースが連携し、院内コラボ研修を行った。</p>	項目		実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	訪問診療	実患者数	204人	—	—	232人	87.9%	件数	205件	—	—	237件	86.5%	訪問リハビリ	実患者数	292人	—	—	325人	89.8%	単位数	1,723単位	—	—	2,050単位	84.1%	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	出前講座	6回	—	—	4回	150%	社会福祉施設への派遣	9回	—	—	0回	皆増	院内研修会	13回	—	—	7回	185.7%	地域医療福祉連携会議でのミニ講座	4回	4回	100%	1回	400%	リソースナース通信(院内)	4回	4回	—	—	皆増	院内研修(コラボ研修)	2回	2回	—	—	皆増
				項目		実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																																																					
訪問診療	実患者数	204人	—	—	232人	87.9%																																																																									
	件数	205件	—	—	237件	86.5%																																																																									
訪問リハビリ	実患者数	292人	—	—	325人	89.8%																																																																									
	単位数	1,723単位	—	—	2,050単位	84.1%																																																																									
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																																																										
出前講座	6回	—	—	4回	150%																																																																										
社会福祉施設への派遣	9回	—	—	0回	皆増																																																																										
院内研修会	13回	—	—	7回	185.7%																																																																										
地域医療福祉連携会議でのミニ講座	4回	4回	100%	1回	400%																																																																										
リソースナース通信(院内)	4回	4回	—	—	皆増																																																																										
院内研修(コラボ研修)	2回	2回	—	—	皆増																																																																										
4	同上 <b>【令和4年度に推進する事項】</b> ・在宅療養支援病院としての機能の充	木曾	A	<p>・木曾広域連合から運営を委託された「在宅医療・介護連携支援センター」により、郡内各関係機関の情報共有や共通課題の解決を図り、地域包括ケアシステムの中核的役割を果たした。</p> <p>・在宅療養支援病院として、緊急時の連絡体制並びに24時間往診及び24時間訪問看護の提供が可</p>																																																																											

	実			能な体制を確保した。																																
5	<p>同上</p> <p><b>【令和4年度に推進する事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少子化の進展や新型コロナウイルス感染症の影響、小児疾患動向の変化に対応した病院将来構想の確立に向けた検討を進めるとともに、前年度に実施した長野県小児科医会会員及び県内関連病院・施設の小児科医向けアンケート結果の有効活用方法を検討（当院から地域への情報発信等）</li> <li>・訪問診療センター・訪問ケア科による小児の訪問診療を充実</li> </ul>	こども	A	<p>・病院将来構想検討を進めるため患者及び家族との座談会を2月25日に開催した。（患者及び家族7組10人、一般107人が参加）</p> <p>訪問ケア科</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度計画</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外来延べ患者数</td> <td>51件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>21件</td> <td>242.9%</td> </tr> </tbody> </table>	項目	実績	年度計画	対目標比	前年度実績	対前年度比	外来延べ患者数	51件	—	—	21件	242.9%																				
項目	実績	年度計画	対目標比	前年度実績	対前年度比																															
外来延べ患者数	51件	—	—	21件	242.9%																															
6	<p><b>【紹介率及び逆紹介率】（単位：％）</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">病院名</th> <th colspan="2">令和元年度実績</th> <th colspan="2">令和4年度目標</th> </tr> <tr> <th>紹介率</th> <th>逆紹介率</th> <th>紹介率</th> <th>逆紹介率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>信州</td> <td>33.7</td> <td>20.7</td> <td>31.0</td> <td>28.0</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	令和元年度実績		令和4年度目標		紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率	信州	33.7	20.7	31.0	28.0	信州	B	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>24.5%</td> <td>31.0%</td> <td>79.0%</td> <td>28.4%</td> <td>86.3%</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>26.7%</td> <td>28.0%</td> <td>95.4%</td> <td>26.8%</td> <td>99.6%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・逆紹介率は院内啓発と診療部の協力等により、昨年度とほぼ同等の水準を維持することができた。</p> <p>・新型コロナ病棟即応病床確保のための地域包括ケア病棟の運営休止、院内感染防止のための入院抑制期間があったこと等により、紹介率は減少した。また、「紹介なし初診患者数」の増加も、紹介率の減少に影響している。「紹介なし初診患者数」が増加した原因としては、新型コロナウイルス感染を疑い自発的に受診する患者や、保健所からの初診患者が増加した</p>	区分	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	紹介率	24.5%	31.0%	79.0%	28.4%	86.3%	逆紹介率	26.7%	28.0%	95.4%	26.8%	99.6%
病院名	令和元年度実績		令和4年度目標																																	
	紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率																																
信州	33.7	20.7	31.0	28.0																																
区分	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																															
紹介率	24.5%	31.0%	79.0%	28.4%	86.3%																															
逆紹介率	26.7%	28.0%	95.4%	26.8%	99.6%																															

									ことがあげられる。																		
7	同上 (単位：%)	駒ヶ根	C	令和元年度 実績		令和4年度 目標																					
病院名	紹介率			逆紹介率	紹介率	逆紹介率																					
駒ヶ根	51.8			35.7	55.0	40.0																					
									<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>38.5%</td> <td>55.0%</td> <td>70.0%</td> <td>49.3%</td> <td>78.1%</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>38.2%</td> <td>40.0%</td> <td>95.5%</td> <td>44.6%</td> <td>85.7%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・紹介患者数自体は対前年と横ばいであったが、職員の新型コロナウイルス感染症検査により、初診患者数が大幅に増加し対計画、対前年ともに低下した。</p> <p>・近隣クリニックの初診が3か月以上の待ちの状態となっているため、逆紹介が難しく、対計画、対前年ともに低下した。</p>	区分	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	紹介率	38.5%	55.0%	70.0%	49.3%	78.1%	逆紹介率	38.2%	40.0%	95.5%	44.6%	85.7%
区分	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																						
紹介率	38.5%	55.0%	70.0%	49.3%	78.1%																						
逆紹介率	38.2%	40.0%	95.5%	44.6%	85.7%																						
8	同上 (単位：%)	阿南	A	令和元年度 実績		令和4年度 目標																					
病院名	紹介率			逆紹介率	紹介率	逆紹介率																					
阿南	22.5			15.3	20.0	15.0																					
									<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>26.2%</td> <td>20.0%</td> <td>131.0%</td> <td>34.2%</td> <td>76.6%</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>21.7%</td> <td>15.0%</td> <td>144.7%</td> <td>22.4%</td> <td>96.9%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・飯田市立病院からの新型コロナウイルス感染者の転院受入れ及び診療所からの紹介により紹介率は対計画を上回り、診療所への紹介の増加に伴い逆紹介率も増加したが、前年度を下回った。</p>	区分	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	紹介率	26.2%	20.0%	131.0%	34.2%	76.6%	逆紹介率	21.7%	15.0%	144.7%	22.4%	96.9%
区分	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																						
紹介率	26.2%	20.0%	131.0%	34.2%	76.6%																						
逆紹介率	21.7%	15.0%	144.7%	22.4%	96.9%																						
9	同上 (単位：%)	木曾	A	令和元年度 実績		令和4年度 目標																					
病院名	紹介率			逆紹介率	紹介率	逆紹介率																					
木曾	28.1			21.5	16.0	26.0																					
									<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>17.0%</td> <td>16.0%</td> <td>106.3%</td> <td>17.0%</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>31.3%</td> <td>26.0%</td> <td>120.4%</td> <td>31.0%</td> <td>101.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・眼科医師が1人療養休暇を取得しているため、他医療機関への逆紹介が増加した。</p>	区分	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	紹介率	17.0%	16.0%	106.3%	17.0%	100.0%	逆紹介率	31.3%	26.0%	120.4%	31.0%	101.0%
区分	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																						
紹介率	17.0%	16.0%	106.3%	17.0%	100.0%																						
逆紹介率	31.3%	26.0%	120.4%	31.0%	101.0%																						

10	同上 (単位：%)				こ ど も	A							
	病院 名	令和元年度 実績		令和4年度 目標			区 分	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	
		紹介 率	逆紹 介率	紹介 率			逆紹 介率	紹介率	74.6%	71.0%	105.1%	69.0%	108.1%
	こども	75.4	75.1	71.0			78.0	逆紹介率	84.4%	78.0%	108.2%	78.6%	107.4%
							<p>・地域医療支援病院計算式により算定。紹介率、逆紹介率ともに計画を上回った。また、地域医療支援病院認定要件も満たしている。</p>						

# 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

## 2 地域連携の推進

### (3) 地域の保健・福祉関係機関等との連携の推進

〔自己評定〕 B

〔自己評定の理由〕

信州医療センターでは、須高地域の医療機関、介護施設及び住民と活発に交流し、地域の中核病院として地域医療に貢献した。また、市町村と連携し対策型胃内視鏡検診・大腸内視鏡検診の啓発を実施した。

こころの医療センター駒ヶ根では、市町村、児童相談所等と連携し、虐待や自殺企図、摂食障がいなどの緊急入院に対応した。

阿南病院では、乳児健診において町村保健師等と連携した発達障害児の早期発見とフォローアップ体制の整備を行った。

木曾病院では信州大学子どもこころ診療部の協力により、6月から月1回「児童思春期発達外来」を開設した。

こども病院では、療育支援において、当院の役割への理解、転院・退院後の連携について、地域基幹病院及び入所施設との情報交換を行い、病院間連携を進めた。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果

<p>第1 2(3) 1</p>	<p>各病院は、市町村、保健福祉事務所、児童相談所等の関係機関やNPO等と連携し、児童虐待への対応や発達障がい児、医療的ケア児への支援等に取り組む。</p> <p>市町村等が行う健康増進施策と連携した疾病予防及び母子保健、地域のニーズに応じた健康寿命の延伸に資する取組や地域の福祉関係機関等が行う退院後の支援等に対し、積極的に協力する。</p>	<p>信州</p>	<p>A</p>	<p>(高度医療機器の共同利用件数)</p> <table border="1" data-bbox="943 236 2047 624"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CT</td> <td>416件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>305件</td> <td>136.4%</td> </tr> <tr> <td>MRI</td> <td>327件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>249件</td> <td>131.3%</td> </tr> <tr> <td>内視鏡</td> <td>321件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>378件</td> <td>84.9%</td> </tr> <tr> <td>その他 (RI、超音波、脳波等)</td> <td>113件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>59件</td> <td>191.5%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,177件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>991件</td> <td>118.8%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・DV、小児・高齢者・障がい者虐待などが疑われたり認められたりした場合は、チェックシートを用い早期発見に努めた。定期・臨時ACPT会議（院内虐待対応会議）で、医師、看護師及び相談員等が情報を共有・検討し、市町村、保健福祉事務所、児童相談所等の関係機関と連絡を密に取り合い、連携して対応した。また、外部の支援者会議にも出席し情報を共有、支援体制及び当院の役割を明確にして個別ケースの対応をした。</p> <p>・須坂市の保健師と当院の産婦人科医・小児科医・助産師・医療ソーシャルワーカー、精神科医等が連携し、妊娠期から産後まで切れ目のない支援を行った。産前産後の母親のメンタルヘルスを向上させ、産後うつ予防、子どもへの虐待防止に貢献した。また、須坂市、小布施町、高山村、長野市との連携により産後ケア事業を受託し、産後に家族の援助が受けられない者や育児に不安がある者を対象として、授乳相談や新生児の一時預かりを行った。</p> <p>・高齢者支援としては、ケアマネジャー等の連絡を常に行い情報を共有、各種サービスの利用を可能とした。また、連携連絡票を用いた主治医・ケアマネジャー等間の連絡が滞らないよう仲介し、支援に繋げた。</p>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	CT	416件	—	—	305件	136.4%	MRI	327件	—	—	249件	131.3%	内視鏡	321件	—	—	378件	84.9%	その他 (RI、超音波、脳波等)	113件	—	—	59件	191.5%	計	1,177件	—	—	991件	118.8%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																			
CT	416件	—	—	305件	136.4%																																			
MRI	327件	—	—	249件	131.3%																																			
内視鏡	321件	—	—	378件	84.9%																																			
その他 (RI、超音波、脳波等)	113件	—	—	59件	191.5%																																			
計	1,177件	—	—	991件	118.8%																																			
<p>2</p>	<p>同上 【令和4年度に推進する事項】</p>	<p>駒ヶ</p>	<p>A</p>	<p>・児童相談所との連携強化のため、諏訪及び飯田児童相談所へ医師を派遣した。</p> <p>・市町村、児童相談所等と連携した自殺企図や虐待、摂食障害などの緊急入院に対応した。</p>																																				

	・児童相談所・要保護児童対策地域協議会等と連携し児童虐待や自殺企図児童などの緊急入院に対応	根		<ul style="list-style-type: none"> <li>退院後の地域生活を見据え、入院後速やかに多職種により地域関係者及び家族と支援会議を行った。</li> <li>入院患者に対して、地域支援者、福祉制度の状況や退院時の課題などのアセスメントを実施し、地域生活へのスムーズな移行、施設での生活維持に向けた支援を行った。</li> <li>保健所、市町村等と連携、「措置入院者退院支援計画」を作成した。(4件)</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規入院患者数</td> <td>50人</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>45人</td> <td>111.1%</td> </tr> <tr> <td>うち緊急・優先入院</td> <td>21人</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>6人</td> <td>350.0%</td> </tr> <tr> <td>うち成人病棟への入院</td> <td>6人</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>4人</td> <td>150.0%</td> </tr> </tbody> </table>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	新規入院患者数	50人	—	—	45人	111.1%	うち緊急・優先入院	21人	—	—	6人	350.0%	うち成人病棟への入院	6人	—	—	4人	150.0%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																							
新規入院患者数	50人	—	—	45人	111.1%																							
うち緊急・優先入院	21人	—	—	6人	350.0%																							
うち成人病棟への入院	6人	—	—	4人	150.0%																							
3	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>小児発達障害診療のための専門リハビリスタッフの早期確保・養成により、効果的な医療を提供した。</li> <li>乳児健診において、町村保健師等と連携した発達障害児の早期発見とフォローアップ体制を整備した。</li> </ul>																								
4	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>患者サポートセンターを中心に、地域の医療・介護・福祉施設等との連携、退院調整、相談支援等の実施体制を充実させた。</li> <li>信州大学子どもこころ診療部の協力により、6月から月1回、「児童思春期発達外来」を開設し、木曾医療圏においても児童思春期発達障がいを診察できるようにした。</li> <li>院内外連携を行い、自殺未遂者等支援事業を実施した。</li> <li>児童相談所、地域包括、要保護児童対策地域協議会等と連携し、虐待対策を行った。</li> </ul>																								
5	同上 <b>【令和4年度に推進する事項】</b> ・信州母子保健推進センターとの連携による保健師、助産師の研修を実施	こども	A	<b>【発達障がい専門外来】</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> <th>実施後の経過</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	実施後の経過																	
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	実施後の経過																						

			発達障がい 専門外来	98人	-	-	94人	104.3%	紹介元医療機 関で継続フォ ロー												
<p>(内訳：幼児60人、学齢児38人)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>啓発活動として教師、保育士、幼稚園教諭、保健師、小児科医師を対象に「発達に課題のある子どもへのかかわり方～二次障害の予防と対応～」をテーマとしたオンライン研修を開催し、182人が参加。アンケートでは、99%の受講者が満足という結果となり、二次障害の予防と対応についての理解を深めることができた。</li> </ul> <p><b>【患者支援地域連携会】</b></p> <table border="1" data-bbox="943 619 1865 826"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者支援地域連携会</td> <td>23回</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>26回</td> <td>88.5%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>内訳は、医療機関8件、福祉機関10件、教育機関4件、行政1件であった。</li> <li>全件オンラインでの会議となり、スムーズな運営を維持できた。</li> <li>新たに開設される療育施設が多く、当院との共通症例についての検討を行うことで地域との情報共有がしやすくなった。</li> </ul> <p><b>【療育支援関係】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>10圏域の自立支援協議会との情報交換、関係者会議、支援会議等で地域基幹病院及び保健福祉事務所、児童相談所、福祉事業所、行政機関、入所施設との情報交換を継続した。また、今年度より健康福祉部障がい者支援課内に長野県医療的ケア児等支援センターが開設され、適宜情報交換を行った。</li> <li>ケースに応じた妊娠から出産、その後児と家族への支援については、地域周産期病院や基幹病院と会議を通して情報共有し、地域病院や地域行政の福祉関係者、相談支援専門員、医療的ケアコーディネーター等と連携を図った。</li> </ul>										項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	患者支援地域連携会	23回	-	-	26回	88.5%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																
患者支援地域連携会	23回	-	-	26回	88.5%																



			<ul style="list-style-type: none"> <li>・1月19日に地域医療機関・医療的ケアコーディネーター等懇話会を開催（WEB）し、各圏域の相談支援センター、医療的ケアコーディネーター及び地域基幹病院、入所施設23施設が参加し、「長野県の小児医療の現状」と長野県医療的ケア児等支援センター副センター長よりセンターの役割と現状について情報共有を行った。</li> <li>【信州母子保健推進センターとの連携】</li> <li>・2月4日に周産期看護連絡検討会を開催（WEB）し、9施設21人が参加した。各病院の状況、当院新生児病棟からの転院時についてなど意見交換を行った。</li> <li>・令和5年3月3日に予防接種従事者研修会（医療従事者向け）を開催（WEB）し、72人が参加した。</li> <li>・令和4年3月29日に市町村保健師研修を開催（WEB）し、62市町村77人が参加。頭の形外来について、予防接種についての講義研修を行った。</li> <li>・信州母子保健センターと共催研修会（市町村保健師等）を開催し、当院リハビリテーション科Dr、PT、OT、STより講義研修を行った。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="943 850 2056 948"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>健診初診外来件数</td> <td>151件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>106件</td> <td>142.5%</td> </tr> </tbody> </table>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	健診初診外来件数	151件	—	—	106件	142.5%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比										
健診初診外来件数	151件	—	—	106件	142.5%										
6	<p>【令和4年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心不全、糖尿病、フレイル等に対する地域連携ケアシステムの構築に向け、多職種による予防的リハビリテーションを実施</li> </ul>	信州	A <ul style="list-style-type: none"> <li>・須高地域リハビリテーション連絡会の場にて、地域のリハビリ職種と予防リハビリに関して意見交換し、2月に心不全についてWEB研修を行った。</li> </ul>												

7	<b>【内視鏡検査件数】</b>		信州	B						
	病院名	令和元年度 実績			令和4年度 目標	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績
	信州	6,334	8,000		内視鏡検査件数	6,836件	8,000件	85.5%	6,657件	102.7%
					<p>・人間ドック受け入れ制限はなく、COVID-19感染対策を継続しながら受診者数を伸ばしてきた。対策型胃内視鏡検診においても6月から実施した。そのため、前年度より実績を伸ばすことができた。</p>					
8	<b>【令和4年度に推進する事項】</b>		信州	B						
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村と連携し対策型胃内視鏡検診・大腸内視鏡検診の啓発の実施</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・当院広報誌で、内視鏡検査の有効性等について継続した発信を行った。</li> </ul>					
9	<b>【令和4年度に推進する事項】</b>		信州	B						
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内視鏡検査件数増のため、コンサルタントを活用したマーケティング等の検討</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・コアメンバー会議を開催し、これまでの経過や現状について整理し、今後の方針やスケジュールの検討を行った。</li> </ul>					

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

3 医療従事者の養成と専門性の向上

(1) 県内医療に貢献する医師の確保・養成

〔自己評定〕 B

〔自己評定の理由〕

総合診療専門医の養成については、信州医療センターは引き続き基幹施設として、他の県立病院は連携施設として、総合診療専門研修プログラムに基づき総合診療医の養成を推進した。

信州医療センターは、総合内科医養成講座(寄附講座)に関する協定により、総合内科専門医の育成プログラムの策定及び専門医確保の準備に着手した。初期研修については、定期的なシミュレーション研修を行い、確かな技術の向上に努めた。

各病院においても、精神科や小児科などの臨床研修プログラムにより臨床医を受け入れ、県内医療に貢献する医師の育成に尽力した。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第1 3(1) 1	各病院は、特色を活かした臨床研修プログラムやシミュレーション教育を充実させ、研修指導体制を強化するとともに、積極的な広報活動と県立病院間の指導医連携を推進し、	信州	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師の確保に向け医師求人サイトへの掲載、大学医局との連携などあらゆるチャンネルを駆使し、県、機構本部と病院が一体となり取り組んだ。</li> <li>・医師臨床マッチングにおいて、合同説明会及びオンライン説明会に参加し、指導医及び初期研修医からも当院の良さをアピールした。</li> <li>・上記広報活動等の結果、8人の病院見学者を受け入れた。</li> </ul>

	<p>医学生、初期臨床研修医及び専攻医の受入れと育成を行う。</p> <p>信州医療センターは、信州大学医学部寄附講座を開設し総合内科専門医の養成に取り組み、こころの医療センター駒ヶ根は、児童精神科医の育成に努める。</p> <p><b>【令和4年度に推進する事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・信州大学医学部との寄附講座と連携した総合内科専門医の育成プログラムの策定及び専門研修医の受入れ（信州）</li> <li>・新専門医制度に対応したプログラムにより総合診療医の養成と定着を支援（同上）</li> </ul>			<p><b>【総合内科医の養成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度、開設した総合内科医育成学講座(寄附講座)に関する協定により、信州大学から担当教員（内科系）2人の配置を受け、研修プログラム作成と専門医確保の準備に着手しているが、日本専門医機構が認定するサブスペシャリティ領域に総合内科が認定されていないため、事業の進捗が遅れている。</li> <li>・総合診療医の養成については、機構の他病院とも連携し、引き続き取り組む。</li> </ul>
2	<p>同上</p> <p><b>【令和4年度に推進する事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初期研修医制度の精神科必須化により、増加する初期研修医の受入れ対応（駒ヶ根）</li> </ul>	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本精神神経学会新専門医制度における精神科専攻医を2人採用し、育成した。（当院基幹病院として1人、信州大学の精神科研修プログラムの連携施設として1人）</li> <li>・医学生8人及び地域の総合病院から初期臨床研修医13人を受け入れた。</li> </ul>
3	<p>同上</p>	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学生1人及び初期臨床研修医6人を受け入れた。</li> <li>・巡回診療へ研修医が同行し、へき地医療への理解を深めた。</li> </ul>
4	<p>同上</p>	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信州大学医学部の研修医及び医学生の受け入れを実施  信大地域医療研修医実習 1人  6年次選択臨床実習 1人  5年次150通り実習 9人</li> <li>・夏期研修として自治医科大学の医学生2人を受け入れた。（7月）</li> </ul>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修センターと協働し、1泊2日病院見学会を行い、1人の参加があった。</li> </ul>
5	<p>同上</p> <p><b>【令和4年度に推進する事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・信州大学との連携大学院教育等により職員の研究活動を推進し、専門性の高い医師等を養成</li> </ul>	こども	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度も来年度採用専攻医に対し、オンラインによる病院見学会を実施。8人中7人が参加した（昨年度参加者7人）。令和5年度小児科専攻医として4人から応募があり、採用を内定した。</li> <li>・昨年度同様、専攻医教育に力を入れており、Webレクチャーや救急外来振り返りの会、救急シミュレーション教育を実施している。また、3ヶ月に1度メンター・チューター会議を開催し、個々の研修状況等を共有することで次の研修先での教育に活かしている。</li> </ul> <p>令和4年4月～令和5年3月までの受入状況</p> <p><b>【実習生】</b>（看護部はグループ見学やオンライン講義への変更含む。延べ人数）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・診療部 … 信州大17人、順天堂大1人、自治医科大1人</li> <li>・看護部 … 信州大25人、長野看護32人、清泉女学院48人、須坂看護32人、他 約100人</li> <li>・医療技術部 … 信州大 33人(検査科32人、リハビリ1人)、長野保健医療大学2人(リハビリ)</li> </ul> <p><b>【初期研修医】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・信州医療センター1人、相澤病院3人</li> </ul> <p><b>【その他研修】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・信州大学病院9人（診療部）、看護大学2人</li> </ul> <p><b>【連携大学院】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連携大学院学生は、新規進学者4人を加え、12人となった。</li> <li>・連携大学院セミナーを毎月、Webにて開催している。</li> <li>・4人が修了し、医学博士の学位を取得した。</li> </ul>
6	<p><b>【令和4年度に推進する事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どものこころ専門医研修施設群による小</li> </ul>	駒ヶ	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・思春期、青年期精神科医療の医師育成を行うため、小児科専門医と精神科専門医の双方を基盤領域とする「子どものこころ専門医」の養成を目的とする「子どものこ</li> </ul>

	<p>児科及び精神科双方を基盤領域とする子どものこころ専門医の養成（同上）</p>	根		<p>ろ専門医研修施設群」の基幹施設として認定された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年4月から県立こども病院、信州大学子どものこころ診療部を連携施設とする運営を開始し、医師1人の採用を内定した。（令和5年度採用予定）</li> </ul>								
7	<p><b>【令和4年度に推進する事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>信州大学との連携大学院教育等により職員の研究活動を推進し、専門性の高い医師等を養成</li> </ul>	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導医が連携大学院教育制度在籍中の勤務医を引き続き指導した。</li> </ul>								
8	<p>本部研修センターは、信州医師確保総合支援センター分室として、県との連携を強化し、医療職を目指す地域の中高生、医学生や医師を対象とした研修を充実する。</p> <p><b>【令和4年度に推進する事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>医学生や初期臨床研修医等を対象としたシミュレーション教育の充実</li> </ul>	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>信州医療センターにおいて「信州大学医学部150通りの選択肢からなる参加型臨床実習」等を行う医学生へ、シミュレーション教育を28回実施し、延べ47人が参加した。</li> <li>信州医療センターの1年目初期研修医へ、シミュレーション教育を21回実施し、延べ74人が参加した。</li> <li>信州医療センターにおいて病院見学中の医学生へ、スキルスラボ及び初期研修医向けシミュレーション教育の説明を5回実施し、5人が参加した。</li> </ul>								
9	<p><b>【令和4年度に推進する事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>医師確保推進のための医学生対象長野県立5病院 joint セミナーの開催</li> </ul>	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修医育成病院としてのブランディング等を目的に、医学生参加型症例カンファレンスを中心としたオンラインセミナーを開催</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">区 分</th> <th style="width: 15%;">実施日</th> <th style="width: 25%;">参加者</th> <th style="width: 45%;">前年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ライブ配信</td> <td>3月4日</td> <td>3大学13人</td> <td>6大学9人（他に視聴のみ11人）</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>参加者には事前動画（各病院のプログラム、過去のJointセミナーの様子等）を配信</li> </ul>	区 分	実施日	参加者	前年度実績	ライブ配信	3月4日	3大学13人	6大学9人（他に視聴のみ11人）
区 分	実施日	参加者	前年度実績									
ライブ配信	3月4日	3大学13人	6大学9人（他に視聴のみ11人）									

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

3 医療従事者の養成と専門性の向上

(2) 機構職員の養成

〔自己評定〕 B

〔自己評定の理由〕

信州医療センターは、指定研修機関として、令和4年10月に看護師特定行為研修（第3期）を開講した。

本部研修センターは、課程別の基礎研修から医療技術職員に対する専門研修まで含めた体系的な研修カリキュラムを構築し、計画的な人材の育成に努め、各病院においても、独自の院内研修の充実により、職員の資質向上に努めた。

各病院においては、医師・看護職・医療技術職の認定資格の取得を奨励し専門研修への派遣を行い、医療技術の向上を図った。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第1 3(2) 1	全職員を対象とした研修体系の評価と見直しを継続的に行い、研修の充実を図ることにより、職員の知識、技術、資質の向上を図る。 医師、看護師、医療技術職員等の認定資格の取得を推進する。	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修センターと連携し、医師・研修医・医学生・看護師等を対象にシミュレータを活用した技術研修を実施した。</li> <li>※腹腔鏡、大腸カメラ、上部消化管内視鏡、中心静脈カテーテル挿入シミュレータ、分娩シミュレータ、AED、Simman 3G、さくら、リトルアン、切開キットなどを使用した。</li> <li>・初期研修医シミュレーション教育を15回実施した。</li> </ul>

	<p>信州医療センターは、機構本部と連携し、指定研修機関として特定行為ができる看護師の養成を進める。</p> <p>【令和4年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指定研修機関として特定行為ができる看護師の養成及び特定行為研修内容と修了後の活用の検討（信州）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>院内の各委員会等の企画による研修会を計画し順次実施</li> <li>新任職員（医師）オリエンテーション、院内感染対策研修会、医療安全推進研修会、褥瘡予防研修会、育児休暇中フォローアップ研修会、重症度・医療・看護必要度研修会、クリニカルパス学習会、口腔ケア研修会、接遇研修会、糖尿病学習会、医療ガス安全管理研修会、R S T呼吸器学習会、看護師復帰支援研修会、臨床病理カンファレンス等</li> <li>令和3年10月から令和4年9月まで看護師特定行為研修（第2期）を実施した。</li> <li>第2期の受講者6人 <ul style="list-style-type: none"> <li>①領域別パッケージ研修（在宅・慢性期領域）：（長期呼吸療法に係る呼吸器関連、ろう孔管理関連、創傷管理関連、栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連）2人</li> <li>②血糖コントロールに係る薬剤投与関連 4人</li> </ul> </li> <li>令和4年9月30日に当院3人の看護師を含む県立病院機構看護師6人の研修修了を認定し、修了書を交付した。その後、修了生名簿を厚生労働省に提出した。</li> <li>令和4年10月から看護師特定行為研修（第3期）を開始した。（終了は翌年9月）</li> <li>第3期では領域別パッケージ研修（在宅・慢性期領域）の受講生の募集範囲を長野県立病院機構以外の看護師にも広げた。令和3年度に開講した血糖コントロールに係る薬剤投与関連に栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連を加えた研修内容を修正した。（昨年度の受講生は共通科目を履修免除し追加の内容を研修することとした。）</li> <li>第3期の受講生は10人（3人が長野県立病院機構以外の看護師） <ul style="list-style-type: none"> <li>①領域別パッケージ研修（在宅・慢性期領域）：3人</li> <li>②血糖コントロールに係る薬剤投与関連及び栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連：3人</li> <li>③栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連：4人（*令和4年度のみ実施）</li> </ul> </li> </ul>
2	同上	駒ヶ根	<ul style="list-style-type: none"> <li>A 下半期の研修計画を見直し、研修会管理システム「キャリアマネジメントシステム」の利用拡大を図るとともに、システム担当者を新たに配置し、活用の普及と手順の周知を図った。</li> </ul>



				<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師1人が精神科専門医試験を受験した。</li> </ul>
3	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護部教育体制の見直しを行い、地域在宅看護を強化した基礎Ⅰ～Ⅲ（新卒～3年目）など継続教育の充実に取り組んだ。</li> <li>・認定看護師、特定行為研修修了看護師等による「リソースナース会」を設置し、専門的知識の院内外への啓発及び看護の質の向上に向け取り組んだ。</li> <li>・特定行為看護師研修へ1人参加した。</li> </ul>
4	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定行為研修に2人が修了し、新たに1人が参加。</li> <li>・</li> <li>・救急看護認定看護師養成校を1人修了。10月に認定審査を受審。</li> <li>・認定看護師管理者教育課程ファーストレベルを2人、セカンドレベルを1人受講。</li> <li>・</li> <li>・医師、看護師のタスクシフトを見据えた、診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士の業務拡大に係る法改正を受け、告知研修の受講を促し、基礎研修12人、実技研修を3人が受講し、修了した。</li> </ul>
5	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門職種の研修助成制度を継続し、研修を積極的に推奨した。</li> <li>・院内研究助成制度を、特に若手研究者が利用しやすいように整備して活用した。</li> <li>・医局会を利用して、専攻医の発表の機会を設け、プレゼンテーション技能の向上を計った。</li> <li>・ナーシングスキルの他、Zoomなどのツールを利用したオンライン研修が盛んに開催されるようになり、職員がさらに研修を受けやすくするためにWEB研修室や機器の充実を図り、環境整備に務めた。</li> <li>・看護部では、認定看護管理者教育課程ファーストレベルに2人、セカンドレベルに2人が受講し、医療技術部では、厚生労働大臣指定講習会に臨床検査科5人が受講した。また、事務部職員や医師事務作業補助者も各種オンライン勉強会に参加するなど、積極的に研修を受講している。</li> </ul>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床検査技師3人、診療放射線技師3人、理学療法士1人が新たに認定資格を取得した。</li> <li>・2022年度より看護師教育カリキュラムの変更がなされ、新カリキュラムにて教育された新人が2025年度には入職予定のため、今年度より新カリキュラムに対応した育成・教育ができるように、看護師教育研修の見直しを開始した。4月～8月に師長会で小チーム活動を立ち上げ検討を開始し、副師長会や教育委員会へつなぎ、教育計画・研修計画の見直し・立案を行った。</li> <li>・感染管理認定看護師教育課程を1人受講修了し認定試験を合格した。感染管理認定看護師は2人体制となり、活動日を増やし感染管理体制を強化した。</li> <li>・2021年度特定行為研修を1人が受講終了した。今後、委員会等を立ち上げ病院として支援体制を構築し、胃瘻外来等から業務開始予定である。</li> </ul>
6	<p>同上</p> <p>【令和4年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師、薬剤師を中心とした病院間の交流研修を推進（本部）</li> </ul>	本部	B <ul style="list-style-type: none"> <li>・薬剤師については、採用2年目に1週間程度の機構内他病院交流研修を実施することが定着しつつある（令和4年度3人実施）。看護師等については、次年度以降に交流研修が実施できるよう人員体制を整える努力をしている。</li> </ul>
7	<p>【令和4年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特定行為研修内容と修了後の活用の検討</li> </ul>	本部	B <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の医療人材を育成するため、第3期の受講生の募集を県立病院機構以外の看護職員にも拡大し、機構以外から3人が受講。</li> <li>・看護部長打ち合わせ会で修了者の業務内容と今後の活動予定、支援体制の整備について調査し情報共有した。</li> <li>・来年度の研修内容についてコアメンバーで検討を行い、令和4年度と同様の区分での開催を決定した。</li> </ul>
8	<p>【令和4年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シミュレーション教育指導者委員会による指導者連携と教育の充実（研修セ）</li> </ul>	本部	A <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月12日 第1回委員会開催（シミュレーション教育指導スキルアップシリーズのファシリテータ依頼等）</li> <li>・8月4日 第2回委員会開催（シミュレーション教育指導スキルアップシリーズにおけるファシリテータとの打合せ等）</li> <li>・1月12日 第3回委員会開催（シミュレーション教育指導スキルアップシリーズの振り</li> </ul>

			<p>返りと次年度に向けての検討等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会メンバーは、シミュレーション教育指導者の育成と自己研鑽を兼ねて、シミュレーション教育指導スキルアップシリーズへファシリテータとして参加した。</li> <li>・委員会時はシミュレーション教育シナリオ情報共有事業として、現在登録されている各施設シナリオから5本の発表を行い、意見交換を実施した。</li> </ul>																																					
9	<p>【令和4年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規採用職員等の体験研修の充実（同上）</li> </ul>	本部	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務部、薬剤部の新規採用職員14人が、配属先病院において多職種体験研修に参加した。また、来年度の医療技術部を含めた実施について関係者と検討し、病院長が必要と認める新規採用職員等（職種は問わない）を対象にすることとした。</li> <li>・勤務2年目事務職員等3人が、配属先以外の病院の業務内容や特徴を体験するため、他病院体験研修を実施</li> </ul>																																					
10	<p>【令和4年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員を対象とした研修の充実（同上）</li> </ul>	本部	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の知識・技術・資質の向上を図るため、病院等の意見を反映させた課程別研修、選択研修及び専門研修を実施し、延べ840人が受講した。</li> <li>・集合研修とオンライン研修を組み合わせる計画し、集合研修は基本的な新型コロナウイルス感染対策の徹底に特に留意して実施した。</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>研修名</th> <th>実施日</th> <th>受講者数</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">課程別 研修</td> <td>新規採用職員研修Ⅰ</td> <td>4月14日</td> <td>87人</td> <td>72人</td> <td>120.8%</td> </tr> <tr> <td>新規採用職員研修Ⅱ</td> <td>4月15日</td> <td>57人</td> <td>59人</td> <td>96.6%</td> </tr> <tr> <td>新規採用職員研修Ⅲ</td> <td>7月22日</td> <td>48人</td> <td>54人</td> <td>88.9%</td> </tr> <tr> <td>勤務3年目研修</td> <td>10月7日 10月14日</td> <td>Web 6人 39人</td> <td>46人</td> <td>97.8%</td> </tr> <tr> <td>キャリア形成研修① (5年目)</td> <td>8月5日</td> <td>31人</td> <td>32人</td> <td>96.9%</td> </tr> <tr> <td>キャリア形成研修② (10年目)</td> <td>9月2日</td> <td>Web 20人 19人</td> <td>36人</td> <td>108.3%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	研修名	実施日	受講者数	前年度実績	対前年度比	課程別 研修	新規採用職員研修Ⅰ	4月14日	87人	72人	120.8%	新規採用職員研修Ⅱ	4月15日	57人	59人	96.6%	新規採用職員研修Ⅲ	7月22日	48人	54人	88.9%	勤務3年目研修	10月7日 10月14日	Web 6人 39人	46人	97.8%	キャリア形成研修① (5年目)	8月5日	31人	32人	96.9%	キャリア形成研修② (10年目)	9月2日	Web 20人 19人	36人	108.3%
区分	研修名	実施日	受講者数	前年度実績	対前年度比																																			
課程別 研修	新規採用職員研修Ⅰ	4月14日	87人	72人	120.8%																																			
	新規採用職員研修Ⅱ	4月15日	57人	59人	96.6%																																			
	新規採用職員研修Ⅲ	7月22日	48人	54人	88.9%																																			
	勤務3年目研修	10月7日 10月14日	Web 6人 39人	46人	97.8%																																			
	キャリア形成研修① (5年目)	8月5日	31人	32人	96.9%																																			
	キャリア形成研修② (10年目)	9月2日	Web 20人 19人	36人	108.3%																																			

			キャリア形成研修③ (15年目)	10月28日	Web 22人	25人	88.0%
			キャリア形成研修④ (20年目)	11月11日	Web 24人	32人	75.0%
			新管理職研修	6月10日	13人	19人	68.4%
			計		366人	375人	97.6%
		選 択 研 修	労働条件とサービス研修	9月16日	Web 27人	—	皆増
			分かりやすい文書作成 研修	9月16日	Web 36人	—	皆増
			公文書の書き方等研修	—	—	35人	皆減
			リーダー研修Ⅰフォロ ワーシップ	6月17日	Web 46人	47人	97.9%
			リーダー研修Ⅱリーダ ーシップ	7月15日	Web 42人	46人	91.3%
			診療報酬研修	(動画視聴)		56人	
			OJT研修	2月17日	Web 32人	38人	84.2%
			計		183人	222人	82.4%
		専 門 研 修	看護部専門研修①	9月9日	Web 25人	27人	92.6%
			看護部専門研修②	10月22日	Web 41人	42人	97.6%
			臨床検査技師研修会	12月17日	Web 38人	37人	102.7%
			放射線技師研修会	2月11日	Web 27人	28人	96.4%
			管理栄養士研修会	9月10日	Web 15人	16人	93.8%
			県立病院等栄養部門研	12月2日	Web 16人	14人	114.3%

		修会				
		リハビリテーション部門研修会	1月28日	Web 31人	—	皆増
		薬剤師研修会	7月20日	Web 38人	—	皆増
		薬剤部研修会（シンポジウム）	2月28日	Web 43人	—	皆増
		新規採用薬剤師院内体験研修	6～11月	7人	3人	233.3%
		新規採用事務職員内体験研修	6～11月	7人	2人	350.0%
		勤務2年目事務職員他病院体験研修	8～1月	3人	—	皆増
		計		291人	169人	172.2%
		合計		840人	766人	109.7%

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

3 医療従事者の養成と専門性の向上

(3) 県内医療従事者の技術水準の向上への貢献

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

本部研修センターでは、昨年度に引き続き、シミュレーション教育指導スキルアップシリーズを開催したほか、貸出可能なシミュレータリスト等をホームページに掲載し、他医療機関等における利便性の向上を図った。

信州大学医学部や信州木曾看護専門学校をはじめとする県内の医療関係教育機関からの要請に基づき、各病院から医師・看護師を派遣するとともに、各病院のもつ医療機能に応じ、職種ごとに実習生を積極的に受入れた。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績				
		病院	評定	取組結果及び取組の効果		
第1 3(3) 1	本部研修センターは、県内外の医療機関等と連携し、シミュレーション教育を活かした研修会、講師派遣等を実施するとともに、同センター木曾分室・こども分室における研修の更なる充実を図り、県内医療従事	本部	A	【シミュレーション研修】		
				研修名	開催日	受講者数
				スキルアップ研修シリーズ① (オンライン)	8月25,26日	25人 (他に聴講者9人)
	スキルアップ研修シリーズ② (オンライン)	9月29,30日	25人 (他に聴講者8人)			

<p>者の技術水準の向上に向けて取り組む。</p> <p>【令和4年度に推進する事項】</p> <p>・機構外の医療機関等も対象としたシミュレーション研修の実施（研修セ）</p>	<table border="1"> <tr> <td>スキルアップ研修シリーズ③</td> <td>11月17,18日</td> <td>25人</td> </tr> <tr> <td>シナリオブラッシュアップ講座</td> <td>3月10日</td> <td>13人</td> </tr> <tr> <td>Fun Sim J（オンライン版）</td> <td>7月12～23日 10月11～22日</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>i Sim J</td> <td>2月25,26日</td> <td>1人</td> </tr> </table>	スキルアップ研修シリーズ③	11月17,18日	25人	シナリオブラッシュアップ講座	3月10日	13人	Fun Sim J（オンライン版）	7月12～23日 10月11～22日	6人	i Sim J	2月25,26日	1人						
	スキルアップ研修シリーズ③	11月17,18日	25人																
	シナリオブラッシュアップ講座	3月10日	13人																
	Fun Sim J（オンライン版）	7月12～23日 10月11～22日	6人																
	i Sim J	2月25,26日	1人																
	<p>【講師派遣等】</p> <p>○病院への研修講師派遣等</p> <p>・看護師、薬剤師関係</p>																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>研修名</th> <th>開催日</th> <th>受講者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新人看護職員技術研修（こころの医療センター駒ヶ根）</td> <td>5月16日,30日</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>フィジカルアセスメント研修Ⅱ③（こども病院）</td> <td>11月30日</td> <td>15人</td> </tr> <tr> <td>新規採用薬剤師（2年目）フィジカルアセスメント研修（基礎編）</td> <td>9月26日</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>新規採用薬剤師（2年目）フィジカルアセスメント研修（応用編）</td> <td>9月28日</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>新規採用薬剤師（1年目）フィジカルアセスメント研修</td> <td>8月29日</td> <td>2人</td> </tr> </tbody> </table>	研修名	開催日	受講者数	新人看護職員技術研修（こころの医療センター駒ヶ根）	5月16日,30日	4人	フィジカルアセスメント研修Ⅱ③（こども病院）	11月30日	15人	新規採用薬剤師（2年目）フィジカルアセスメント研修（基礎編）	9月26日	2人	新規採用薬剤師（2年目）フィジカルアセスメント研修（応用編）	9月28日	2人	新規採用薬剤師（1年目）フィジカルアセスメント研修	8月29日	2人
	研修名	開催日	受講者数																
	新人看護職員技術研修（こころの医療センター駒ヶ根）	5月16日,30日	4人																
	フィジカルアセスメント研修Ⅱ③（こども病院）	11月30日	15人																
新規採用薬剤師（2年目）フィジカルアセスメント研修（基礎編）	9月26日	2人																	
新規採用薬剤師（2年目）フィジカルアセスメント研修（応用編）	9月28日	2人																	
新規採用薬剤師（1年目）フィジカルアセスメント研修	8月29日	2人																	
○学校、福祉施設等への講師派遣																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>研修名</th> <th>開催日</th> <th>受講者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中学生 BLS 研修(阿南消防署管内5</td> <td>7月,2月</td> <td>100人</td> </tr> </tbody> </table>	研修名	開催日	受講者数	中学生 BLS 研修(阿南消防署管内5	7月,2月	100人													
研修名	開催日	受講者数																	
中学生 BLS 研修(阿南消防署管内5	7月,2月	100人																	

				校)		
				救命救急特別講座（信州木曾看護専門学校）	10月27日	26人
				医療的ケア生緊急時対応訓練研修会（飯田養護学校）	7月28日	19人
				〃（伊那養護学校）	8月8日	11人
				〃（稲荷山養護学校）	9月1日	24人
				〃（上田養護学校）	12月19日	15人
				長野県保健師専門研修①採血編（健康福祉部）	4月28日	6人
				長野県保健師専門研修②在宅医療技術編（健康福祉部）	9月8日	10人
2	<p>【令和4年度に推進する事項】</p> <p>・長野県医療従事者シミュレーション教育指導者研究会の開催（同上）</p>	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月1日 研究会設立 （幹事会は、長野県医療従事者シミュレーション教育指導者研究会（発表会）の開催と、本会の運営に必要な事項を協議）</li> <li>・5月12日 第1回幹事会開催（医学研究の利益相反（COI）に関する指針、及び細則（案）等）</li> <li>・8月4日 第2回幹事会開催（研究発表会当日の役割分担等）</li> <li>・12月10日 研究会発表会開催 参加者 13施設（機構外6）、42人（機構外17） 演題発表 機構内7施設7演題 講演 赤嶺陽子氏「シミュレーション研修の臨床効果と今後の展望」</li> <li>・1月12日 第3回幹事会開催（研究発表会の振り返りと次年度に向けての検討）</li> </ul>		



3	<p>【令和4年度に推進する事項】</p> <p>・機構外の医療機関等も含むスキルスラボ、シミュレータの利用促進 (同上)</p>	本部	<p>B</p> <p>・9月に信州医療センターの院外広報誌にシミュレータ貸出しの問い合わせフォームなど「研修センターの取り組み紹介」を掲載。(須坂市、高山村、小布施町全戸および各関係医療機関に配布。)</p> <p>【スキルスラボ及びシミュレータ使用実績】</p> <table border="1" data-bbox="831 331 2040 762"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対年度目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スキルスラボ 使用回数</td> <td>428回</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>505回</td> <td>84.8%</td> </tr> <tr> <td>スキルスラボ 利用者数</td> <td>2,790人</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>2,851人</td> <td>97.9%</td> </tr> <tr> <td>シミュレータ 使用回数</td> <td>285回</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>400回</td> <td>71.3%</td> </tr> <tr> <td>シミュレータ 利用者数</td> <td>2,180人</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>2,409人</td> <td>90.5%</td> </tr> </tbody> </table>	項目	実績	年度目標	対年度目標比	前年度実績	対前年度比	スキルスラボ 使用回数	428回	—	—	505回	84.8%	スキルスラボ 利用者数	2,790人	—	—	2,851人	97.9%	シミュレータ 使用回数	285回	—	—	400回	71.3%	シミュレータ 利用者数	2,180人	—	—	2,409人	90.5%
項目	実績	年度目標	対年度目標比	前年度実績	対前年度比																												
スキルスラボ 使用回数	428回	—	—	505回	84.8%																												
スキルスラボ 利用者数	2,790人	—	—	2,851人	97.9%																												
シミュレータ 使用回数	285回	—	—	400回	71.3%																												
シミュレータ 利用者数	2,180人	—	—	2,409人	90.5%																												
4	<p>医療従事者の育成に資するため、医療関係職種の各養成所からの要請に基づき職員を講師として派遣するとともに、学生の実習受入れ等を積極的に行う。</p>	信州	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師として信州木曾看護専門学校へ2人、長野県須坂看護専門学校へ23人、清泉女学院大学へ2人、派遣した。</li> <li>・看護学生等実習指導者養成講習会を看護師2人が受講した。</li> <li>・看護師のインターンシップは、1回目を令和4年8月4日に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止とした。2回目を令和5年3月23日に開催し、14人の参加があった。</li> <li>・看護師病院説明会を5回開催し、12人の参加があった。</li> <li>・看護師の実習受け入れ前にはコロナ抗原定量検査を全学生に対し行った。感染状況によって日数の削減、途中中止の実習もあった。</li> <li>・各科で以下の実習生を受け入れた。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="869 1236 1868 1380"> <thead> <tr> <th colspan="2">診療部</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>信州大学</td> <td>20 人</td> </tr> <tr> <td>自治医科大学</td> <td>1 人</td> </tr> </tbody> </table>	診療部		信州大学	20 人	自治医科大学	1 人																								
診療部																																	
信州大学	20 人																																
自治医科大学	1 人																																

				筑波大学	1 人					
				東邦大学	1 人					
				看護部						
				須坂看護専門学校	131 人					
				清泉女学院大学	7 人					
				上尾看護専門学校	3 人					
				リハビリテーション技術科						
			信州大学	理学療法士	1 人					
				作業療法士	1 人					
			長野保険医療大学	理学療法士	2 人					
			栄養科							
				高崎健康福祉大学	1 人					
				松本大学	1 人					
			薬剤部							
				長野県立大学	2 人					
			機構薬剤部他施設研修	木曽病院	1 人					
				こども病院	1 人					
5	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信州木曾看護専門学校等へ医師と看護師を講師として派遣した。(医師2人、看護師7人)</li> <li>・医療関係職種の各養成所からの要請に基づき、学生の実習として医学生8人、看護学生88人、薬学生8人、精神保健福祉士実習生3人、心理実習生1人、臨床栄養実習生1人を受け入れた。</li> </ul>						
6	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・阿南高校、信州木曾看護専門学校への講師派遣及び実習生の受入れを実施</li> </ul> <table border="1" data-bbox="831 1254 2036 1401"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>状 況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>講師派遣</td> <td>阿南高等学校福祉コース18回 (介護福祉員)、信州木曾看護専門学校2回 (看護師)</td> </tr> </tbody> </table>			区 分	状 況	講師派遣	阿南高等学校福祉コース18回 (介護福祉員)、信州木曾看護専門学校2回 (看護師)
区 分	状 況									
講師派遣	阿南高等学校福祉コース18回 (介護福祉員)、信州木曾看護専門学校2回 (看護師)									

				<table border="1"> <tr> <td>実習生受入</td> <td colspan="3">飯田女子短大15人・20日間、信州木曾看護専門学校27人・5日間</td> </tr> </table> <p>・巡回診療へ看護学生が同行し、へき地医療への理解を深めた。</p> <p>・下伊那南部地域の中学生が緊急時に一次救命措置（Basic Life Support）が行えるよう、本部研修センターの協力を得ながら、人工呼吸の仕方やAED（自動体外式除細動器）の取り扱いを学ぶBLS講習会を開催した。</p> <p><b>【開催実績】</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校数</td> <td>5校</td> <td>3校</td> <td>166.7%</td> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td>100人</td> <td>58人</td> <td>172.4%</td> </tr> </tbody> </table>	実習生受入	飯田女子短大15人・20日間、信州木曾看護専門学校27人・5日間			項目	実績	前年度実績	対前年度比	学校数	5校	3校	166.7%	参加者数	100人	58人	172.4%
実習生受入	飯田女子短大15人・20日間、信州木曾看護専門学校27人・5日間																			
項目	実績	前年度実績	対前年度比																	
学校数	5校	3校	166.7%																	
参加者数	100人	58人	172.4%																	
7	同上	木曾	A	<p>・新型コロナウイルス感染症の影響により他病院での実習ができなくなった信州木曾看護専門学校の学生74人（1年20人、2年26人、3年28人）の実習を当院で受け入れた。</p> <p>・院内職員（31人）が信州木曾看護専門学校で講義を行った。</p> <p>・</p> <p>・認定看護師（ICN1人、緩和ケア1人）が郡内の施設で専門分野の研修を行った。</p>																
8	同上	こども	A	<p>・医師や看護師等の医療従事者が、以下の大学等に小児、産科、アレルギー他に係る講師として、Webの利用や現地への派遣により講義を行った。（72件） （派遣先：長野県看護大学、信州大学医学部医学科・保健学科、佐久大学、松本短期大学、信州木曾看護専門学校、須坂看護専門学校、長野県、各市町村、各教育委員会、小学校等）</p>																
9	<p><b>【令和4年度に推進する事項】</b></p> <p>・県内の医療従事者を対象とした感染症センター（信州）、精神科研修・研究センター（駒ヶ根）、小児・周産期薬物療法（こども）等における研修の実施</p>	信州	S	<p>感染症センターにより以下の取組を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1, 日本感染症学会認定施設として感染症専門医を育成</li> <li>2, 医療機関内で感染制御に関わる薬剤師の短期研修開始に向けた準備</li> <li>3, 感染症に関する知識を広めるため、研修会の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症に関する講演会 第7回長野県 COVID-19 検討会（WEB） 120人</li> </ul> </li> </ol>																

			<p>長野放送 健康ばんざい 5月25日放送  長野県医学会特別講演 (WEB) 100人  MSD WEB全国講演会 How to treat COVID-19 (WEB) 6,000人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・抗菌薬適正使用に関する講演会  長野県肺炎シンポジウム (WEB) 60人</li> <li>・肺炎球菌ワクチンに関する講演会  関東甲信越肺炎球菌ワクチンセミナー (WEB) 170人</li> <li>・HIV・AIDSに関する研修会  2022年度HIV感染者・エイズ患者の在宅療養・介護の環境整備事業 (WEB) 2人</li> </ul>
10	同上	駒ヶ根	A <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲーム障害の概要について、一般向けとしては初めて「インターネット・ゲーム依存症公開講座」をオンラインで開催した。(接続数191施設)</li> <li>・複雑性PTSDの治療におけるトラウマ・アタッチメント問題への対応を医療関係者向けに解説する事を目的として、「子どものこころ診療センター公開講座」をオンラインで開催した。(接続数135施設)</li> <li>・認知症地域包括ケア及び地域連携を推進することを目的として、「認知症疾患医療センター研修会」をオンラインで開催した。(接続数85施設)</li> <li>・県内の医療従事者、一般向けにゲーム障害等の出前講座を12回実施した。</li> </ul>
11	同上	こども	A <ul style="list-style-type: none"> <li>・小児周産期薬物療法研修コースに1人の調剤薬局薬剤師を受け入れた。</li> <li>・薬剤師 (2年目) 1人が、信州医療センターを会場とした他施設研修 (9/26～9/30) に参加した。</li> </ul>

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

3 医療従事者の養成と専門性の向上

(4) 信州木曾看護専門学校の運営

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

最終的な目標である看護師国家試験では、2年連続で全員合格を達成した。

学生の確保対策では、学校訪問等ほぼ計画どおり実施したが、少子化、4年制大学・3年制看護専門学校の設立等の影響は大きく、学生確保は厳しさを増している。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績										
		病院	評定	取組結果及び取組の効果								
第1 3(4) 1	看護基礎教育の質を確保し、県立病院の持つ医療資源を活かして、地域医療、高度・専門医療等に幅広く対応しうる看護人材を、安定的かつ継続的に育成する。	木曾看護	A	【令和4年度在学生の状況】(令和4年4月1日現在)								
				学 年	出 身 地					男	女	
					上伊那	南信州	木曾	松本	その他	計		
				1 年	8人	4人	2人	5人	3人	22人	1人	21人
				2 年	8人	0人	3人	13人	3人	27人	4人	23人
				3 年	3人	6人	5人	7人	8人	29人	2人	27人

				計	19人	10人	10人	25人	14人	78人	7人	71人																																																												
<p>【看護師国家試験の状況】（試験：2月12日（日） 合格発表：3月24日（金））</p> <table border="1"> <tr> <td>受験者数</td> <td>合格者数</td> <td>合格率</td> <td>合格率（全国平均）</td> </tr> <tr> <td>28人</td> <td>28人</td> <td>100.0%</td> <td>90.8%</td> </tr> </table> <p>【令和5年度卒業生の進路】</p> <table border="1"> <tr> <td rowspan="2">就職</td> <td>木曾</td> <td>上伊那</td> <td>南信州</td> <td>その他県内</td> <td>県外</td> <td>うち機構病院</td> <td rowspan="2">進学</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>5人</td> <td>1人</td> <td>7人</td> <td>10人</td> <td>4人</td> <td>8人</td> <td>1人</td> </tr> </table> <p>【特色あるカリキュラム】</p> <table border="1"> <tr> <td>項目</td> <td>年間実績</td> <td>年間計画</td> <td>対計画</td> <td>前年度実績</td> <td>対前年度比</td> </tr> <tr> <td>授業・課外活動</td> <td>9件</td> <td>9件</td> <td>100.0%</td> <td>8件</td> <td>112.5%</td> </tr> </table> <p>【特色あるカリキュラムの内容】</p> <table border="1"> <tr> <td>実施項目</td> <td>学年</td> <td>実施日</td> <td>実施場所</td> </tr> <tr> <td>地域で生活する人を知る実習</td> <td>1</td> <td>4月16日～4月23日</td> <td>ふらっと木曾以下14施設</td> </tr> <tr> <td>看護の日（看護チラシ配布、ごみ拾い）</td> <td>1・2</td> <td>5月12日</td> <td>イオン等</td> </tr> <tr> <td>ほおば巻づくり</td> <td>1</td> <td>6月24日</td> <td>文化交流センター</td> </tr> <tr> <td>森林セラピー（環境論）</td> <td>1</td> <td>7月26日</td> <td>赤沢自然休養林</td> </tr> <tr> <td>里山歩き（環境論）</td> <td>1</td> <td>6月27日</td> <td>本校周辺里山</td> </tr> </table>													受験者数	合格者数	合格率	合格率（全国平均）	28人	28人	100.0%	90.8%	就職	木曾	上伊那	南信州	その他県内	県外	うち機構病院	進学	人数	5人	1人	7人	10人	4人	8人	1人	項目	年間実績	年間計画	対計画	前年度実績	対前年度比	授業・課外活動	9件	9件	100.0%	8件	112.5%	実施項目	学年	実施日	実施場所	地域で生活する人を知る実習	1	4月16日～4月23日	ふらっと木曾以下14施設	看護の日（看護チラシ配布、ごみ拾い）	1・2	5月12日	イオン等	ほおば巻づくり	1	6月24日	文化交流センター	森林セラピー（環境論）	1	7月26日	赤沢自然休養林	里山歩き（環境論）	1	6月27日	本校周辺里山
受験者数	合格者数	合格率	合格率（全国平均）																																																																					
28人	28人	100.0%	90.8%																																																																					
就職	木曾	上伊那	南信州	その他県内	県外	うち機構病院	進学																																																																	
	人数	5人	1人	7人	10人	4人		8人	1人																																																															
項目	年間実績	年間計画	対計画	前年度実績	対前年度比																																																																			
授業・課外活動	9件	9件	100.0%	8件	112.5%																																																																			
実施項目	学年	実施日	実施場所																																																																					
地域で生活する人を知る実習	1	4月16日～4月23日	ふらっと木曾以下14施設																																																																					
看護の日（看護チラシ配布、ごみ拾い）	1・2	5月12日	イオン等																																																																					
ほおば巻づくり	1	6月24日	文化交流センター																																																																					
森林セラピー（環境論）	1	7月26日	赤沢自然休養林																																																																					
里山歩き（環境論）	1	6月27日	本校周辺里山																																																																					

盲・ろう学校訪問（人間関係論）	1	10月12日・13日	松本盲・ろう学校
第7回白凜祭（学校祭）	1～3	10月8日	当校
そば打ち（食育学習）	2	10月31日	ふるさと体験館
アイスクャンドル制作	2	1月18日	木曾町八沢

【地元行事等への参加】

項目	年間実績	年間計画	対計画	前年度実績	対前年度比
地元行事等	3件	8件	25.0%	1件	300.0%

・新型コロナウイルス感染症の蔓延により6行事が中止又は不参加となった。

【2年生から1年生へ技術伝授】（基礎的な看護技術の習得と実勢力の向上の工夫）

項目	4年度	3年度	対前年度比
ベットメイキングテスト合格率	100%	100%	100%

【国家試験対策の推進及び受験のサポート】

全国模試、過去問試験の実施等	年間実績	年間計画	対計画	前年度実績	対前年度比
2年	3回	4回	△1回	4回	75.0%
3年	33回	28回	5回	28回	117.9%

【その他のサポート】

学年	内容	年間実績	年間計画	対計画比	前年度実績	対前年度比
2年	国試ガイ	1回	1回	100%	1回	100%





				学校評議会	1回	1回	100%	1回	100%		
				自己点検・自己評価の公表	1回	1回	100%	1回	100%		
2	看護教員の確保及び資質向上のため、教員の放送大学等の受講を推進する。	木曾看	A	【教員の養成講習会への派遣、大学での単位取得】							
				項目	実績	年間計画	対計画比	前年度実績	対前年度比		
				教務主任養成講習会	0人	0人	100%	1人	皆減		
				放送大学	3人	3人	100%	3人	100%		
				その他大学	1人	1人	100%	1人	100%		
3	【令和4年度に推進する事項】 ・今年度開始される改正カリキュラムによる学校運営を着実に実施	木曾看	A	・2、3年生は旧カリキュラムにより。1年生は新カリキュラムにより授業を実施。							
4	【令和4年度に推進する事項】 ・入学生の質及び数の確保のため、オープンキャンパスの回数増、SNSによる情報発信、新聞広告及び出前講座の実施等による広報の充実	木曾看	A	【入学生の質及び数の確保】 ・令和5年度入学試験の状況							
				項目	年間実績	年間計画	対計画比	前年度実績	対前年度比		
				出願	40人	—	—	54人	74.1%		
				受験	39人	—	—	51人	76.5%		
				合格	29人	—	—	26人	111.5%		
				入学	23人	30人	76.7%	21人	109.5%		
				・入学生の出身地（令和5年4月1日現在）							
				諏訪	上伊那	南信州	木曾	松本	長野	北信	県外
				1人	5人	2人	3人	7人	1人	1人	3人
									男	女	計
									3人	20人	23人

項目	年間実績	年間計画	対計画比	前年度実績	対前年度比	備考
高校訪問	62校	61校	101.6%	65校	95.4%	
ガイダンス・模擬授業	12回	13回	92.3%	13回	92.3%	
オープンキャンパス	3回	3回	100%	2回	150%	保護者を含む。
	132人	130人	101.5%	113人	116.8%	
ブログ更新	42回	41回	102.4%	41回	102.4%	
インスタグラム	12回	10月開始	—	—	皆増	
新聞広告	4回	3回	133.3%	3回	133.3%	信毎、中日

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

4 医療の質の向上に関すること

(1) より安全で信頼できる医療の提供

〔自己評定〕 B

〔自己評定の理由〕

医療安全相互点検については、医療安全管理者による点検評価を行った。また、コロナ禍で中止していた医療安全管理者研修について、職員間のコミュニケーションをテーマとしてWeb方式で開催した。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第1 4(1) 1	各病院が連携して医療安全対策を推進し、各病院の医療安全の標準化と質の向上に努める。	信州	A	<p>・5病院共通の医療安全チェックシートを活用した自己点検を各部署の部署長と医療安全管理委員会を中心に行った。自己点検を行うことで、自施設でできていないことを明確にすることができた。今後も引き続き点検を行い、課題を明らかにしていくと共に、スタッフの医療安全に対する意識付けを行っていく。</p> <p>医療安全相互点検については、新型コロナウイルス感染症のさなかではあったが、外来部門を中心に、他病院からラウンドに入ってもらった。様々な方面から指摘をもらい安全対策の向上が図れた。</p>

2	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療安全に関わる全職員向けの必須研修会を12回開催した。</li> </ul>
3	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・院内における医療安全研修会の実施（令和4年度 7回開催 延受講者 595人）</li> <li>・地域連携室へ専従看護師を配置し、入院当初から退院支援を行うことにより患者・家族が安心できる環境を継続した。また、入退院スクリーニングシートを見直し、新たに退院調整記録を設け、調整の状況や地域連携室が把握した情報を時系列順に一括して記録した。同時に入退院支援加算の算定フローも見直し、算定数は増加した。（令和3年度94件→令和4年度169件、前年比179.8%）</li> <li>・摂食嚥下障害看護認定看護師を中心に多職種が参加する摂食嚥下チームによる誤嚥減少への取組を継続した。（嚥下内視鏡検査：9件、嚥下造影検査：9件、摂食機能療法算定：89件、摂食嚥下機能回復体制加算2算定：8件）</li> </ul>
4	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部署のリスクマネージャーによる医療安全推進部会を毎月実施した。また、8月から1月にかけて院内巡視を実施</li> <li>・県医療安全管理者会議を毎月Webにて実施した。</li> <li>・医療安全研修会はナースングスキルを活用し、2回開催（委託業者除く） 第1回 インシデントレポートの書き方 参加率100% 第2回 5S活動推進と理解 参加者100%</li> <li>・院内BLS研修会を当院医師が講師となり、基礎編・応用編の2部編成で計10回開催し、194人が修了した。応用編では院内急変対応デモンストレーションをファシリテーターが実施し、急変対応に対する理解が向上、学習意欲が醸成され部署学習も増えている。本年度より技術向上のため木曾広域消防へ指導参加を依頼した。</li> <li>・医療安全推進者研修は、医療安全推進部会及び新人研修にて参加を促した。</li> </ul>
5	同上	こど	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で実施できていなかった現場で行う相互点検を3年ぶりに実施できた（薬剤部・外来）。定期的な時計の時間合わせは、点検を機に対策を講じ継続した。</li> </ul>

		も	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療安全管理者研修会を6月に「個人情報の保護と守秘義務」、11月に「過去の事故を風化させない～事故事例から知る再発予防策～」というテーマで実施した。アンケートでは事例に基づく内容であり理解度が深まるとの意見が多かった。委託職員・育児及び療養休暇者を除く100%の職員が視聴できた。</li> <li>・看護部では約2年間実施してきた「全看護師が安全な看護技術を提供できるプロジェクトチーム」の最終年となり、今年度は膀胱留置カテーテル挿入・浣腸・温罨法のOSCE（客観的臨床能力試験）を全看護師に実施し9月で終了した。医師も本プロジェクトで作成した動画を活用しており、質の担保をする上での一方法となった。</li> </ul>
6	<p>同上</p> <p>【令和4年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療安全相互点検の実施及び医療安全管理研修会の開催（本部）</li> </ul>	本部	<p>B</p> <p>医療安全相互点検の実施及び医療安全管理研修会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5病院を各病院の医療安全管理者等で点検、評価を実施した。（再点検項目については、点検、評価を行った病院において、すべて改善）</li> <li>・コロナ禍で中止していた医療安全管理者研修について、職員間のコミュニケーションをテーマとしてWeb方式で開催した。</li> <li>・県立病院の職員及び総合リハビリテーションセンターの職員並びに県内病院の医療安全管理者を対象に、長野県と共催で、「医療の質を支える医療安全文化の醸成」をテーマに研修会を開催した。</li> </ul>
7	院内感染防止のため、県立病院間で情報の共有化を図りながら、発生予防と拡大防止対策を推進する。	信州	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染対策を考慮し、県立病院安全管理者会議をZOOMによるオンライン会議とした。毎月第2金曜日を会議開催日として、各病院間で情報共有を行った。</li> </ul>
8	同上	駒ヶ根	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・診療報酬改定にて新設された、「感染対策向上加算3」の届出を行い、木曽病院と昭和伊南総合病院主催の合同カンファレンスに各4回参加した。</li> <li>・木曽病院との合同カンファレンスで県立病院間での情報共有・意見交換を行った。</li> <li>・木曽病院の感染管理認定看護師より、新型コロナウイルス感染者の受け入れや対応について訪問指導を3回受けた。</li> </ul>

				・参照(p.4-No.2)
9	同上	阿南	A	・放射線安全管理研修会・医療機器安全管理研修会・薬剤安全管理研修会をナーシングスキル配信で実施した。
10	同上	木曾	A	・医療安全推進者研修は、医療安全推進部会及び新人研修にて参加を促した。
11	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の第7波、第8波に伴う感染管理業務と、4月の診療報酬改定に伴う「感染対策向上加算I」要件の厳格化への対応により、ICN（感染制御看護師）に係る負担増は継続しているが、ICT（感染対策チーム）が主導した院内感染対策を全職員が実践したことにより、当院での院内感染発生は、院内保育所を含めた小規模クラスター3件のみに抑え、入院制限を要する院内感染事例は防ぐことができた。</li> <li>・加算要件に則った感染管理地域支援活動についても想定以上に実施できた。</li> <li>・県立病院の感染管理者による連携活動については業務多忙化の中で進まず、連携会議も未開催であった。</li> </ul>

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

4 医療の質の向上に関すること

(2) 医療等サービスの一層の向上

〔自己評定〕 B

〔自己評定の理由〕

各病院においては、患者満足度調査の結果を参考によりよい患者サービスの提供に努めた。

木曾病院では、電子カルテ更新に合わせて、番号案内表示システムと自動精算機を導入し、患者の利便性向上に努めた。

こども病院では、慢性疾患児等に対し、地域の教育支援者や福祉関係者と連携した学習支援及び就労支援を行った。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第1 4(2) 1	患者満足度調査により患者及び家族の要望・要求を把握・分析した上で、よりよい患者サービスの提供に努める。 患者の病院選択に資する臨床評価指標及び医療の質の評価指標の提供	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>患者満足度調査による患者サービスの検討 令和3年度患者満足度調査の集計・分析結果の報告会を開催し、職員間での情報共有と改善策検討を行った。当年度も10月に外来及び入院患者に対しアンケートを実施。</li> <li>サービス向上委員会において、下記事業を実施。 「接遇標語」の作成 全職員を対象とした接遇研修</li> </ul>

	や、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の実践に向けた検討等、患者サービスの一層の向上に努める。			いいところ探しの募集及び院内外への紹介												
				<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>在宅復帰率</td> <td>93.7%</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>93.6%</td> <td>100.1%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・自宅へ退院した患者の割合が増え、在宅復帰率が向上した。</p>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	在宅復帰率	93.7%	—	—	93.6%	100.1%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比											
在宅復帰率	93.7%	—	—	93.6%	100.1%											
2	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>患者満足度調査を実施し、入院は62人、外来は263人より回答があった。</li> <li>調査結果については、病院運営会議にて報告し共有した。また、セクションごとに結果の考察と、今後の対応について検討し、患者満足度の向上・維持への取り組みを進めた。</li> <li>全国自治体病院協議会の医療の質の評価の指標を活用し、3ヶ月以内の再入院防止に向けて全国と比較した。</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>再入院率※</td> <td>17.9%</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>18.4%</td> <td>97.3%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※令和4年4月から9月の全国平均は18.1%</p>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	再入院率※	17.9%	—	—	18.4%	97.3%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比											
再入院率※	17.9%	—	—	18.4%	97.3%											
3	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の薬剤師との連携の維持、病棟専任薬剤師の配置等により、病棟薬剤業務の強化を図った。</li> <li>時間予約制や眼科、泌尿器科、整形外科、精神科の午後診療の周知により、患者の利便性の向上を推進した。</li> <li>サービス向上・接遇委員会において接遇対応の月間目標の設定、また、経営企画会議においては満足度調査の分析から改善策を検討し実施することで、患者サービス意識の向上に努めた。</li> </ul>												
4	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>サービス向上委員会で「接遇標語」を作成、院内各所に掲示し周知するとともに接遇研修会を実施、患者サービスの意識向上に努めた。</li> <li>職員の電話対応の意識向上に向け、自己の振り返りを全職員に対し実施、調査結果をもとにより良い対応に努めた。</li> <li>入院、外来患者を対象とした患者満足度調査を実施、結果を参考に患者サービスのさらなる向上に努めた。</li> </ul>												



5	同上	こ ど も	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者満足度調査の結果は、ホームページへ掲載のほか家族ラウンジ等で閲覧可能とするなど、公開に努めた。</li> <li>・今年度の回収数は入院が111人（対前年度比△18人）、外来が241人（対前年度比△45人）</li> <li>・入院満足度は7指標中、医療職及び診療満足度は昨年度と同様の高水準だが、再利用意向、事務職満足及び入院環境満足が昨年度を下回った（参加病院平均よりは高水準）。</li> <li>・事務職満足度は、参加病院平均を大きく上回るものの8項目全てで昨年度を下回った。特に、受付（時間外含む。）及び会計窓口の満足度が大きく下回っており、要因分析と改善策を講じていく必要がある。</li> <li>・外来満足度は昨年度8項目全てで前年を下回っていたが、本年度は6項目で上昇。特に医療と診療待ち時間の満足度が上がっている。</li> <li>・患者満足度調査の結果は、各項目の分析や自由記載欄を参考に、各部署で検討、対策を立てて満足度の向上に努めている。</li> <li>・昨年度に引き続き病院の臨床評価指標をホームページへ掲載し、患者の病院選択に資するよう努めている。</li> <li>・臨床倫理的検討が必要な事案について、院内共有とともに自由に話題にできる環境を作り、医療現場での倫理的思考の醸成を図ることを目的とした臨床倫理カンファレンスを4回開催した。</li> </ul>
6	<b>【令和4年度に推進する事項】</b> ・番号案内表示システム、自動精算機の導入 （信州・木曾）	信 州	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染者過去最多となる第7、8波が到来し県内の感染者数の大幅な増加に伴い受診者数も増加し、院内の診療及び受け入れ体制強化に対応する必要があったため、次年度以降に導入を延期した。</li> </ul>
7	同上	木 曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子カルテ更新に合わせて、番号案内表示システムと自動精算機を導入し、5月1日から稼働した。</li> </ul>
8	<b>【令和4年度に推進する事項】</b> ・個室病室のトイレ等設備の設置改修を実施し、様々な患者のニーズに対応した入院環境を整備（阿	阿 南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個室病室1室をトイレ、シャワー付きに改修し、患者のニーズに対応した入院環境を整えた。</li> </ul>

	南)																																					
9	<b>【令和4年度に推進する事項】</b> ・ACP（アドバンス・ケア・プランニング）に基づくリビングウィル（事前指示書）について、ポスターの院内掲示、パンフレットの設置、患者サポートセンター内の相談窓口の設置等により取組を推進（木曽）	木 曾	A	・患者サポートセンター内に相談窓口を設置するとともに、院内掲示、地域の広報を行った。 ・看護協会木曾支部と木曾広域連合在宅医療介護連携支援センター共催で、地域の医療・介護スタッフ向けのACP研修会を行った。 ・木曾郡の主任ケアマネ会議でACP研修会を行った。																																		
10	<b>【令和4年度に推進する事項】</b> ・ボランティアの募集に係る仕組み作りと、その受入れによるサービスの向上	木 曾	A	・病院だより、HP、町村広報紙による広報や木曾地域イベントでボランティア参加者の募集活動を行い、9人の申し込みがあった。患者の移動案内・受付補助、車いすの移送、院内の消毒活動等の活動を開始。																																		
11	<b>【令和4年度に推進する事項】</b> ・患児の適性に配慮した就学、就労サポートを推進	こ ど も	A	<b>【学習サポート事業】</b> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>人数</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>就労支援事業 (個別相談)</td> <td>延べ6人</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>延べ7人</td> <td>85.7%</td> <td>雇用形態、就職試験についてなど</td> </tr> <tr> <td>就労支援事業 (集団講和)</td> <td>4回 延べ37人</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>4回 延べ34人</td> <td>—</td> <td>就労準備性、ハローワーク・福祉関連の利用方法など</td> </tr> <tr> <td>就学支援相談</td> <td>延べ43人</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>延べ15人</td> <td>286.7%</td> <td>発達検査と学校との連携、高校進学・見学、授業環境、大学進学に向けた相談など</td> </tr> </tbody> </table>							項目	人数	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	内容	就労支援事業 (個別相談)	延べ6人	—	—	延べ7人	85.7%	雇用形態、就職試験についてなど	就労支援事業 (集団講和)	4回 延べ37人	—	—	4回 延べ34人	—	就労準備性、ハローワーク・福祉関連の利用方法など	就学支援相談	延べ43人	—	—	延べ15人	286.7%	発達検査と学校との連携、高校進学・見学、授業環境、大学進学に向けた相談など
項目	人数	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	内容																																
就労支援事業 (個別相談)	延べ6人	—	—	延べ7人	85.7%	雇用形態、就職試験についてなど																																
就労支援事業 (集団講和)	4回 延べ37人	—	—	4回 延べ34人	—	就労準備性、ハローワーク・福祉関連の利用方法など																																
就学支援相談	延べ43人	—	—	延べ15人	286.7%	発達検査と学校との連携、高校進学・見学、授業環境、大学進学に向けた相談など																																

			<ul style="list-style-type: none"> <li>介入件数は21人で、主な相談内容は、発達検査と学校との連携、高校進学・見学について、授業環境の相談、大学進学に向けた相談であった。</li> </ul>																
12	<p><b>【令和4年度に推進する事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>患者の入院前から退院後までを多職種連携で支援する「患者サポートセンター」の取組を推進</li> </ul>	こども	<p>A</p> <p><b>【患者サポートセンターの取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>上半期に脳神経外科、泌尿器科、整形外科、下半期に耳鼻科、循環器科（心臓カテーテル検査）で新規介入を開始。また、10月から開始した側弯症手術の入退院支援を開始。</li> <li>薬剤師の入院前支援として、手術前中止薬の確認・代替薬提案を行った。</li> <li>入退院支援加算実績</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院時支援加算1及び2</td> <td>78件</td> <td>10件</td> <td>780.0%</td> </tr> <tr> <td>入退院支援加算1</td> <td>834件</td> <td>696件</td> <td>119.8%</td> </tr> <tr> <td>入退院支援加算3</td> <td>209件</td> <td>167件</td> <td>125.1%</td> </tr> </tbody> </table> <p>(対応疾患)</p> <p>鼠経ヘルニア、停留精巣、陰嚢水腫、胃瘻造設・噴門形成、喉頭気管分離、漏斗胸、眼瞼下垂、脊髄脂肪腫、もやもや病、泌尿器科手術、側弯手術、検査入院（神経小児科）、扁桃摘出術アデノイド切除術、チュービング、心臓カテーテル検査</p>	項目	実績	前年度実績	対前年度比	入院時支援加算1及び2	78件	10件	780.0%	入退院支援加算1	834件	696件	119.8%	入退院支援加算3	209件	167件	125.1%
項目	実績	前年度実績	対前年度比																
入院時支援加算1及び2	78件	10件	780.0%																
入退院支援加算1	834件	696件	119.8%																
入退院支援加算3	209件	167件	125.1%																

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

4 医療の質の向上に関すること

(3) 先端技術の活用

〔自己評定〕 B

〔自己評定の理由〕

信州医療センター及び木曽病院では、一部の外来診療科においてA I問診サポートを活用し、患者待ち時間の短縮や診療の効率化を図った。

阿南病院では、売木村診療所にいる患者を病院にいる医師が診るオンライン診療を開始した。

各病院では、新型コロナウイルス感染症対策のためオンライン面会や電話診療を実施し、患者の利便性を図った。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第1 4(3) 1	訪問診療等における遠隔診療の実施や、電子カルテの相互参照、モバイル端末による医療従事者間の情報共有等、医療分野における先端技術の活用により、医療従事者の負担軽減及び業務の効率化を推進するとともに、地域の診療機能の充実を図り医療・介護サービスを提供する。	信州	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来の一部診療科でタブレットによるA I問診サポートを継続し、医師、看護師における問診時間の削減、カルテ記載業務の大幅な効率化、患者との対話時間の増加及び診療待ち時間短縮による患者満足度の向上を図った。</li> <li>・オンライン診療については、現在の無線LAN以上の通信速度が求められ無線環境整備に多額の投資を要することが判明し、設備更新については今後検討を行うこととした。</li> <li>・令和4年度は電話診療を284件実施した。</li> </ul>

	<p>【令和4年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン診療の実施</li> </ul>																			
2	<p>同上</p>	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の預り金に係る「ICカードキャッシュレス管理システム※」の導入を計画し、令和5年4月からの稼働ができるよう、院内、関連する業者等と調整を行った。</li> <li>※入院患者が利用する売店、ランドリー、自動販売機、電話について、現金をチャージしたICカードのみ使用できるようにするシステム</li> </ul>																
3	<p>同上</p> <p>【令和4年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の受診機会増を目的としたオンライン診療の導入・拡充</li> </ul>	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・院内医療情報システムと信州メディカルネットを接続し、相互データ参照・公開を行った。</li> <li>・入院患者に対する面会制限の代替手段としてオンライン面会を実施した。(9回)</li> <li>・発熱患者に対する問診を非接触で行うWeb問診を導入した。(28回)</li> <li>・売木村診療所にいる患者を病院にいる医師が診るオンライン診療を開始した。(30回)</li> </ul>																
4	<p>同上</p> <p>【令和4年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外来診療（発熱外来含む）におけるAI問診サポートの活用</li> </ul>	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症対策で面会禁止となっている入院患者にオンラインによる面会を実施した。</li> <li>・外来診療（内科）においてAI問診サポートを活用した。</li> </ul>																
5	<p>同上</p> <p>【令和4年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン面会システムの活用（こども）</li> </ul>	こども	A	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電話診療実施件数</td> <td>448人</td> <td>271人</td> <td>165.3%</td> </tr> <tr> <td>オンライン面会件数</td> <td>25件</td> <td>57件</td> <td>43.9%</td> </tr> <tr> <td>オンライン診療件数</td> <td>12人</td> <td>—</td> <td>皆増</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来院の必要が無い患者に対する電話診療による処方箋を発行する診療体制を継続し、各診療科へ電話診察の運用が浸透したことにより過去最高の件数となった。</li> <li>・面会制限で患児と面会できない家族のためのオンライン面会システム運用を継続</li> <li>・10月からEラーニングシステムを用いた動画研修によるオンライン産前保健指導を開始</li> <li>・1月から形成外科でオンライン診療を開始し、県外等遠方からの受診患者の利便性向</li> </ul>	項目	実績	前年度実績	対前年度比	電話診療実施件数	448人	271人	165.3%	オンライン面会件数	25件	57件	43.9%	オンライン診療件数	12人	—	皆増
項目	実績	前年度実績	対前年度比																	
電話診療実施件数	448人	271人	165.3%																	
オンライン面会件数	25件	57件	43.9%																	
オンライン診療件数	12人	—	皆増																	

--	--

	上を図るとともに情報機器を用いた診療に係る施設基準を取得（専用の遠隔診療システムを使用）
--	----------------------------------------------

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

4 医療の質の向上に関すること

(4) 信州大学等との連携

〔自己評定〕 B

〔自己評定の理由〕

こころの医療センター駒ヶ根及びこども病院は、信州大学との協定に基づく連携大学院教育により、臨床業務に携わりながら研究活動を行う医学博士取得を目指す医師を養成した。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第1 4(4) 1	<p>こころの医療センター駒ヶ根及びこども病院における信州大学との連携大学院教育等により、職員の研究活動を推進し専門性の高い医師等の養成を行う。</p> <p>【令和4年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連携大学院教育による勤務医の博士号の取得及び職員の研究活動の促進（駒ヶ根・こども）</li> </ul>	駒ヶ根	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携大学院教育制度在籍中の勤務医2人が博士取得に係る研究を引き続き行った。</li> </ul>

2	同上	こども	A	(連携大学院)					
				項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
				入学者数	4人	—	—	3人	100.0%
				セミナー開催	12回	—	—	8回	150.0%
				<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携大学院学生は、新規進学者4人を加え、12人となった。</li> <li>・第一期生4人が全員学位を取得し、卒業した。</li> <li>・連携大学院セミナーを毎月、Webにて開催している。</li> </ul>					
3	<p>信州医療センターは、信州大学との寄附講座により総合内科専門医の養成を行う。</p> <p><b>【令和4年度に推進する事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・信州大学医学部との寄附講座と連携した総合内科専門医の育成プログラムの策定及び専門研修医の受入れ（信州）再掲</li> </ul>	信州	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度開設した総合内科医育成学講座(寄附講座)に関する協定により、信州大学から担当教員（内科系）2人の配置を受け、研修プログラム作成と専門医確保の準備に着手しているが、日本専門医機構が認定するサブスペシャリティ領域に総合内科が認定されていないため、事業の進捗が遅れている。</li> </ul>					
4	<p><b>【令和4年度に推進する事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「子どもの心の診療ネットワーク事業」による児童精神科医の育成（駒ヶ根・こども）</li> </ul>	駒ヶ根	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童精神科医師がネットワーク事業連絡会議に参加し、全国の取組みについて情報収集を行った。</li> </ul>					
5	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県から「発達障がい診療専門家現地派遣事業」の一部委託を受け、信州大学医学部附属病院、こころの医療センター駒ヶ根とともに、県内10圏域の地域連携病院と保健福祉事務所で企画する研修会に講師として専門家を派遣し、各圏域における発達障がい診療のネットワークづくりに寄与した。</li> <li>・各圏域での連携会は12回、参加者数は668人であった。感染症拡大防止のため、オンライン開催が定着した。また、医師向け研修会はオンラインで実施し、86人が受講し、かかりつけ医の発達障害理解促進に寄与した。</li> </ul>					



第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

4 医療の質の向上に関すること

(5) 医療に関する研究及び調査の推進

〔自己評定〕 B

〔自己評定の理由〕

各病院では、学会、公開講座及び出前講座等において、またホームページや各種メディアを通じて、各病院で行った調査研究の成果を、積極的に情報発信し県民の健康増進に貢献した。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績	
		病院	評定 取組結果及び取組の効果
第1 4(5) 1	臨床研究を推進して研究機能を向上させ、医療技術・医療水準の向上に努める。 病院機構が行っている取組や研究の成果を、テレビや新聞、ホームページ、公開講座等を通じて広報する。	信州	A <ul style="list-style-type: none"> <li>・学会、院内研修会等の活動、医療に関する職員の学術研究や講演会活動実績を病院ホームページにて公開した。</li> <li>・院外広報誌「かがやき」を5月、9月、1月に発行し、須高地域に全戸配布を行った。</li> <li>・マスメディアを利用した病院広報・PRにより健康に関する関心を高め、地域の健康増進に寄与した。</li> <li>・新聞 須坂新聞3回（看護師特定行為研修、市民健康づくり講座等）</li> <li>・テレビ関連</li> </ul>

				<p>Goolight (須高ケーブルテレビ)「新型コロナウイルスとインフルエンザの同時感染の可能性について」</p> <p>その他コロナウイルス関連で感染症専門医師が各局の取材に対応</p>
2	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開講座 4件 (オンライン開催)</li> <li>8月「認知症疾患医療センター研修会」(外部講師) 接続数85施設</li> <li>10月「ネット・ゲーム依存症について～一般のみなさんにわかりやすくお話しします～」(講師 足立医監) 接続数191施設</li> <li>12月「令和4年度長野県依存症研修会」(外部講師) 聴講者83人</li> <li>3月「子どものこころ診療センター公開講座」(外部講師) 接続数135施設</li> <li>・出前講座 12回</li> <li>インターネット・ゲーム依存 5回 (現地2回、オンライン開催3回)</li> <li>服薬指導 (オンライン開催) 2回</li> <li>ゲートキーパー (オンライン開催) 3回</li> <li>マインドフルネス (現地開催) 1回</li> <li>PFA(心理的応急処置)研修 (現地開催) 1回・新聞掲載</li> <li>信濃毎日新聞 3回 (r TMS治療開始、インターネット・ゲーム依存、摂食障害)</li> <li>中日新聞 1回 (r TMS治療開始)</li> <li>長野日報 2回 (r TMS治療開始、訪問看護ステーション「こまほす」開設)</li> <li>医療タイムス 2回 (r TMS治療開始、訪問看護ステーション「こまほす」開設)</li> </ul>
3	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出前講座メニュー数の充実 (令和3年度27項目から令和4年度29項目)</li> <li>・出前講座実施8回 参加者136人</li> </ul>
4	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木曾病院年報に研修・研究の取組み内容及び成果を掲載した。(7月に年報発刊)</li> <li>・業務実績、医療の質、病院情報についてホームページへ掲載するとともに、ツイッターによる広報も併せて実施し、情報発信を行った。</li> <li>・職員の学術研究活動について、学会誌への掲載等の実績をホームページで紹介した。</li> </ul>

				<ul style="list-style-type: none"> <li>・院外広報誌「木曽病院だより」を6月、9月、12月、3月に年4回発行し、広報活動を行った。</li> </ul>
5	同上	こども	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英文専門誌（PubMed掲載論文）に33編の論文が掲載された。そのうち10編は生命科学研究センターの組織名が記載された論文であり、同センターのホームページで公開された。</li> <li>・病院の医学指標を機構本部のホームページで、また各診療科での診療実績や手術成績については当院のホームページで公開した。</li> <li>・院内外向け広報誌「しろくまニューズレター」を6回発行して広報した。</li> <li>・難病の先天性心疾患の高難度手術3つを同時に施行し、成功した世界初の成果について記者会見を行った。</li> <li>・NHK病院ラジオ「長野子ども病院編」が放送された。</li> <li>・長野県口唇口蓋裂センター主催の公開講座「口唇裂・口蓋裂のはなし～口唇裂口蓋裂治療の長期経過～」をWEBにて開催した。</li> <li>・市民公開講座「オプション新生児スクリーニング検査」をハイブリッド形式で開催した。</li> <li>・院内規程による臨床医学研究助成制度において、新たに5人の研究を採択し研究を支援した。</li> </ul> <p>令和3～4年度採択課題 8課題（研究終了報告は「こども病院医学雑誌」に掲載の予定） 令和4～5年度採択課題 5課題（引き続き研究を継続）</p> <p>○韓国ソウル国立大学病院との国際交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7月7日にソウル国立大学病院小児病院から6人を当院に迎え、両国の病院長により交流推進に向けた覚書を締結</li> <li>・ソウル国立大学病院小児病院との交流を機会に「国際交流推進委員会」を設置</li> </ul>

				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1月12日～14日に当院から7人がソウル国立大学病院小児病院及びアサンメディカルセンターへ視察研修。(医師3人、看護師、薬剤師、臨床検査技師、事務職員各1人) 病院見学および職種ごとに分科会を設け、相互理解を深めるとともに今後の交流の方向性についてディスカッションした。</li> <li>・ 3月14日にソウル大学病院小児病院訪問の報告会を開催し、訪問者7人による各職種における先方の組織体制や運営、先進的なシステム等に関する報告を行った。</li> </ul> <p>○令和4年度二国間セミナー支援事業(トゥルク大学:フィンランド)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8月8日～11日にフィンランドにおいてトゥルク大学と当院との二国間セミナーを実施し、当院から8人が参加(1人はWebで参加)。</li> <li>・ 9月12日に帰国報告会を開催し、10月14日に日本学術振興会に最終報告書を送付した。新生児科では訪問によって体験した先進の”Family Centered Care”の利点を当院で生かすべく取り組みを開始した。</li> </ul>
6	<p>【令和4年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県立病院の担う医療、各種データ、研究成果等を網羅した「機構年報」の発刊</li> </ul>	本部	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和5年1月に発刊し、関係機関に配布した。</li> </ul>
7	<p>【令和4年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 科研費の活用による研究の促進と最先端医療に対応できる人材の育成</li> </ul>	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ AMED、厚労科研、文部科研、民間研究資金等の外部資金による13研究課題を実施した。</li> <li>・ 2023年度文部科研に4課題を申請し、1課題が採択された。</li> <li>・ 院内研究助成2022～2023年度に5件の研究課題を採択し、新たな研究を実施した。</li> </ul>
8	<p>【令和4年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療技術、医療水準の向上に資する「長野県立こども病院医学雑誌」の発行</li> </ul>	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長野県立こども病院医学雑誌第5巻を刊行した。</li> <li>・ 総説1編、原著1編、症例報告2編、短報3編と、院内多職種から投稿があり、充実した内容となった。また、臨床医学研究助成制度による研究支援期間が終了した13人も研究成果を報告した。</li> </ul>

## 第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

### 1 業務運営体制の強化

〔自己評定〕 B

〔自己評定の理由〕

各病院は、職員満足度調査等を活用し、職員が意欲を持って働くことのできる職場環境を整備するため、調査の集計・分析結果の報告会等により結果を共有し、職員のモチベーションの維持・向上に努めた。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第2 1 1	令和2年度試行的に導入した人事評価制度の円滑な運用と検証を行うとともに、医療環境の変化に柔軟に対応し、医療機能や病院規模に応じた適切な職員配置を進める等、的確な組織・人事運営を図る。	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・求められる医療サービスの提供に必要な職員を配置した。</li> <li>・医師についても、県ドクターバンクを始め、医師紹介サイト等を活用し、診療機能の維持に必要な人員確保に、積極的に取り組んだ。</li> <li>・看護師については、副看護部長を中心に適正人員配置試算表の活用について師長対象の勉強会を開催し、限られた人員の効果的活用について考えた。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症に関連した業務や役割が増え、その都度柔軟に体制や人員を調整して対応した。</li> <li>・全産育休者を対象にして、キャリアシート及び妊娠時の手続きフローシートを活用した面談を実施し、復帰に向けた支援を実施した。</li> </ul>

2	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度人事評価方針に基づき、各セクションにおいて、期首・中間・期末の目標設定及び面談を実施した。</li> </ul>
3	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病棟看護師の勤務形態選択肢拡充や通勤負担軽減等のため、二交代制と三交代制を併用している。</li> <li>・病棟看護師の業務負担軽減を図るべく病棟の看護補助者を増員した。(1人)</li> </ul>
4	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部署ごとに作成するBSC(バランススコアカード)と、新人事評価制度を連結し、各部署のBSCと各職員の目標設定との整合を図った。</li> </ul>
5	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人事評価は期首に目標設定の上評価者面談。中間評価面談を経て期末評価を実施し、人事評価委員会で結果を検証し、調整及び確定を行った。</li> <li>・医師の働き方改革への対応については、9月に改めてコンサルタント業務を委託し、委託者を交えた診療部各科とのミーティング実施等により、医師労働時間短縮計画の策定及び提出の準備を実施した。</li> </ul>
6	同上 <b>【令和4年度に推進する事項】</b> ・令和2年度に試行導入した人事評価制度の実績検証と課題整理及び見直し	本部	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試行導入している人事評価制度について、前年度の改正点を踏まえて実施し、次年度以降本格導入するための道筋をつけた。</li> </ul>
7	職員満足度調査等を活用し、職員が意欲を持って働くことのできる職場環境の整備に努める。	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年実施した職員組織文化に関する調査の集計・分析結果の報告会を開催した。</li> </ul>
8	同上	駒ヶ根	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度の「組織文化調査」及びストレスチェックの結果から、情報共有の改善に向けて各セクションで課題抽出を行い、下半期のアクションプランに改善策を取り入れて院内全体で取り組んだ。</li> <li>・職員への情報共有と院内コミュニケーションの円滑化を目的に、院内広報誌「猫べんちのつぶやき」を企画し、4回発行した。</li> </ul>

9	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員組織文化に関する調査の集計・分析結果の報告会を開催した。</li> <li>・職員のモチベーションアップに向け、経営企画会議において職場環境の改善に関する検討を行い、その多くを実現した。</li> </ul>
10	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・院長、看護部長、事務部長による「院内ラウンド」を月2回実施し、職員からの要望・意見等を収集し、必要な対策を実施した。</li> <li>・院内広報誌「時の河」を6月、10月、12月、3月に発行した。新入職員の紹介等実施し、コロナ禍での職員同士のコミュニケーションの一端を担い、業務が円滑に進むよう工夫した。</li> </ul>
11	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度に引き続き「病院の組織文化に関する調査」を実施。対象者623人のうち497人から回答があり、回答率は79.8%（対前年度比+2.0%）</li> <li>・「病院組織文化に関する項目（8項目）」は昨年度とほぼ同等の結果で、8項目全てで参加病院平均を上回っている。特に「士気とやる気」は高い自己評価結果となっている。</li> <li>・「業務、経営、職場環境等に関する項目（8項目）」も昨年度と大きな差異はないが、「改善の成果」及び「将来像」が昨年度を下回った。</li> <li>・調査の結果を踏まえて原因を分析するほか、自由記載欄のコメントも参考に、会議等を通じて職場環境の改善やさらなる向上に努めることとしている。</li> <li>・令和4年度の看護部目標として「自分のやりたい看護を実践し自信をもって生き生きと働ける看護師が増える」ためにどのような職場を目指すかを、師長会・副師長会合同で検討会を5月～8月にかけて実施した。その結果、看護部として1.『個々の能力やキャリアプランを踏まえた目標が立案でき、それを達成できるような成長のチャンスがお互いに与えられる職場環境』 2.『ヘルシーワークプレイスの実現に向けて取り組む職場環境・風土』の2つのビジョンを決定した。それに沿って各病棟で下半期目標を立案し実践した。</li> <li>・看護部では、振替休日取得率（取得率99%、昨年度比+19%）、年休取得数9.63日</li> </ul>

				<p>(昨年度比+3日)とそれぞれ改善した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・育児中の職員が早期に夜勤ができるように、夜間保育の実施・休業前と同じ職場への復帰など工夫した。</li> </ul>
12	同上	本部	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員満足度調査(組織文化調査等)について、調査実施機関(日本医療経営機構)から、具体的な取り組み案をあわせた調査結果報告を受け、職場環境の整備に努めた。</li> </ul>
13	病院運営に一体的に取り組むため、経営状況や経営改善の取組について情報共有に努める。	信州	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役職者を対象とした毎月の運営会議では、医事課での分析結果による患者状況の把握と会計決算係による収支の分析結果を組織全体で把握した。</li> <li>・全体朝礼で院長から、経営状況・課題・粗利益等を説明し、損益分岐点となる病床稼働率と医療看護必要度を維持するための病床運用への協力の呼び掛けがなされた。</li> </ul>
14	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営改善のための取組みとして、今年度から、毎朝実施しているベッドコントロール会議において月初めに前月の患者数を報告するほか、外来と調整し、毎日入退院予定後の患者数報告を開始した。</li> <li>・毎月の病院運営会議において、新たに各病棟の患者数状況や課題について病棟師長が報告する仕組みを取り入れた。</li> <li>・医師別の詳細な診療実績を幹部会議で共有し、その実績結果を医局会で周知する取組みを新たに開始した。</li> <li>・「病院運営会議だより」を毎月発行し、グループウェアを通じて全職員に対して決定事項及び経営状況の周知を行った。</li> </ul>
15	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・院内各部署における日頃の業務内容や調査研究、業務改善の取り組み等の報告を行う院内情報交換会を開催した。</li> </ul>
16	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の運営委員会で、経営状況表により経営状況を報告し、経営改善ニュースにより各科(課)が取り組む経営改善に関する情報を共有した。</li> </ul>



17	同上	こども	A	<table border="1" data-bbox="958 236 1953 339"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>立案件数実績</th> <th>実行件数実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>経営企画室プロジェクト</td> <td>22件</td> <td>13件</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="958 387 1953 491"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>増収額実績</th> <th>経費削減額実績</th> <th>経営改善総額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>経営改善実績</td> <td>195,119千円</td> <td>15,612千円</td> <td>210,731千円</td> </tr> </tbody> </table> <p>※主な取組事項による改善金額の合計</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月2回会議を実施し、病院の経営状況を確認するとともに、未来志向型のプロジェクトを策定し22件を立案した。</li> <li>・そのうち、オプション的 newborn スクリーニング検査事業の開始、側弯症手術の開始、病床再編成、病院将来構想座談会「患者さんと家族が将来のこども病院を語り合う会」開催等、13件についてプロジェクトチームや関連委員会を中心に取組を進め、プロジェクト実現により診療機能の強化や収益増加に繋がった。</li> </ul>	項目	立案件数実績	実行件数実績	経営企画室プロジェクト	22件	13件	項目	増収額実績	経費削減額実績	経営改善総額	経営改善実績	195,119千円	15,612千円	210,731千円
項目	立案件数実績	実行件数実績																
経営企画室プロジェクト	22件	13件																
項目	増収額実績	経費削減額実績	経営改善総額															
経営改善実績	195,119千円	15,612千円	210,731千円															
18	同上	本部	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理事会や院長会議等において、経営状況について報告し、機構内で情報を共有した。</li> </ul>														
19	【令和4年度に推進する事項】 時間当たり採算指標等を用いた職員の経営参画を促す仕組みの推進	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間当たり採算指標とBSCを用い、毎月のリーダー面談で課題の取組状況を確認、院長・事務部長面談により課題を共有、優良な取り組みは運営委員会で共有し、職場環境の改善を推進した。</li> <li>・経営改善ニュースを発行し、運営委員会で時間当たり損益及び各部署の取組状況の共有を実施した。</li> <li>・京セラ式アメーバ経営の運用及び病院機能評価の受審準備にあたって、課題の抽出、課題解決への進捗管理等、医療の質の継続的な改善を確保するため、院内で積極的に取り組む職員をQM推進員に任命し、院内での活動を開始した。</li> <li>・3月に令和4年度アメーバ経営報告会を開催し、各部署の取り組み及び時間当たり損益の報告と翌年度の取り組み内容を共有した。</li> </ul>														

## 第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

### 2 働き方改革への対応

〔自己評定〕 B

〔自己評定の理由〕

全所属における労働時間の適正把握のため、機構独自の勤怠管理システムによる管理を行った。

各病院は、業務の見直しや医師事務作業補助者の増員等による医師のタスク・シフティングを推進するなど、令和6年度から適用される医師の時間外労働の上限規制への対応に向けた体制準備を進めた。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績															
		病院	評定	取組結果及び取組の効果													
第2 2 1	医師の健康確保と地域医療の確保の両立を図りながら、医師の労働時間短縮に向けた取組（ICTの活用、タスク・シフト/シェア、交代制勤務の導入など）を推進する <b>【令和4年度に推進する事項】</b> ・医師から薬剤師へのタスク・シフト/シェアと薬剤師業務の軽減の検討	信州	B	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>超過勤務医師（1人平均）</td> <td>15,231時間56分 （390時間33分）</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>14,542時間35分 （354時間41分）</td> <td>104.7% 110.1%</td> </tr> </tbody> </table>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	超過勤務医師（1人平均）	15,231時間56分 （390時間33分）	—	—	14,542時間35分 （354時間41分）	104.7% 110.1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月平均80時間以上 0人</li> <li>・本人及び所属部長の院長面談を行い、業務配分見直しの検討を行った。</li> <li>・タスク・シフト/シェアへの取組みとして、令和2年10月に看護師特定行為研修を開講し、</li> </ul>
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比												
超過勤務医師（1人平均）	15,231時間56分 （390時間33分）	—	—	14,542時間35分 （354時間41分）	104.7% 110.1%												

				<p>他施設での受講も含め令和5年3月現在、特定看護師が10人となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病棟クラークを2人から3人へ増員し、看護師の業務をタスク・シフトした。</li> <li>・医師から薬剤師へのタスク・シフト/シェアの取り組みは、医師から処方代行に関する承認を得て、3つのプロトコルを運用した。また、医師からの依頼により、術前中止薬の確認や外来患者指導に取り組んだ。</li> <li>・薬剤師業務を軽減するために薬局SPDの導入準備を進めた。</li> </ul>												
2	同上	駒ヶ根	A	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>超過勤務医師(1人平均)</td> <td>744時間53分 (57時間17分)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>685時間20分 (58時間19分)</td> <td>108.7% (98.2%)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月平均80時間以上 該当なし</li> <li>・夜間看護当直の勤務化により医師業務の一部がタスクシフトされ、医師の当直業務量が削減した。</li> <li>・医師事務業務の削減と書類作成の迅速化を図るため、外来クラークによる医師のタスク・シフティングを推進した。</li> </ul>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	超過勤務医師(1人平均)	744時間53分 (57時間17分)	-	-	685時間20分 (58時間19分)	108.7% (98.2%)
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比											
超過勤務医師(1人平均)	744時間53分 (57時間17分)	-	-	685時間20分 (58時間19分)	108.7% (98.2%)											
3	<p>同上</p> <p>【令和4年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン診療等デジタル技術を活用した医師の負担軽減の推進（阿南）</li> </ul>	阿南	A	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>超過勤務医師(1人平均)</td> <td>1426時間46分 (285時間21分)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1,989時間55分 (331時間39分)</td> <td>71.7% 86.0%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月平均80時間以上 0人</li> <li>・医師事務作業補助者の業務を拡大し、また、非常勤医師による宿日直業務を増やすことにより医師の負担軽減を図った。さらに、訪問診療や巡回診療にモバイル端末を活用することにより、診療の効率化を図った。</li> <li>・病棟看護師の勤務形態において二交代制を正式に導入し、三交代制と併用した。</li> <li>・病棟看護師の業務負担軽減を図るべく病棟の看護補助者を1人増員した。</li> </ul>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	超過勤務医師(1人平均)	1426時間46分 (285時間21分)	-	-	1,989時間55分 (331時間39分)	71.7% 86.0%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比											
超過勤務医師(1人平均)	1426時間46分 (285時間21分)	-	-	1,989時間55分 (331時間39分)	71.7% 86.0%											

				<ul style="list-style-type: none"> <li>・日直看護師を日勤勤務とし、負担軽減を図った。</li> <li>・前年度より医師を派遣している売木村診療所の診療回数の増及び医師の負担軽減を図るため、オンライン診療を導入した。</li> </ul>												
4	同上 <b>【令和4年度に推進する事項】</b> ・「医師労働時間短縮計画」の策定（こども）及び推進（木曽）	木 曾	A	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>超過勤務医師(1人平均)</td> <td>8,348時間12分 (362時間58分)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>9,537時間05分 (412時間52分)</td> <td>87.5% (87.9%)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月平均80時間以上 0人</li> <li>・「医師労働時間短縮計画」について、コンサルタントとともに実効性が上がるよう様々な取組を行った。</li> <li>・信州大学医学部附属病院医師によるスポット当直を活用し、医師の負担軽減を進めた。(16回)</li> <li>・当直明け等の職務専念義務免除制度を令和4年4月から取り組み、延べ25人が活用した。</li> <li>・京セラ式アメーバ経営の取組みの一環として、部署間で連携し、余裕のある部署が忙しい部署を手伝う仕組みを用いて職員の負担軽減を推進した。</li> <li>・特定看護師及び診療看護師の育成強化</li> <li>・クリニカルパス対象疾患を増やした。</li> </ul>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	超過勤務医師(1人平均)	8,348時間12分 (362時間58分)	—	—	9,537時間05分 (412時間52分)	87.5% (87.9%)
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比											
超過勤務医師(1人平均)	8,348時間12分 (362時間58分)	—	—	9,537時間05分 (412時間52分)	87.5% (87.9%)											
5	同上 <b>【令和4年度に推進する事項】</b> ・「医師労働時間短縮計画」の策定（こども）及び推進（木曽）	こ ども	B	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>超過勤務医師(1人平均)</td> <td>49,022時間06分 (449時間44分)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>39,001時間7分 (475時間37分)</td> <td>125.7% (94.6%)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月平均80時間以上 1人</li> <li>・医師の勤務環境改善に向け、昨年、各診療科部長と面談した結果に基づき、施行的に導入</li> </ul>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	超過勤務医師(1人平均)	49,022時間06分 (449時間44分)	—	—	39,001時間7分 (475時間37分)	125.7% (94.6%)
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比											
超過勤務医師(1人平均)	49,022時間06分 (449時間44分)	—	—	39,001時間7分 (475時間37分)	125.7% (94.6%)											

				<p>している交代勤務制の評価による効果など、負担軽減のための検討を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医師事務作業補助者を13人配置し、医師の負担軽減を図った。</li> </ul>																														
6	<p>同上</p> <p>【令和4年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医師の働き方改革へ対応するため、勤務体制の見直し及びタスク・シフト等を検討（こども）</li> </ul>	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月に改めてコンサルタント業務を委託し、委託者を交えた診療部各科とのミーティング実施等により、医師労働時間短縮計画の策定及び提出の準備を実施</li> <li>・医師から多職種へのタスクシフトを推進するため、医療技術職員等の研修受講を支援した。</li> </ul>																														
7	<p>同上</p> <p>【令和4年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医師の時間外労働の上限規制適用開始（令和6年度から）に向けて各病院が策定する「医師労働時間短縮計画」に対する支援</li> </ul>	本部	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師の時間外労働の上限規制適用に向けての各病院の取り組みに対し、本部事務局として必要な規程改正等を行った。</li> </ul>																														
8	<p>職員全体の総労働時間の短縮や年次休暇の取得推進等、適正な労務環境の整備に努める。</p> <p>【令和4年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間看護補助者の業務見直しによる看護師のタスク・シフトを推進（信州）</li> </ul>	信州	A	<p>超過勤務時間</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師 (1人平均)</td> <td>21,662時間56分 (97時間37分)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>23,901時間17分 (106時間50分)</td> <td>90.6% (91.5%)</td> </tr> <tr> <td>医療技術者 (1人平均)</td> <td>11,525時間47分 (173時間03分)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>12,152時間51分 (184時間41分)</td> <td>94.8% (94.0%)</td> </tr> <tr> <td>事務 (1人平均)</td> <td>7,642時間34分 (366時間12分)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>7,308時間54分 (252時間01分)</td> <td>104.6% (145.1%)</td> </tr> <tr> <td>職員全体 (1人平均)</td> <td>56,063時間13分 (157時間12分)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>57,961時間00分 (160時間20分)</td> <td>96.7% (98.3%)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・勤怠管理のため、年休取得状況及び超過勤務状況を毎月各パート長あて配布した。</li> <li>・看護補助者活用の推進に向けて、看護管理者の研修受講を計画的に進め、規定に沿って安全に業務が委託できるように全看護師の研修を行った。</li> </ul>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	看護師 (1人平均)	21,662時間56分 (97時間37分)	—	—	23,901時間17分 (106時間50分)	90.6% (91.5%)	医療技術者 (1人平均)	11,525時間47分 (173時間03分)	—	—	12,152時間51分 (184時間41分)	94.8% (94.0%)	事務 (1人平均)	7,642時間34分 (366時間12分)	—	—	7,308時間54分 (252時間01分)	104.6% (145.1%)	職員全体 (1人平均)	56,063時間13分 (157時間12分)	—	—	57,961時間00分 (160時間20分)	96.7% (98.3%)
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																													
看護師 (1人平均)	21,662時間56分 (97時間37分)	—	—	23,901時間17分 (106時間50分)	90.6% (91.5%)																													
医療技術者 (1人平均)	11,525時間47分 (173時間03分)	—	—	12,152時間51分 (184時間41分)	94.8% (94.0%)																													
事務 (1人平均)	7,642時間34分 (366時間12分)	—	—	7,308時間54分 (252時間01分)	104.6% (145.1%)																													
職員全体 (1人平均)	56,063時間13分 (157時間12分)	—	—	57,961時間00分 (160時間20分)	96.7% (98.3%)																													

				<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護部では、業務改善に繋げるための、始業前業務に関するアンケート調査を行った。</li> <li>・医療技術者は、薬剤部において薬剤補助者を増員するとともに、令和5年度より導入する薬局SPDの活用を想定したタスク・シフトを推進したため、超過勤務が減少した。</li> </ul>																														
9	同上 <b>【令和4年度に推進する事項】</b> ・看護師特定行為業務管理委員会設置による看護師特定行為の推進	信州	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師特定行為業務管理委員会において、看護師特定行為マニュアル改訂の検討、手順書の作成、特定看護師の活動状況の把握等を行った。</li> </ul>																														
10	同上 <b>【令和4年度に推進する事項】</b> ・ワークライフバランス充実のため看護師の二交代制勤務の本格的導入（駒ヶ根）	駒ヶ根	A	<p>超過勤務時間</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師 (1人平均)</td> <td>3,914時間28分 (41時間38分)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>4,948時間12分 (45時間29分)</td> <td>79.1% (91.5%)</td> </tr> <tr> <td>医療技術者 (1人平均)</td> <td>1,568時間19分 (47時間31分)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1,655時間45分 (48時間59分)</td> <td>94.7% (97.0%)</td> </tr> <tr> <td>事務 (1人平均)</td> <td>730時間55分 (58時間05分)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1,088時間25分 (93時間57分)</td> <td>67.2% (61.8%)</td> </tr> <tr> <td>職員全体 (1人平均)</td> <td>6,958時間40分 (45時間31分)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>7,487時間42分 (51時間04分)</td> <td>92.9% (89.1%)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護職員のワークライフバランス充実のため、令和3年11月より試行的に実施していた病棟部門における二交代制勤務を令和4年8月より本格導入した。</li> <li>・夜間看護当直の見直しや病棟の二交代制勤務の実施、振替休日の取得の徹底、勤務時間管理及び業務の効率化などにより、前年度に比較して減少した。</li> </ul>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	看護師 (1人平均)	3,914時間28分 (41時間38分)	—	—	4,948時間12分 (45時間29分)	79.1% (91.5%)	医療技術者 (1人平均)	1,568時間19分 (47時間31分)	—	—	1,655時間45分 (48時間59分)	94.7% (97.0%)	事務 (1人平均)	730時間55分 (58時間05分)	—	—	1,088時間25分 (93時間57分)	67.2% (61.8%)	職員全体 (1人平均)	6,958時間40分 (45時間31分)	—	—	7,487時間42分 (51時間04分)	92.9% (89.1%)
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																													
看護師 (1人平均)	3,914時間28分 (41時間38分)	—	—	4,948時間12分 (45時間29分)	79.1% (91.5%)																													
医療技術者 (1人平均)	1,568時間19分 (47時間31分)	—	—	1,655時間45分 (48時間59分)	94.7% (97.0%)																													
事務 (1人平均)	730時間55分 (58時間05分)	—	—	1,088時間25分 (93時間57分)	67.2% (61.8%)																													
職員全体 (1人平均)	6,958時間40分 (45時間31分)	—	—	7,487時間42分 (51時間04分)	92.9% (89.1%)																													
11	同上 <b>【令和4年度に推進する事項】</b>	阿南	B	<p>超過勤務時間</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																								
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																													

	・労働時間の把握・分析及び衛生委員会による院内への内容周知（阿南）			<table border="1"> <tr> <td>看護師 (1人平均)</td> <td>2,278 時間 51 分 (43 時間 49 分)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>2,121 時間 58 分 (42 時間 44 分)</td> <td>107.4% (102.5%)</td> </tr> <tr> <td>医療技術者 (1人平均)</td> <td>2,612 時間 27 分 (113 時間 35 分)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>2,112 時間 45 分 (100 時間 36 分)</td> <td>123.7% (112.9%)</td> </tr> <tr> <td>事務 (1人平均)</td> <td>2,142 時間 40 分 (194 時間 47 分)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>2,959 時間 10 分 (295 時間 55 分)</td> <td>72.4% (65.8%)</td> </tr> <tr> <td>職員全体 (1人平均)</td> <td>7,033 時間 58 分 (83 時間 44 分)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>7,193 時間 53 分 (88 時間 49 分)</td> <td>97.8% (94.3%)</td> </tr> </table> <p>・勤怠管理システムによる病院スタッフの労働時間を把握及び分析、さらにその内容について衛生委員会を通じ各セクションへの周知を図った。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の流行による検査の増加、夜間透析の実施により、看護師、医療技術者の超過勤務時間は増加した。</p> <p>・電子カルテ更新があった前年度に比べ、事務部では超過勤務時間が大幅に減少した。</p>	看護師 (1人平均)	2,278 時間 51 分 (43 時間 49 分)	—	—	2,121 時間 58 分 (42 時間 44 分)	107.4% (102.5%)	医療技術者 (1人平均)	2,612 時間 27 分 (113 時間 35 分)	—	—	2,112 時間 45 分 (100 時間 36 分)	123.7% (112.9%)	事務 (1人平均)	2,142 時間 40 分 (194 時間 47 分)	—	—	2,959 時間 10 分 (295 時間 55 分)	72.4% (65.8%)	職員全体 (1人平均)	7,033 時間 58 分 (83 時間 44 分)	—	—	7,193 時間 53 分 (88 時間 49 分)	97.8% (94.3%)
看護師 (1人平均)	2,278 時間 51 分 (43 時間 49 分)	—	—	2,121 時間 58 分 (42 時間 44 分)	107.4% (102.5%)																							
医療技術者 (1人平均)	2,612 時間 27 分 (113 時間 35 分)	—	—	2,112 時間 45 分 (100 時間 36 分)	123.7% (112.9%)																							
事務 (1人平均)	2,142 時間 40 分 (194 時間 47 分)	—	—	2,959 時間 10 分 (295 時間 55 分)	72.4% (65.8%)																							
職員全体 (1人平均)	7,033 時間 58 分 (83 時間 44 分)	—	—	7,193 時間 53 分 (88 時間 49 分)	97.8% (94.3%)																							
12	<p>同上</p> <p>【令和4年度に推進する事項】</p> <p>・多様な業務に対応するため、所定労働時間帯の柔軟な運用による時差勤務の推進</p>	木 曾	B	<p>超過勤務時間</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度 目標</th> <th>対目 標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師 (1人平均)</td> <td>20,286 時間 13 分 (132 時間 35 分)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>19,896 時間 42 分 (126 時間 19 分)</td> <td>102.0% (105.0%)</td> </tr> <tr> <td>医療技術者 (1人平均)</td> <td>6,971 時間 10 分 (125 時間 09 分)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>7,547 時間 33 分 (140 時間 33 分)</td> <td>92.4% (89.0%)</td> </tr> <tr> <td>事務 (1人平均)</td> <td>5,764 時間 05 分 (325 時間 39 分)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>3,562 時間 34 分 (187 時間 30 分)</td> <td>161.8% (173.7%)</td> </tr> </tbody> </table>	項目	実績	年度 目標	対目 標比	前年度実績	対前年度比	看護師 (1人平均)	20,286 時間 13 分 (132 時間 35 分)	—	—	19,896 時間 42 分 (126 時間 19 分)	102.0% (105.0%)	医療技術者 (1人平均)	6,971 時間 10 分 (125 時間 09 分)	—	—	7,547 時間 33 分 (140 時間 33 分)	92.4% (89.0%)	事務 (1人平均)	5,764 時間 05 分 (325 時間 39 分)	—	—	3,562 時間 34 分 (187 時間 30 分)	161.8% (173.7%)
項目	実績	年度 目標	対目 標比	前年度実績	対前年度比																							
看護師 (1人平均)	20,286 時間 13 分 (132 時間 35 分)	—	—	19,896 時間 42 分 (126 時間 19 分)	102.0% (105.0%)																							
医療技術者 (1人平均)	6,971 時間 10 分 (125 時間 09 分)	—	—	7,547 時間 33 分 (140 時間 33 分)	92.4% (89.0%)																							
事務 (1人平均)	5,764 時間 05 分 (325 時間 39 分)	—	—	3,562 時間 34 分 (187 時間 30 分)	161.8% (173.7%)																							

				職員全体 (1人平均)	33,021時間28分 (144時間49分)	-	-	31,006時間49分 (134時間42分)	106.5% (107.5%)																														
				<ul style="list-style-type: none"> <li>・京セラ式アメーバ経営の一環として、自部署の総労働時間を短縮するために部署ごとに年休取得の推進や超過勤務時間の削減に取り組み、毎月数値を確認した。</li> <li>・事務は、電子カルテ更新、院内物流システムの再構築、病院外壁改良工事等による事務量の増加と、実態に基づいた超過勤務申請を徹底したことにより大幅に増加した。</li> <li>・事務部門での増加は認められるが、病院全体として超過勤務削減に取り組んだ結果、前年度比6.5ポイントの増となった。</li> </ul>																																			
13	同上 【令和4年度に推進する事項】 ・会議運営の見直しによる業務の効率化	木曾	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営委員会について、一括での説明、説明を省略する箇所等を検討することにより、コンパクト化を継続した。</li> <li>・運営委員会において委員会別の会議時間実績を示し、時間短縮を働きかけた。</li> </ul>																																			
14	同上	こども	B	<p>超過勤務時間</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師 (1人平均)</td> <td>20,162時間12分 (58時間16分)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>21,380時間23分 (67時間26分)</td> <td>94.3% (86.5%)</td> </tr> <tr> <td>医療技術者 (1人平均)</td> <td>11,983時間30分 (155時間37分)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>11,202時間56分 (162時間21分)</td> <td>107.0% (95.8%)</td> </tr> <tr> <td>事務 (1人平均)</td> <td>4,256時間54分 (37時間20分)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>3,851時間15分 (40時間32分)</td> <td>110.5% (92.3%)</td> </tr> <tr> <td>職員全体 (1人平均)</td> <td>85,457時間26分 (129時間40分)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>75,435時間41分 (133時間59分)</td> <td>113.3% (96.9%)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新生児病棟看護師の夜間休憩時間確保のため、保育士の夜勤を4月より開始し、新生児病棟看護師の時間外勤務が削減された。引き続き業務改善を含め検討を継続する。</li> </ul>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	看護師 (1人平均)	20,162時間12分 (58時間16分)	-	-	21,380時間23分 (67時間26分)	94.3% (86.5%)	医療技術者 (1人平均)	11,983時間30分 (155時間37分)	-	-	11,202時間56分 (162時間21分)	107.0% (95.8%)	事務 (1人平均)	4,256時間54分 (37時間20分)	-	-	3,851時間15分 (40時間32分)	110.5% (92.3%)	職員全体 (1人平均)	85,457時間26分 (129時間40分)	-	-	75,435時間41分 (133時間59分)	113.3% (96.9%)
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																		
看護師 (1人平均)	20,162時間12分 (58時間16分)	-	-	21,380時間23分 (67時間26分)	94.3% (86.5%)																																		
医療技術者 (1人平均)	11,983時間30分 (155時間37分)	-	-	11,202時間56分 (162時間21分)	107.0% (95.8%)																																		
事務 (1人平均)	4,256時間54分 (37時間20分)	-	-	3,851時間15分 (40時間32分)	110.5% (92.3%)																																		
職員全体 (1人平均)	85,457時間26分 (129時間40分)	-	-	75,435時間41分 (133時間59分)	113.3% (96.9%)																																		





## 第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

### 3 職員の勤務環境の向上

〔自己評定〕 B

〔自己評定の理由〕

機構全体で業務の見直しや効率化を進め、また年次休暇の取得を推進するなど、働きやすい職場環境の整備に努めた。

看護部では引き続き、医療の質と経営的な視点を両立させる適正な看護師数について、実績データに基づき各病院が人員配置表により人員試算を行い、看護師数の適正化を推進した。

本部事務局は、有期雇用職員の社会保険料算定基礎届の電子申告や源泉徴収票の電子化など、給与事務の効率化を図った。

こども病院は、院内よろず相談窓口の活用、本部事務局職員相談員による出張相談により、職員の心のケアをできる機会の確保を図った。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第2 3 1	業務の見直しや効率化の取組等により労働時間の適正な管理や有給休暇の取得促進を図るほか、仕事と生活の両立に向けた働き方への支援や職員相談体制の強化等により、職員が生活との調和を図りながら、やりがいや充	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・院内広報誌「みちしるべ」を発行し、管理者からのメッセージや各部署からのお知らせ、新任職員の紹介等を掲載し、職員間の理解と一体化を図った。</li> <li>・院内保育所「カンガルーのぽっけ」（定員10人）では、保護者である職員が利用しやすく安心して働けるよう、職員の早期復帰への支援に努めるとともに、病院と保育所の交流を深めた。</li> <li>・病棟クラークを2人から3人へ増員し、看護師の業務をタスク・シフトした。</li> </ul>

	実感をもって働くことのできる職場環境の整備を推進する。			
2	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心身の休養が十分とれるよう、看護部二交代制の実施や振替休日の取得の徹底を行った。また、年次休暇の年10日以上を取得を促進し、総労働時間の短縮を図った。</li> <li>・ワークライフバランス推進のため、各セクションで定めた超過勤務削減の重点事項を実施した。</li> <li>・勤怠管理システムにより、労働時間の管理を適正に行うとともに、業務の効率化や時差出勤の積極的な活用を行った。</li> <li>・職員のハラスメント相談等の対応のため、院内に職員相談体制を整備した。</li> </ul>
3	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師の業務負担軽減を図るため非常勤当直医師を活用した。</li> <li>・病棟看護師の業務負担軽減を図るべく病棟の看護補助者を1人増員し、看護職員と看護補助者との業務内容及び業務範囲を見直し、早朝業務・遅番業務へ一部移行した。</li> </ul>
4	同上 <b>【令和4年度に推進する事項】</b> ・病棟夜勤者ユニフォームの導入	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・京セラ式アメーバ経営の一環として、業務の見直しや効率化、有給休暇の取得や超過勤務時間の削減に部門ごとに取り組み、良い取り組みについては運営委員会で紹介するなどし、職場環境の改善を推進した。</li> <li>・病棟夜勤者ユニフォームの導入により夜勤者が明確化したため、日勤者の超勤削減につながった。</li> </ul>
5	同上 <b>【令和4年度に推進する事項】</b> ・本部事務局と連携した「職員の相談窓口」の継続により、職員の心のケアの機会を確保	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場環境の整備について、育児短時間制度、育児部分休業制度及び育児時間を医師 1人、看護職員39人、薬剤師 2人、理学療法士 1人、臨床検査技師 2人、事務員 1人の合計46人が活用し、子育てと仕事の両立を図った。</li> <li>・有給休暇取得率（全付与日数に対する消化率）            医師 … 24.6%、            看護師 … 25.6%、助産師 … 29.1%、保健師 … 54.5%、            薬剤師 … 21.4%、医療技術職員 … 30.6%、事務職員 … 52.2%</li> <li>・職員の相談窓口</li> </ul>

項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
よろず相談窓口	470件	—	—	491件	95.7%
出張相談	26件	—	—	22件	118.2%

・院内よろず相談窓口及び本部事務局職員相談員による出張相談（毎月2回）を実施。院内職員への周知に努め、職員の心のケアをできる機会の確保を図った。

6	同上	本部	B	<p>・従来紙申請で行っていた年末調整について、PCやスマートフォンから申請できるように変更した。</p> <p>【令和4年の年次休暇取得状況】</p> <p>5日以上取得者 90.1%（令和3年：94.5%）</p> <p>10日以上取得者 60.3%（令和3年：61.1%）</p> <p>・新型コロナウイルス感染症への対応</p> <p>○感染症対策により危険性が高い業務に従事した職員に支給する特殊勤務手当（感染症防疫等作業手当）を支給した。</p> <p>令和4年度実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>実績</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>信州医療センター</td> <td>25,986千円</td> <td>16,542千円</td> <td>157.1%</td> </tr> <tr> <td>こころの医療センター駒ヶ根</td> <td>2,542千円</td> <td>1,533千円</td> <td>165.8%</td> </tr> <tr> <td>阿南病院（老健等を含む。）</td> <td>7,482千円</td> <td>3,346千円</td> <td>223.6%</td> </tr> <tr> <td>木曽病院（老健等を含む。）</td> <td>8,489千円</td> <td>4,347千円</td> <td>195.3%</td> </tr> </tbody> </table>		実績	前年度実績	対前年度比	信州医療センター	25,986千円	16,542千円	157.1%	こころの医療センター駒ヶ根	2,542千円	1,533千円	165.8%	阿南病院（老健等を含む。）	7,482千円	3,346千円	223.6%	木曽病院（老健等を含む。）	8,489千円	4,347千円	195.3%
	実績	前年度実績	対前年度比																					
信州医療センター	25,986千円	16,542千円	157.1%																					
こころの医療センター駒ヶ根	2,542千円	1,533千円	165.8%																					
阿南病院（老健等を含む。）	7,482千円	3,346千円	223.6%																					
木曽病院（老健等を含む。）	8,489千円	4,347千円	195.3%																					

				こども病院	5,688 千円	873 千円	651.5%
				合計	50,187 千円	26,642,千円	188.4%
7	<b>【令和4年度に推進する事項】</b> ・看護部における医療の質と経営的な視点を両立させる適正な人数の検討	本部	B	・適正配置を求め続ける組織文化を醸成するために、各病院で副看護部長が看護師長の教育を実施する体制とした。副看護部長会で検討と各病院での取り組みの共有を行い、副看護部長の役割としての意識の向上に繋げた。			
8	<b>【令和4年度に推進する事項】</b> ・各病院と協力し、RPA（ロボットによる業務自動化）などによる事務効率化の研究	本部	B	・信州大学におけるRPA導入事例の研究のため、信州大学に木曽病院及びこども病院と訪問し、事例を見学した。 ・10月に信州大学から講師を招聘し、職員向けの研修会を開催した。 ・11月にRPAツール（UiPath）を契約し、本部に導入し、3月まで試行を実施した。			

### 第3 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

#### 1 経常黒字の維持

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

- ・ 経常費用に対する経常収益で表す経常収支比率は、年度計画と比べ、101.8%と1.8ポイントのプラスとなった。
- ・ 令和4年度は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により、入院患者の減少が継続しているが、対前年94.2%（12,912人）の減少となった。また、外来患者は、対前年100.8%（3,514人）と増加した。
- ・ 令和4年度決算における病院別では、こども病院を除く4病院で黒字となった。また、介護老人保健施設は2施設とも黒字となった。
- ・ 収益確保及び経費削減等の新たな経営改善の取組の効果もあり、令和4年度の決算は、機構全体で402百万円の黒字となった。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第3 1 1	<p>経営基盤の確立を目指し更なる経営健全化に努める。</p> <p>今後必要となる設備投資を考慮し、適切な資金計画を策定する。</p> <p>・ 令和4年度収支計画（単位：百万円）</p>	機構全体	A	<p>令和4年度決算等</p> <p>・ 報告書p.80「経常収支比率（病院機構全体）」再掲</p>

【経常収支比率】 (単位：%)		
病院名	令和元年度実績	令和4年度目標
病院機構全体	99.4	100.0

指標：経常収支比率（病院機構全体）  
 達成目標：経常収支比率100%以上

(税抜 単位：百万円、%)

病 院	区 分	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
経常収益	計 画	23,453	23,720	24,525	24,965	24,778
	実 績	23,763	23,863	25,421	25,923	26,007
経常費用	計 画	23,432	23,703	24,458	24,963	25,366
	実 績	23,346	24,006	24,501	25,140	25,534
経常損益	計 画	21	17	67	2	△ 587
	実 績	417	△ 143	920	784	473
経常収支比率	計 画	100.1	100.1	100.3	100.0	100.0
	実 績	101.8	99.4	103.8	103.1	101.8

※係数は、端数をそれぞれ四捨五入しており、内訳と合計が一致しない箇所がある。

2	区 分	金 額 (税 抜)	A	(税抜、単位：百万円)					
				科 目	令和4年度	令和3年度	令和4年度計画	増減(R4-R3)	増減(R4-計画)
	経常的収益	24,778		経常収益 (ア)	26,007	25,923	24,779	84	1,228
	営業収益	24,342		医業収益	17,657	17,643	18,165	14	▲ 508
	医業収益	18,165		うち入院収益	12,120	12,236	12,709	▲ 116	▲ 589
	介護老人保健施設収益	413		うち外来収益	4,919	4,821	4,928	98	▲ 8
	看護師養成所収益	19		うち公衆衛生活動収益等	483	453	417	30	66
	運営費負担金収益	5,237		介護老人保健施設収	422	407	413	15	9
	資産見返負債戻入	251		看護師養成所収益	17	18	19	▲ 2	▲ 2
	その他営業収益	258		運営費負担金収益	5,510	5,510	5,510	0	0
	営業外収益	437		その他経常収益	2,401	2,345	671	56	1,730
	運営費負担金収益	273		経常費用 (イ)	25,534	25,140	25,366	395	168
	その他営業外収益	163		医業費用	23,560	23,127	23,299	433	261
	経常的費用	25,366		うち給与費	13,554	13,316	13,264	237	290
	営業費用	24,338		うち材料費	4,187	4,157	4,074	30	113
	医業費用	23,299		うち減価償却費	2,121	2,043	2,220	78	▲ 99
	給与費	13,264		うち経費	3,627	3,557	3,668	71	▲ 41
	材料費	4,074		介護老人保健施設費	447	445	466	3	▲ 19
	経費等	3,668		看護師養成所費用	171	151	160	21	11
	減価償却費	2,220		一般管理費	361	383	411	▲ 22	▲ 50
	研究研修費	73		財務費用 (支払利息)	215	259	216	▲ 44	▲ 0
	介護老人保健施設費用	466		その他経常費用	780	775	765	5	15
	看護師養成所費用	160		経常損益 (ア-イ)	473	784	▲ 544	▲ 311	1,017
	一般管理費	411		臨時損益 (ウ)	▲ 71	▲ 72	0	1	▲ 71
	営業外費用	985		当期純損益(ア-イ+ウ)	402	712	▲ 587	▲ 310	989

※端数処理により、内訳と合計が一致しない箇所があります。



	<table border="1"> <tr><td>予備費</td><td>43</td></tr> <tr><td>経常利益</td><td>△587</td></tr> <tr><td>臨時利益</td><td>0</td></tr> <tr><td>臨時損失</td><td>0</td></tr> <tr><td>純利益</td><td>△587</td></tr> </table> <p>注) 計数は、端数をそれぞれ四捨五入している。</p>	予備費	43	経常利益	△587	臨時利益	0	臨時損失	0	純利益	△587										
予備費	43																				
経常利益	△587																				
臨時利益	0																				
臨時損失	0																				
純利益	△587																				
3	<p><b>【医業収支比率】</b>  対目標比=実績/年度目標  医業収益÷医業費用×100  (税抜、単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和4年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>信州</td> <td>87.0</td> <td>86.3</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	令和元年度実績	令和4年度目標	信州	87.0	86.3	信州	<p>B</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医業収支比率</td> <td>82.6%</td> <td>86.3%</td> <td>95.7%</td> <td>83.6%</td> <td>98.8%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・医業収益について、R3実績比で152百万円増加した。入院収益については県の要請によるコロナ病床確保のための病床数減及び院内感染に係る運用病床の縮小の影響等により、18百万円減少した。外来収益については外来患者数が増加し、単価も増加したことから、収益が172百万円増加した。コロナ関係の検査数の増加が一要因と考えられる。また公衆衛生活動収益についても、堅調に受診者が増加したため、9百万円増加した。</p> <p>・医業費用について、R3実績比で274百万円増加した。主に材料費、減価償却費、給与費で増加した。材料費については、コロナ関係の治療薬、検査試薬に係る購入が増加した。</p> <p>・以上から、医業収益の伸びよりも医業費用の伸びが上回ったため、医業収支比率は、前年度実績を下回った。</p>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	医業収支比率	82.6%	86.3%	95.7%	83.6%	98.8%
病院名	令和元年度実績	令和4年度目標																			
信州	87.0	86.3																			
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																
医業収支比率	82.6%	86.3%	95.7%	83.6%	98.8%																
4	<p>同上 (税抜、単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和4年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>駒ヶ根</td> <td>67.8</td> <td>63.9</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	令和元年度実績	令和4年度目標	駒ヶ根	67.8	63.9	駒ヶ根	<p>B</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医業収支比率</td> <td>62.9%</td> <td>63.9%</td> <td>98.4%</td> <td>59.0%</td> <td>106.6%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響により入院収益が計画に対して大幅に減少した。</p> <p>・外来収益は計画を下回ったが、診療単価の高い訪問看護ステーション「こまほす」の開設により単価が上昇し、前年度より改善した。</p>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	医業収支比率	62.9%	63.9%	98.4%	59.0%	106.6%
病院名	令和元年度実績	令和4年度目標																			
駒ヶ根	67.8	63.9																			
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																
医業収支比率	62.9%	63.9%	98.4%	59.0%	106.6%																

5	同上 (税抜、単位：%)		阿南	A	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医業収支比率</td> <td>57.3%</td> <td>54.7%</td> <td>104.8%</td> <td>57.1%</td> <td>100.4%</td> </tr> </tbody> </table>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	医業収支比率	57.3%	54.7%	104.8%	57.1%	100.4%
	項目	実績			年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比														
	医業収支比率	57.3%			54.7%	104.8%	57.1%	100.4%														
病院名	令和元年度実績	令和4年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師の減員の影響や新型コロナワクチン接種の減により、入院、外来患者数ともに減少し前年を下回ったが、診療単価の高い地域包括ケア病床の有効活用、コロナ検査件数の増などにより医業収益は計画・前年を上回った。一方、医業費用も、看護職員処遇改善評価料による給与費の増、コロナ関連薬品費・診療材料費の増、電気料金の増、委託料の増等により計画・前年を上回った。</li> <li>・医業収支比率は目標及び前年度を上回った。</li> </ul>																			
阿南	55.2	54.7																				
6	同上 (税抜、単位：%)		木曾	B	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医業収支比率</td> <td>73.8%</td> <td>78.0%</td> <td>94.6%</td> <td>77.4%</td> <td>95.3%</td> </tr> </tbody> </table>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	医業収支比率	73.8%	78.0%	94.6%	77.4%	95.3%
	項目	実績			年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比														
	医業収支比率	73.8%			78.0%	94.6%	77.4%	95.3%														
病院名	令和元年度実績	令和4年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医業費用は前年度と同水準であったが、医業収益が8.0%減少したことから、収支比率は前年度比で減少し、年度目標、前年度実績を下回った。</li> </ul>																			
木曾	77.7	78.0																				
7	同上 (税抜、単位：%)		こども	B	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医業収支比率</td> <td>75.1%</td> <td>78.8%</td> <td>95.3%</td> <td>76.4%</td> <td>98.2%</td> </tr> </tbody> </table>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	医業収支比率	75.1%	78.8%	95.3%	76.4%	98.2%
	項目	実績			年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比														
	医業収支比率	75.1%			78.8%	95.3%	76.4%	98.2%														
病院名	令和元年度実績	令和4年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入院患者数は、新型コロナウイルス流行に伴う患者数の減（受診控え、予定入院キャンセルの影響等）、長期入院患者数の減等により、対計画、対前年とも下回った。</li> <li>・入院単価は、診療報酬改定で新設・拡大された施設基準や加算項目の算定強化、DPC係数の向上、高額手術の増加等により、対計画、対前年ともに上回った。</li> <li>・外来患者数は、リニアック更新工事による放射線治療の休止期間（7月～12月）の影響もあり計画を下回った。</li> <li>・医業収益比率は、入院・外来収益の減少により、対計画、対前年ともに下回った。</li> </ul>																			
こども	80.1	78.8																				

### 第3 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

#### 2 経営基盤の強化

##### (1) 収益の確保

〔自己評定〕 B

〔自己評定の理由〕

新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい運営状況ではあったが、引き続き、組織が一体となって経営改善に取り組んだ。

理事会等の会議において月次決算（前月の経営状況）を示し、病院、本部等の幹部職員により課題や取組方針を共有するとともに、各病院の運営会議等の場でも情報共有を行い、病院運営に係る職員の意識向上を図った。

また、各病院においても収益向上のための取組みを実施した。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第3 2(1) 1	<p>様々な診療報酬加算や施設基準の取得のほかD P C係数向上の検討等、診療報酬改定に的確かつ迅速に対応し、収益を確保する。</p> <p>診療報酬請求漏れの防止、未収金の発生防止及び早期回収を行う。</p>	信州	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケア病棟を新型コロナウイルス感染症専用病棟への転用により、入院患者数及び入院収益は減少した。しかし、施設基準の感染対策向上加算が診療報酬改定により増点されたこと、新型コロナウイルス感染症に係る診療報酬上の臨時特例の加算などにより入院単価は増加した。</li> <li>・未収金については、引き続き弁護士委託による未収金回収を継続し、適切な未収金管理を行った。</li> </ul>

2	<p>同上</p> <p>【令和4年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ m-E C T（修正型電気痙攣療法）センター開設及び r T M S（反復経頭蓋磁気刺激療法）開始による治療件数及び入院患者の増</li> </ul>	駒ヶ根	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経営改善のための取組みとして、今年度から、毎朝実施しているベッドコントロール会議において月初めに前月の患者数を報告するほか、外来と調整し、毎日入退院予定後の患者数報告を開始した。</li> <li>・ 毎月の病院運営会議において、新たに各病棟の患者数状況や課題について病棟師長が報告する仕組みを取り入れ、組織全体の課題の検討及び業務の進捗状況、経営状況を共有した。</li> <li>・ 医師別の詳細な診療実績を幹部会議で共有し、その実績結果を医局会で周知する取組みを新たに開始した。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="896 475 2152 643"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>m-ECT 実施件数/日</td> <td>3.3 件/日</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>2.7 件/日</td> <td>122.2%</td> </tr> <tr> <td>r T M S 実施件数</td> <td>4 件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>皆増</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 治療の充実、実施回数の増を図り、県内医療機関からの入院患者を受入れるため、令和4年1月にm-E C Tセンターを開設し、週2回・5人/日（センター化前3人/日）まで治療可能とする体制での運営を開始した。月の平均実施件数はm-E C Tセンター開設前18.6件から、開設後26.8件と増加している。</li> <li>・ 「治療抵抗性うつ病」の患者に対し、薬物療法ではない新たな治療の選択肢として、侵襲性の低い治療となる r T M S（反復経頭蓋磁気刺激療法）を7月から開始した。（県内2施設目）患者4人に対し、最大6週間の治療を行った。極めて適用範囲が狭い治療のため、長野県、近隣県への広報活動などにより新規患者を確保する。（p.5-N o.6）</li> </ul>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	m-ECT 実施件数/日	3.3 件/日	—	—	2.7 件/日	122.2%	r T M S 実施件数	4 件	—	—	—	皆増						
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																						
m-ECT 実施件数/日	3.3 件/日	—	—	2.7 件/日	122.2%																						
r T M S 実施件数	4 件	—	—	—	皆増																						
3	<p>同上</p> <p>【令和4年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和6年度のD P C登録に向け、準備病院としてデータ提出の精度を上げるとともに院内体制を整備（</li> </ul>	阿南	<p>A</p> <table border="1" data-bbox="896 1023 2107 1364"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自宅からの入院</td> <td>939 件 3,760,200 円</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>383 件 1,149,000 円</td> <td>245.2% 327.3%</td> </tr> <tr> <td>介護老人保健施設からの入院</td> <td>57 件 285,000 円</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>皆増 皆増</td> </tr> <tr> <td>自院の一般床からの転床</td> <td>1,055 件 1,318,750 円</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>589 件 883,500 円</td> <td>179.1% 149.3%</td> </tr> </tbody> </table>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	自宅からの入院	939 件 3,760,200 円	—	—	383 件 1,149,000 円	245.2% 327.3%	介護老人保健施設からの入院	57 件 285,000 円	—	—	—	皆増 皆増	自院の一般床からの転床	1,055 件 1,318,750 円	—	—	589 件 883,500 円	179.1% 149.3%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																						
自宅からの入院	939 件 3,760,200 円	—	—	383 件 1,149,000 円	245.2% 327.3%																						
介護老人保健施設からの入院	57 件 285,000 円	—	—	—	皆増 皆増																						
自院の一般床からの転床	1,055 件 1,318,750 円	—	—	589 件 883,500 円	179.1% 149.3%																						

				<table border="1"> <tr> <td>他院の一般床からの 転床</td> <td>250件 625,000円</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>皆増 皆増</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>2,301件 5,988,950円</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>972件 2,032,500円</td> <td>236.7% 294.7%</td> </tr> </table>	他院の一般床からの 転床	250件 625,000円	-	-	-	皆増 皆増	計	2,301件 5,988,950円	-	-	972件 2,032,500円	236.7% 294.7%		
他院の一般床からの 転床	250件 625,000円	-	-	-	皆増 皆増													
計	2,301件 5,988,950円	-	-	972件 2,032,500円	236.7% 294.7%													
				<p>・入院診療単価の増を図るため、診療報酬改定で評価の高くなった地域包括ケア病床における自宅・老人保健施設からの直接入院や他院からの転院患者の増加に努めた。</p>														
4	同上	木 曾	A	<p>・経営分析ツール「LIBRA」を活用し、算定できていない管理料や加算の抽出を行い、既存算定件数の増加及び新規加算の取得に努めた。</p> <p>・DPC入院期間患者別グラフを作成し、ベッドコントロールに活用することで入院単価を維持した。</p> <p>・令和4年診療報酬改定に伴い収益増の観点から、新規加算の届出を行った。 (感染対策向上加算1、指導強化加算、外来腫瘍化学療法診療料1、BRCA1/2遺伝子検査、二次性骨折予防継続管理料)</p> <p>・介護老人保健施設の利用者の在宅復帰の支援に併せて収益増の観点から、新規加算(在宅復帰在宅療養支援加算II(老健超強化型))を取得した。</p>														
5	同上 【令和4年度に推進する事項】 ・JACHRI(日本小児総合医療施設協議会)診療情報分析連絡会での情報交換によるDPC請求における精度の向上	こ ど も	A	<p><b>【収益確保の取組】</b></p> <p>・診療報酬改定により取得可能な項目を担当各部署に早期から情報提供や問い合わせを行い、地域医療体制確保加算、看護補助体制充実加算を届出することで係数が0.0416アップ(1ヶ月約3,250千円の増収)。</p> <p><b>【JACHR診療情報分析連絡会での情報交換によるDPC請求における精度の向上】</b></p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響で引き続き対面での情報交換はできなかったが、11月にオンラインで実施された分析連絡会で「食物アレルギー負荷試験」の入院について、他県のこども病院の情報を得ることができた。当院では診療報酬改定により収入が減少すると予想されたが、個々の患者の病態によるDPCコーディングに努め、1症例あたりの診療報酬の増収につながった。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比						
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比													

				1 症例当たり入院収益	111,000 円	—	—	96,000 円	115.6%																																				
6	同上	本部	A	・企画室ニュース等を通じて本部より診療報酬加算や施設基準の取得等の情報提供を行った。																																									
7	【令和4年度に推進する事項】 ・収益性の高い診療報酬体系の精神科訪問看護ステーションの開設による収益の向上	駒ヶ根	A	・訪問看護ステーションの開設に伴い、収益性の高い診療報酬体系となり「訪問看護管理療養費」の算定が可能となったため、外来診療単価が約7,000円から約10,000円に増加した。																																									
8	【令和4年度に推進する事項】 ・放射線治療装置（リニアック）を更新し、信州大学医学部附属病院と連携して全県的な小児がん治療体制の充実を図るとともに、地域医療支援病院として地域医療機関からの紹介による成人がん患者を対象とした治療を拡充（同上）再掲	こども	B	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>放射線治療紹介人数（延べ）</td> <td>33 人</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>86 人</td> <td>38.4%</td> </tr> <tr> <td>放射線治療算定件数（延べ照射回数及び治療計画数）</td> <td>788 件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1,882 件</td> <td>41.3%</td> </tr> <tr> <td>リニアック稼働額（成人及び小児）</td> <td>10,996 千円</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>26,745 千円</td> <td>41.1%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・機器更新の為、7月から12月14日までリニアックの稼働を停止し、機器更新期間中検査出来ず、実施者数の減少となった。</p> <p>(高度医療機器の共同利用件数：延べ件数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リニアック</td> <td>788 件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1,882 件</td> <td>41.9%</td> </tr> </tbody> </table>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	放射線治療紹介人数（延べ）	33 人	—	—	86 人	38.4%	放射線治療算定件数（延べ照射回数及び治療計画数）	788 件	—	—	1,882 件	41.3%	リニアック稼働額（成人及び小児）	10,996 千円	—	—	26,745 千円	41.1%	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	リニアック	788 件	—	—	1,882 件	41.9%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																								
放射線治療紹介人数（延べ）	33 人	—	—	86 人	38.4%																																								
放射線治療算定件数（延べ照射回数及び治療計画数）	788 件	—	—	1,882 件	41.3%																																								
リニアック稼働額（成人及び小児）	10,996 千円	—	—	26,745 千円	41.1%																																								
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																								
リニアック	788 件	—	—	1,882 件	41.9%																																								



	名 駒 ヶ 根							延患者数（外来）	39,117人	40,125人	97.5%	38,937人	100.5%																								
		37,400	41,189	38,726	40,125			<ul style="list-style-type: none"> <li>・入院の延べ患者数は、県からの新型コロナウイルス感染症即応病床の増床要請を受けて入院抑制を実施したため、対計画で減少した。</li> <li>・外来の延べ患者数は、概ね計画どおりとなった。</li> </ul>																													
12	同上（単位：人）					阿 南	B	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>実 績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延患者数（入院）</td> <td>14,826人</td> <td>15,168人</td> <td>97.7%</td> <td>15,149人</td> <td>97.9%</td> </tr> <tr> <td>延患者数（外来）</td> <td>38,846人</td> <td>40,225人</td> <td>96.6%</td> <td>39,572人</td> <td>98.2%</td> </tr> <tr> <td>公衆衛生活動</td> <td>9,683人</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>13,626人</td> <td>71.1%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者数は、常勤医師の減員や新型コロナウイルス感染症第7波による入院患者制限などにより、目標を下回った。</li> <li>・公衆衛生活動の減は、新型コロナウイルスワクチン接種対象者の減によるもの。</li> </ul>						項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	延患者数（入院）	14,826人	15,168人	97.7%	15,149人	97.9%	延患者数（外来）	38,846人	40,225人	96.6%	39,572人	98.2%	公衆衛生活動	9,683人	-	-	13,626人	71.1%
項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																
延患者数（入院）	14,826人	15,168人	97.7%	15,149人	97.9%																																
延患者数（外来）	38,846人	40,225人	96.6%	39,572人	98.2%																																
公衆衛生活動	9,683人	-	-	13,626人	71.1%																																
	病 院 名	令和元年度実績		令和4年度目標																																	
		入院	外来	入院	外来																																
	阿 南	17,053	46,882	15,168	40,225																																
13	同上（単位：人）					木 曾	B	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>実 績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延患者数（入院）</td> <td>40,126人</td> <td>47,249人</td> <td>84.9%</td> <td>46,839人</td> <td>85.7%</td> </tr> <tr> <td>延患者数（外来）</td> <td>110,049人</td> <td>108,522人</td> <td>101.4%</td> <td>119,477人</td> <td>92.1%</td> </tr> <tr> <td>公衆衛生活動</td> <td>7,929人</td> <td>7,948人</td> <td>99.8%</td> <td>9,057人</td> <td>87.5%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入院患者数については、病棟で職員及び患者の新型コロナウイルス感染症発生に伴う入院制限と、県のコロナ病床確保の要請に応じて病棟を新型コロナウイルス感染症へ転用したことにより、前年度に比べ大きく減少した。</li> <li>・外来患者数については、受診控えの状況が継続、及び地域の人口が減少していることから、年度目標、前年度実績を下回った。</li> </ul>						項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	延患者数（入院）	40,126人	47,249人	84.9%	46,839人	85.7%	延患者数（外来）	110,049人	108,522人	101.4%	119,477人	92.1%	公衆衛生活動	7,929人	7,948人	99.8%	9,057人	87.5%
項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																
延患者数（入院）	40,126人	47,249人	84.9%	46,839人	85.7%																																
延患者数（外来）	110,049人	108,522人	101.4%	119,477人	92.1%																																
公衆衛生活動	7,929人	7,948人	99.8%	9,057人	87.5%																																
	病 院 名	令和元年度実績		令和4年度目標																																	
		入院	外来	入院	外来																																
	木 曾	43,450	125,512	47,249	108,522																																
14	同上（単位：人）					こ ど	B	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>実 績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																		
項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																
	病 院	令和元年度実績		令和4年度目標																																	
		入院	外来	入院	外来																																



	名					も		延患者数（入院）	46,556 人	50,543 人	92.1%	49,891 人	93.3%																		
	こ							延患者数（外来）	67,842 人	70,774 人	95.8%	67,384 人	100.7%																		
	ども	52,647	66,776	50,543	70,774			<ul style="list-style-type: none"> <li>入院については、新型コロナウイルスの影響、長期入院患者の減少により計画及び前年を下回った。</li> <li>外来については、県外・県内患者ともに増加傾向が続き、対前年を上回ったが、7月から12月までリニアック装置更新工事で患者の受け入れを一部制限したことにより、対計画では下回った。</li> </ul>																							
15	<b>【新患者数】</b> 対目標比=実績/年度目標 (単位：人)					信州	A	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新患者数（入院）</td> <td>4,358 人</td> <td>4,128 人</td> <td>105.6%</td> <td>4,302 人</td> <td>101.3%</td> </tr> <tr> <td>新患者数（外来）</td> <td>25,234 人</td> <td>20,571 人</td> <td>122.7%</td> <td>20,842 人</td> <td>121.1%</td> </tr> </tbody> </table>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	新患者数（入院）	4,358 人	4,128 人	105.6%	4,302 人	101.3%	新患者数（外来）	25,234 人	20,571 人	122.7%	20,842 人	121.1%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																										
新患者数（入院）	4,358 人	4,128 人	105.6%	4,302 人	101.3%																										
新患者数（外来）	25,234 人	20,571 人	122.7%	20,842 人	121.1%																										
	病院名	令和元年度実績		令和4年度目標				<ul style="list-style-type: none"> <li>入院は、延患者数は減少したものの新入院患者数は前年度並みとなった。</li> <li>外来は、新型コロナ第7,8波の影響により検査数が急増し、新外来患者数は前年度比121.1%と増加した。</li> </ul>																							
	信州	4,574	21,787	4,128	20,571																										
16	同上 (単位：人)					駒ヶ根	B	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新患者数（入院）</td> <td>504 人</td> <td>530 人</td> <td>95.1%</td> <td>501 人</td> <td>100.6%</td> </tr> <tr> <td>新患者数（外来）</td> <td>1,486 人</td> <td>1,260 人</td> <td>117.9%</td> <td>1,284 人</td> <td>115.7%</td> </tr> </tbody> </table>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	新患者数（入院）	504 人	530 人	95.1%	501 人	100.6%	新患者数（外来）	1,486 人	1,260 人	117.9%	1,284 人	115.7%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																										
新患者数（入院）	504 人	530 人	95.1%	501 人	100.6%																										
新患者数（外来）	1,486 人	1,260 人	117.9%	1,284 人	115.7%																										
	病院名	令和元年度実績		令和4年度目標				<ul style="list-style-type: none"> <li>入院の新患者数は、新型コロナウイルス陽性患者受入れに伴う入院制限、退院促進の実施が影響し、対計画で減少したが前年度実績を上回っている。</li> <li>外来の新患者数は、職員の新型コロナウイルス検査数の増加により、対計画、対前年比ともに上昇した。</li> </ul>																							
	駒ヶ根	513	1,091	530	1,260																										
17	同上 (単位：人)					阿南	B	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新患者数（入院）</td> <td>800 人</td> <td>804 人</td> <td>99.5%</td> <td>844 人</td> <td>94.8%</td> </tr> <tr> <td>新患者数（外来）</td> <td>3,579 人</td> <td>2,650 人</td> <td>135.1%</td> <td>2,893 人</td> <td>123.7%</td> </tr> </tbody> </table>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	新患者数（入院）	800 人	804 人	99.5%	844 人	94.8%	新患者数（外来）	3,579 人	2,650 人	135.1%	2,893 人	123.7%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																										
新患者数（入院）	800 人	804 人	99.5%	844 人	94.8%																										
新患者数（外来）	3,579 人	2,650 人	135.1%	2,893 人	123.7%																										
	病院名	令和元年度実績		令和4年度目標																											
	阿	875	632	804	2,650																										

	南									<ul style="list-style-type: none"> <li>・新患者数（入院）は新型コロナウイルス感染症第7波による入院制限により、目標及び前年度を下回った。</li> <li>・新患者数（外来）は、発熱外来患者数の増加により目標及び前年度を上回った。</li> </ul>																					
18	同上 (単位：人)					木曾	B	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新患者数（入院）</td> <td>1,907人</td> <td>2,544人</td> <td>75.0%</td> <td>2,414人</td> <td>79.0%</td> </tr> <tr> <td>新患者数（外来）</td> <td>6,265人</td> <td>7,416人</td> <td>84.5%</td> <td>7,324人</td> <td>85.5%</td> </tr> </tbody> </table>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	新患者数（入院）	1,907人	2,544人	75.0%	2,414人	79.0%	新患者数（外来）	6,265人	7,416人	84.5%	7,324人	85.5%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																										
新患者数（入院）	1,907人	2,544人	75.0%	2,414人	79.0%																										
新患者数（外来）	6,265人	7,416人	84.5%	7,324人	85.5%																										
病院名	令和元年度実績	令和4年度目標																													
	入院	外来	入院	外来																											
木曾	2,473	8,225	2,544	7,416																											
							<ul style="list-style-type: none"> <li>・院内で職員及び患者が新型コロナウイルス感染症を発症したことに伴い、外来診療の制限と入院制限を実施、また県のコロナ病床確保要請に応じ、病棟をコロナウイルス感染症患者へ転用、これらより一般患者への外来受診及び入院制限が余儀なくされ、目標及び前年度実績を下回った。</li> </ul>																								
19	同上 (単位：人)					こども	B	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新患者数（入院）</td> <td>3,749人</td> <td>3,821人</td> <td>98.1%</td> <td>3,840人</td> <td>97.6%</td> </tr> <tr> <td>新患者数（外来）</td> <td>3,989人</td> <td>3,941人</td> <td>101.2%</td> <td>3,777人</td> <td>105.6%</td> </tr> </tbody> </table>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	新患者数（入院）	3,749人	3,821人	98.1%	3,840人	97.6%	新患者数（外来）	3,989人	3,941人	101.2%	3,777人	105.6%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																										
新患者数（入院）	3,749人	3,821人	98.1%	3,840人	97.6%																										
新患者数（外来）	3,989人	3,941人	101.2%	3,777人	105.6%																										
病院名	令和元年度実績	令和4年度目標																													
	入院	外来	入院	外来																											
こども	4,032	4,087	3,821	3,941																											
							<ul style="list-style-type: none"> <li>・入院は、新型コロナウイルス感染症流行の影響によりキャンセル又は延期する患者が発生し、計画を下回った。</li> <li>・外来では、新型コロナウイルス感染症流行に伴う受診控えの状況から回復基調となり、計画を上回った。</li> </ul>																								
20	【1人1日当たり診療単価】 対目標比=実績/年度目標 (税抜、単位：円)					信州	A	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>診療単価（入院）</td> <td>53,398円</td> <td>50,372円</td> <td>106.0%</td> <td>51,132円</td> <td>104.4%</td> </tr> <tr> <td>診療単価（外来） (公衆衛生活動含む)</td> <td>16,180円</td> <td>18,200円</td> <td>88.9%</td> <td>16,019円</td> <td>101.0%</td> </tr> </tbody> </table>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	診療単価（入院）	53,398円	50,372円	106.0%	51,132円	104.4%	診療単価（外来） (公衆衛生活動含む)	16,180円	18,200円	88.9%	16,019円	101.0%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																										
診療単価（入院）	53,398円	50,372円	106.0%	51,132円	104.4%																										
診療単価（外来） (公衆衛生活動含む)	16,180円	18,200円	88.9%	16,019円	101.0%																										
病院名	令和元年度実績	令和4年度目標																													
	入院	外来	入院	外来																											

	信州	43,549	14,887	50,372	18,200			診療単価（外来） （公衆衛生活動除く）	18,911 円	-	-	18,844 円	100.4%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入院は、施設基準の感染対策向上加算が診療報酬改定により増点されたこと、新型コロナウイルス感染症に係る診療報酬上の臨時特例の加算などにより入院単価は増加した。</li> <li>・外来は、通常診療に加え新型コロナ検査の対象者の割合が増加したため上昇した。</li> </ul>	
21	同上 （税抜、単位：円）					駒ヶ根	B	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比		
病院名	令和元年度実績		令和4年度目標		診療単価（入院）			29,137 円	27,629 円	105.5%	28,075 円	103.8%			
	入院	外来	入院	外来	診療単価（外来）			7,297 円	7,122 円	102.5%	6,847 円	106.6%			
駒ヶ根	27,432	6,986	27,629	7,122			<ul style="list-style-type: none"> <li>・入院単価は、新型コロナウイルス感染症の拡大にもかかわらず、診療単価の高い児童精神科病棟と医療観察法ユニットの高稼働により、対計画、対前年ともに1,000円以上上昇した。</li> <li>・外来単価は、昼食提供なしのデイケアの継続、診療単価の高い訪問看護ステーション「こまほす」の新たな開設に伴い、対前年で450円上昇した。</li> </ul>								
22	同上 （税抜、単位：円）					阿南	A	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比		
病院名	令和元年度実績		令和4年度目標		診療単価（入院）			34,316 円	32,486 円	105.6%	32,888 円	104.9%			
	入院	外来	入院	外来	診療単価（外来） （公衆衛生活動含む）			8,250 円	8,874 円	93.0%	6,847 円	120.5%			
阿南	28,292	8,065	32,486	8,874	診療単価（外来） （公衆衛生活動除く）	10,306 円	8,874 円	116.1%	9,204 円	112.0%					
								<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症関連の加算（二類感染症患者入院診療加算、院内トリアージ実施加算等）の算定により、入院単価及び外来単価（公衆衛生活動除く）ともに目標及び前年度を上回った。</li> </ul>							

23	同上 (税抜、単位：円)				木 曾	B	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>診療単価 (入院)</td> <td>38,244 円</td> <td>35,827 円</td> <td>106.7%</td> <td>36,164 円</td> <td>105.8%</td> </tr> <tr> <td>診療単価 (外来) (公衆衛生活動含む)</td> <td>11,235 円</td> <td>11,706 円</td> <td>96.0%</td> <td>11,756 円</td> <td>95.6%</td> </tr> <tr> <td>診療単価 (外来) (公衆衛生活動除く)</td> <td>12,044 円</td> <td>12,563 円</td> <td>95.9%</td> <td>12,721 円</td> <td>94.7%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・入院については、DPC 入院期間Ⅱを意識したベッドコントロールに努めた。 ・外来は、透析患者が68人から53人(実人数)へ減少したことによる収益減と、コロナ関係では発熱外来の患者や、電話診療の報酬・単価が低いことが影響し、診療単価が目標及び前年度実績を下回った。</p>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	診療単価 (入院)	38,244 円	35,827 円	106.7%	36,164 円	105.8%	診療単価 (外来) (公衆衛生活動含む)	11,235 円	11,706 円	96.0%	11,756 円	95.6%	診療単価 (外来) (公衆衛生活動除く)	12,044 円	12,563 円	95.9%	12,721 円	94.7%
	項目	実績	年度目標	対目標比			前年度実績	対前年度比																												
診療単価 (入院)	38,244 円	35,827 円	106.7%	36,164 円	105.8%																															
診療単価 (外来) (公衆衛生活動含む)	11,235 円	11,706 円	96.0%	11,756 円	95.6%																															
診療単価 (外来) (公衆衛生活動除く)	12,044 円	12,563 円	95.9%	12,721 円	94.7%																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th colspan="2">令和元年度実績</th> <th colspan="2">令和4年度目標</th> </tr> <tr> <th></th> <th>入院</th> <th>外来</th> <th>入院</th> <th>外来</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>木曾</td> <td>37,481</td> <td>10,631</td> <td>35,827</td> <td>12,563</td> </tr> </tbody> </table>					病院名	令和元年度実績		令和4年度目標			入院	外来	入院	外来	木曾	37,481	10,631	35,827	12,563																	
病院名	令和元年度実績		令和4年度目標																																	
	入院	外来	入院	外来																																
木曾	37,481	10,631	35,827	12,563																																
24	同上 (税抜、単位：円)				こ ど も	A	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>診療単価 (入院)</td> <td>111,954 円</td> <td>107,600 円</td> <td>104.0%</td> <td>104,758 円</td> <td>106.9%</td> </tr> <tr> <td>診療単価 (外来)</td> <td>12,116 円</td> <td>13,740 円</td> <td>88.2%</td> <td>12,945 円</td> <td>93.6%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・入院診療単価は、2022年度診療報酬改定の影響に加え、高額手術の増、入院前PCR検査の実施等による医業収益増加に対し、延べ患者数が減少したため単価が上昇し、計画及び前年を上回った。 ・外来診療単価は、リニアック更新による外来治療患者の減、高額注射の減、診察時の新型コロナ対策特例加算(50点)の廃止等が影響し、計画及び前年を下回った。</p>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	診療単価 (入院)	111,954 円	107,600 円	104.0%	104,758 円	106.9%	診療単価 (外来)	12,116 円	13,740 円	88.2%	12,945 円	93.6%						
	項目	実績	年度目標	対目標比			前年度実績	対前年度比																												
診療単価 (入院)	111,954 円	107,600 円	104.0%	104,758 円	106.9%																															
診療単価 (外来)	12,116 円	13,740 円	88.2%	12,945 円	93.6%																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th colspan="2">令和元年度実績</th> <th colspan="2">令和4年度目標</th> </tr> <tr> <th></th> <th>入院</th> <th>外来</th> <th>入院</th> <th>外来</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>こども</td> <td>103,346</td> <td>13,135</td> <td>107,600</td> <td>13,740</td> </tr> </tbody> </table>					病院名	令和元年度実績		令和4年度目標			入院	外来	入院	外来	こども	103,346	13,135	107,600	13,740																	
病院名	令和元年度実績		令和4年度目標																																	
	入院	外来	入院	外来																																
こども	103,346	13,135	107,600	13,740																																
25	【平均在院日数】 対目標比=実績/年度目標 (単位：日)				信 州	B	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平均在院日数</td> <td>15.6 日</td> <td>14.0 日</td> <td>111.4%</td> <td>14.8 日</td> <td>105.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・病棟における院内感染による退院制限及び結核患者受入再開により対計画値を上回った。</p>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	平均在院日数	15.6 日	14.0 日	111.4%	14.8 日	105.4%												
	項目	実績	年度目標	対目標比			前年度実績	対前年度比																												
平均在院日数	15.6 日	14.0 日	111.4%	14.8 日	105.4%																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和4年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>信州</td> <td>15.4</td> <td>14.0</td> </tr> </tbody> </table>					病院名	令和元年度実績	令和4年度目標	信州	15.4	14.0																										
病院名	令和元年度実績	令和4年度目標																																		
信州	15.4	14.0																																		

26	同上 (単位：日)		駒ヶ根	B							
	病院名	令和元年度実績			令和4年度目標	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
	駒ヶ根	70.7			70.0	平均在院日数	68.3日	70.0日	97.6%	64.6日	105.7%
					・入退院患者数の減により対前年では平均在院日数が伸びたが、概ね計画どおりとなった。						
27	同上 (単位：日)		阿南	B							
	病院名	令和元年度実績			令和4年度目標	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
	阿南	19.9			17.0	平均在院日数	16.3日	17.0日	95.9%	16.0日	101.9%
					・入院期間が比較的短い新型コロナウイルス感染症患者の受け入れなどにより、短縮傾向となった。						
28	同上 (単位：日)		木曾	A							
	病院名	令和元年度実績			令和4年度目標	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
	木曾	17.5			15.3	平均在院日数	15.8日	15.3日	103.2%	16.0日	98.8%
					・急性期病棟と地域包括ケア病棟、介護医療院、介護老人保健施設とで連携し、長期入院になりそうな患者等について早期にベッドコントロールの対応等を計画的に行った。						
29	同上 (単位：日)		こども	A							
	病院名	令和元年度実績			令和4年度目標	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
	こども	12.3			13.1	平均在院日数	12.7日	13.1日	96.9%	12.6日	100.8%
					・長期入院患者数の減により計画及び前年を下回った。						

30	【病床利用率】 ※対目標比=実績/年度目標 (単位：%)		信州	B	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床利用率</td> <td>64.4%</td> <td>75.0%</td> <td>85.9%</td> <td>70.0%</td> <td>92.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・病棟の入退院制限や、地域包括ケア病棟を新型コロナウイルス感染症専用病棟への転用、手術の制限により対計画値で減少した。</p>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	病床利用率	64.4%	75.0%	85.9%	70.0%	92.0%
	項目	実績			年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比														
	病床利用率	64.4%			75.0%	85.9%	70.0%	92.0%														
病院名	令和元年度実績	令和4年度目標																				
信州	79.9	75.0																				
<p>(注1) 信州医療センターは運用病床(平成30年12月から215床)での利用率 ※地域包括ケア病床(平成31年1月から49床)、結核病床(24床)及び感染症病床(4床)は除く</p>																						
31	同上 (単位：%)		駒ヶ根	B	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床利用率</td> <td>72.7%</td> <td>81.1%</td> <td>89.6%</td> <td>70.5%</td> <td>103.1%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・年度当初から7月までは計画どおり推移していたが、8月に県からの即応病床増床要請により退院の促進及び入院の抑制を行ったため、以後、患者数が回復せず、対計画で利用率が低下した。</p>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	病床利用率	72.7%	81.1%	89.6%	70.5%	103.1%
	項目	実績			年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比														
	病床利用率	72.7%			81.1%	89.6%	70.5%	103.1%														
病院名	令和元年度実績	令和4年度目標																				
駒ヶ根	78.1	81.1																				
<p>(注2) こころの医療センター駒ヶ根は、許可病床129床での利用率</p>																						
32	同上 (単位：%)		阿南	B	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床利用率</td> <td>54.9%</td> <td>56.0%</td> <td>98.0%</td> <td>56.0%</td> <td>98.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・利用率を向上させるため、転院受入やレスパイト入院などを積極的に行ったが、新型コロナウイルス感染症第7波の影響により入院患者数を制限したことなどにより、目標を下回った。</p>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	病床利用率	54.9%	56.0%	98.0%	56.0%	98.0%
	項目	実績			年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比														
	病床利用率	54.9%			56.0%	98.0%	56.0%	98.0%														
病院名	令和元年度実績	令和4年度目標																				
阿南	57.4	56.0																				
<p>(注3) 阿南病院は、運用病床(平成25年6月から新病棟85床、平成31年1月から77床、令和2年4月から70床)での利用率</p>																						

33	同上 (単位：%)		木 曾	B							
	病院名	令和元年 度実績			令和4年 度目標	項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
	木 曾	69.4			67.1	病床利用率	60.3%	67.1%	89.9%	70.3%	85.8%
(注4) 木曾病院は、運用病床（令和2年3月から151床）での利用率			<ul style="list-style-type: none"> <li>職員及び患者の新型コロナウイルス感染症発生に伴う入院制限と、県のコロナ病床確保の要請に応じ、病棟を新型コロナウイルス感染症へ転用したことにより多くの空床が発生、病床利用率は前年度実績を大きく下回った。</li> </ul>								
34	同上 (単位：%)		こ ど も	B							
	病院名	令和元年 度実績			令和4年 度目標	項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
	こども	73.1			71.1	病床利用率	66.3%	71.1%	93.2%	70.1%	94.6%
(注5) こども病院は、運用病床（平成25年10月から180床）での利用率			<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルスの影響、長期入院患者の減少により計画を下回った。</li> </ul>								

### 第3 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

#### 2 経営基盤の強化

##### (2) 費用の抑制

〔自己評定〕 B

〔自己評定の理由〕

新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい運営状況ではあったが、引き続き、組織が一体となって必要な経営改善に取り組んだ。機構全体では、本部事務局及び各病院が連携し、薬品費・医療材料費の価格交渉を実施したことにより、大幅な経費削減を実現した。また、各病院においても経費削減のための取組みを実施した。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第3 2(2) 1	診療材料や医薬品等の適切な管理により、コスト削減に努めるとともに、経営状況の分析を随時行い、費用対効果を意識した業務改善に積極的に取り組む。 【令和4年度に推進する事項】	信州	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベンチマークシステムを活用して価格交渉を実施し、年度換算削減予想額14,600千円、年間実績額では約13,000千円の削減を達成した。併せて逆ザヤ品611品目のうち437品目（71.5%）を解消した。</li> <li>安価な同種同等品への切替を積極的に検討し、年度換算削減予想額で582千円を達成した。</li> <li>本部主導で実施した医薬品の価格交渉に参加。令和4年度は、8,342千円（税込）の削減</li> </ul>



	・コンサルタントを活用した診療材料の価格交渉を継続（信州・木曽）			を達成した。												
2	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時差勤務等の勤務時間管理、業務の効率化及びセクションごとの目標値（昨年比2割減）設定により、超過勤務手当を縮減</li> </ul> <b>【超過勤務手当】</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>超過勤務手当</td> <td>20,629,200円</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>25,544,031円</td> <td>80,8%</td> </tr> </tbody> </table>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	超過勤務手当	20,629,200円	—	—	25,544,031円	80,8%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比											
超過勤務手当	20,629,200円	—	—	25,544,031円	80,8%											
3	同上 <b>【令和4年度に推進する事項】</b> ・阿南町と連携し、病院敷地等の借地の集約化により賃貸費用を抑制	阿南	C	・病院敷地等の借地の集約化については、特段の進展はなかった。												
4	同上 <b>【令和4年度に推進する事項】</b> ・コンサルタントを活用した診療材料の価格交渉を継続（信州・木曽）	木曽	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営改善ニュースにより、光熱水費の推移と分析を運営委員会で周知し、省エネを働きかけた。</li> <li>・価格交渉については未実施。</li> <li>・備品、医療機器購入費及び診療材料費を抑えるため令和3年度に輸液ポンプの切替（メーカー変更）を実施したが、今年度まだ使用できる輸液ポンプ14台については阿南病院に所管替えを行い、除却損の削減に努めた。</li> <li>・医療機器購入にあっては2社以上の入札参加を厳守。医療機器購入の見送りと合わせ、41,030千円の経費削減に資した。</li> </ul>												
5	同上 <b>【令和4年度に推進する事項】</b> ・医療機器安全管理チームを発足し、保守点検計画の精査により外部保守委託費用を適正化	こども	A	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>削減額（実績）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>診療材料費、消耗品費</td> <td>9,008千円</td> </tr> <tr> <td>修繕費</td> <td>357千円</td> </tr> <tr> <td>委託費、賃借料</td> <td>5,187千円</td> </tr> <tr> <td>光熱水費</td> <td>1,417千円</td> </tr> </tbody> </table>	項目	削減額（実績）	診療材料費、消耗品費	9,008千円	修繕費	357千円	委託費、賃借料	5,187千円	光熱水費	1,417千円		
項目	削減額（実績）															
診療材料費、消耗品費	9,008千円															
修繕費	357千円															
委託費、賃借料	5,187千円															
光熱水費	1,417千円															

				<ul style="list-style-type: none"> <li>・診療材料については、物価高騰による値上がりもあったが、粘り強い価格交渉や同種同等品への積極的な切り替えにより購入金額の削減に努めた。</li> <li>・委託料、賃借料については、仕様書の内容を再確認の上価格交渉を実施し、契約金額の削減に取り組んだ。</li> <li>・光熱水費は、原油高騰の影響で大幅に増加したが、院内の省エネ取組により費用削減に努めた。</li> </ul>																								
6	<p>同上</p> <p><b>【令和4年度に推進する事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院と機構本部が連携した卸業者又はメーカーとの価格交渉の実施等による医薬品費及び診療材料費の削減</li> </ul>	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院と機構本部が連携した卸業者との価格交渉の実施等による医薬品費の削減</li> </ul> <p>コンサルタント、各病院の薬剤部長等と連携した医薬品の価格交渉を行い、4月1日及び10月1日に遡って交渉後単価を適用し、医薬品費を18,580千円（合計金額）削減</p> <p><b>【遡及額】</b> (税抜 単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>信州</th> <th>駒ヶ根</th> <th>阿南</th> <th>木曾</th> <th>こども</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7,584</td> <td>818</td> <td>836</td> <td>4,345</td> <td>4,997</td> <td>18,580</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部委託検査費の削減</li> </ul> <p>コンサルタント等と連携した外部委託検査の価格交渉を行い、7月1日から交渉後単価を適用し、外部委託検査費を9,982千円（合計金額）削減</p> <p><b>【削減額】</b> (税込 単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>信州</th> <th>駒ヶ根</th> <th>阿南</th> <th>木曾</th> <th>こども</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4,071</td> <td>1,319</td> <td>678</td> <td>1,875</td> <td>2,039</td> <td>9,982</td> </tr> </tbody> </table>	信州	駒ヶ根	阿南	木曾	こども	合計	7,584	818	836	4,345	4,997	18,580	信州	駒ヶ根	阿南	木曾	こども	合計	4,071	1,319	678	1,875	2,039	9,982
信州	駒ヶ根	阿南	木曾	こども	合計																							
7,584	818	836	4,345	4,997	18,580																							
信州	駒ヶ根	阿南	木曾	こども	合計																							
4,071	1,319	678	1,875	2,039	9,982																							
7	<p><b>【令和4年度に推進する事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医薬品の適切な管理によるコスト削減を図るため、薬局SPD（物品管理業務委託）の導入を検討（信州）</li> </ul>	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入事例として長野県立こども病院の運用状況を参考にし業務仕様書を完成させた。令和5年1月に入札を実施し、業者を確定。3月末までに導入準備を終了し、令和5年4月より業務を開始した。</li> </ul>																								

8	【令和4年度に推進する事項】 ・SPD導入による診療材料管理の適正化	木曾	B	・SPDシステムを10月から稼働を開始した。棚卸による在庫管理や部署毎の使用量の把握が可能となった。																	
9	【医療材料費/医業収益比率】 ※対目標比=実績/年度目標 (税抜、単位：%)	信州	B	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療材料費/ 医業収益比率</td> <td>30.0%</td> <td>28.4%</td> <td>105.6%</td> <td>28.8%</td> <td>104.2%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・コロナ患者の増加にともない、抗原定量検査数が大幅に増加したことにより、検査試薬の購入量が大きく増加した。</p>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	医療材料費/ 医業収益比率	30.0%	28.4%	105.6%	28.8%	104.2%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																
医療材料費/ 医業収益比率	30.0%	28.4%	105.6%	28.8%	104.2%																
10	同上 (税抜、単位：%)	駒ヶ根	A	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療材料費/ 医業収益比率</td> <td>5.3%</td> <td>5.9%</td> <td>89.8%</td> <td>5.8%</td> <td>91.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・診療材料の減少等により、対目標比、対前年比ともに下回った。</p>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	医療材料費/ 医業収益比率	5.3%	5.9%	89.8%	5.8%	91.4%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																
医療材料費/ 医業収益比率	5.3%	5.9%	89.8%	5.8%	91.4%																
11	同上 (税抜、単位：%)	阿南	B	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療材料費/ 医業収益比率</td> <td>15.3%</td> <td>14.6%</td> <td>104.8%</td> <td>13.7%</td> <td>111.7%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・コロナ関連の医療材料費の大幅な増により、対目標比、対前年度比ともに増加した。</p>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	医療材料費/ 医業収益比率	15.3%	14.6%	104.8%	13.7%	111.7%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																
医療材料費/ 医業収益比率	15.3%	14.6%	104.8%	13.7%	111.7%																
12	同上 (税抜、単位：%)	木曾	B	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療材料費/ 医業収益比率</td> <td>21.4%</td> <td>20.7%</td> <td>103.3%</td> <td>21.7%</td> <td>98.6%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・患者数が減少したことにより、材料費、医業収益ともに前年度より減少したが、医療材</p>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	医療材料費/ 医業収益比率	21.4%	20.7%	103.3%	21.7%	98.6%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																
医療材料費/ 医業収益比率	21.4%	20.7%	103.3%	21.7%	98.6%																

						料費の減少比率よりも医業収益の減少比率の方が大きいことから、年度目標、前年度実績を下回った。																	
13	同上 (税抜、単位：%)	こども	A																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>令和元年度 実績</th> <th>令和4年度 目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>こども</td> <td>21.9</td> <td>20.8</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	令和元年度 実績	令和4年度 目標	こども	21.9	20.8			<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療材料費/ 医業収益比率</td> <td>21.0%</td> <td>20.8%</td> <td>100.9%</td> <td>21.7%</td> <td>96.7%</td> </tr> </tbody> </table>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	医療材料費/ 医業収益比率	21.0%	20.8%	100.9%	21.7%	96.7%	・入院患者数の減、高額薬品使用の減等により、対前年度では比率が下がったが、医業収益の減に伴い、対目標では比率が上がった。
病院名	令和元年度 実績	令和4年度 目標																					
こども	21.9	20.8																					
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																		
医療材料費/ 医業収益比率	21.0%	20.8%	100.9%	21.7%	96.7%																		
14	【ジェネリック医薬品使用割合（院内）】 ※対目標比=実績/年度目標 (単位：%)	信州	A																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>令和元年度 実績</th> <th>令和4年度 目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>信州</td> <td>91.7</td> <td>88.0</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	令和元年度 実績	令和4年度 目標	信州	91.7	88.0			<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ジェネリック医薬品使用割合（院内）</td> <td>91.1%</td> <td>88.0%</td> <td>103.5%</td> <td>89.8%</td> <td>101.4%</td> </tr> </tbody> </table>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	ジェネリック医薬品使用割合（院内）	91.1%	88.0%	103.5%	89.8%	101.4%	・使用割合はほぼ90%を超えており後発医薬品使用体制加算1を算定した。
病院名	令和元年度 実績	令和4年度 目標																					
信州	91.7	88.0																					
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																		
ジェネリック医薬品使用割合（院内）	91.1%	88.0%	103.5%	89.8%	101.4%																		
15	同上 (単位：%)	駒ヶ根	A																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>令和元年度 実績</th> <th>令和4年度 目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>駒ヶ根</td> <td>88.5</td> <td>87.0</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	令和元年度 実績	令和4年度 目標	駒ヶ根	88.5	87.0			<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ジェネリック医薬品使用割合（院内）</td> <td>97.3%</td> <td>87.0%</td> <td>111.8%</td> <td>95.7%</td> <td>101.7%</td> </tr> </tbody> </table>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	ジェネリック医薬品使用割合（院内）	97.3%	87.0%	111.8%	95.7%	101.7%	・供給が安定している医薬品については、薬事委員会等において可能な限りジェネリック医薬品への切り替えを行い、年度目標を大きく上回った。
病院名	令和元年度 実績	令和4年度 目標																					
駒ヶ根	88.5	87.0																					
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																		
ジェネリック医薬品使用割合（院内）	97.3%	87.0%	111.8%	95.7%	101.7%																		
16	同上 (単位：%)	阿南	B																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>令和元年度 実績</th> <th>令和4年度 目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>阿南</td> <td>86.7</td> <td>86.0</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	令和元年度 実績	令和4年度 目標	阿南	86.7	86.0			<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ジェネリック医薬品使用割合（院内）</td> <td>84.7%</td> <td>86.0%</td> <td>98.5%</td> <td>86.1%</td> <td>98.4%</td> </tr> </tbody> </table>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	ジェネリック医薬品使用割合（院内）	84.7%	86.0%	98.5%	86.1%	98.4%	
病院名	令和元年度 実績	令和4年度 目標																					
阿南	86.7	86.0																					
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																		
ジェネリック医薬品使用割合（院内）	84.7%	86.0%	98.5%	86.1%	98.4%																		

										・ジェネリック医薬品の供給不足により入手困難になった後発品については、先発品に戻して対応した。	
17	同上 (単位：%)			木 曾	B						
	病院名	令和元年度 実績	令和4年度 目標			項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
	木 曾	81.9	90.0			ジェネリック医薬 品使用割合 (院内)	89.7%	90.0%	99.7%	89.7%	100.0%
<p>・4月から6月までは90%をクリアしたが7月は下回り、後発医薬品使用体制加算1（47点）から加算2（43点）へ届出変更を行った。薬事委員会で後発切替を積極的に進め1月には90%以上に復帰し、2月から加算1に戻すことが出来た。また今年度は切替率（90%以上）に加えて、切替金額にも焦点を当て、高額なBS（バイオシミラー）や抗がん剤等の切替を進め、薬価として年間2,220万円の薬品費削減となる37品目の切替を実施した。</p>											
18	同上 (単位：%)			こ ど も	A						
	病院名	令和元年度 実績	令和4年度 目標			項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
	こども	88.6	90.0			ジェネリック医薬 品使用割合 (院内)	92.5%	—	102.8%	92.1%	100.4%
<p>・後発医薬品使用体制加算1の算定要件（90%以上）を満たした。（DPC機能評価係数0.0014 加算額年間約128万円）。</p>											

## 第4 その他業務運営に関する事項

### 1 コンプライアンスの推進と適切な情報管理

〔自己評定〕 B

〔自己評定の理由〕

機構本部と各病院等が連携し、全職員を対象としたコンプライアンスに関する研修を実施した。

また、県の個人情報保護条例及び情報公開条例に基づき適切な情報管理を行うとともに、情報セキュリティ及び個人情報保護に関する研修を実施し、個人情報の適切な取扱いを推進した。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第4 1 1	<p>各種研修会等の開催により、法人内のコンプライアンス（法令等を遵守するとともに社会規範を尊重して行動すること）の強化を図るとともに、内部統制委員会及びリスク管理委員会の活動を通じてリスク等の特定と評価及び対応を行い適切な業務運営を図る。</p> <p>長野県個人情報保護条例や長野県情報公開条例等に基づき、保有する個人情報の適切な情報管理と情報セキュリティ対策を講じるととも</p>	信州	A	<p>・新任職員へのオリエンテーションにおいて、個人情報の取扱いや情報セキュリティについての研修を実施した。</p>

	に、定期的な研修会等により、職員の理解を深める。			
2	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規採用職員、転入職員へのオリエンテーションで個人情報の適正な取扱い、情報基盤ネットワークの適切な運用及び情報セキュリティに関する知識の習得を図るため研修を実施した。</li> </ul>
3	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本部主催のコンプライアンス研修動画を約9割の職員が視聴した。</li> <li>・新規採用職員、転入職員へのオリエンテーションで個人情報の適正な取扱い、情報基盤ネットワークの適切な運用及び情報セキュリティに関する知識の習得を図るため研修を実施した。</li> <li>・情報セキュリティ研修を委託職員含め187人が受講し、職員の情報セキュリティに関する意識の向上を図った。</li> </ul>
4	同上	木曾	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規採用職員、転入職員へのオリエンテーションで情報漏えいリスク及びその対策、個人情報の適正な管理等について説明した。</li> <li>・10月に機構本部主催の情報セキュリティ研修（eラーニング）を実施。</li> </ul>
5	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月に新規入職者へのオリエンテーションにおいて、個人情報保護及び医療情報の取扱いについての研修を行った。</li> <li>・10月～1月にかけて、機構本部主催の情報セキュリティ及び個人情報保護の研修会をナーシング・スキルを利用し、全職員に実施した。</li> <li>・電子カルテ内の個人情報の取り出しについては、昨年度導入した管理システム「Smooth File」により行った。これにより患者データの取り出し申請には、上司の承認が必要となるため、個人情報漏洩については各部門内で管理を行った。</li> </ul>
6	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本部と連携し、コンプライアンスに係る特別授業を実施。教員も一緒に受講した。</li> <li>・実習に先立ち、患者情報の管理について注意を喚起した。</li> </ul>

		看		
7	同上	本 部	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内部監査の実施 病院等を対象とし、「職員の特定個人情報の管理」について、担当者等からの聞き取り及び現場確認による監査を実施した。</li>   <li>・各種研修会の開催 「汚職」及び「パワーハラスメント」をテーマにコンプライアンス研修をeラーニングにて開催した。</li>   <li>・情報セキュリティ対策 各病院の情報セキュリティ対策について、外部コンサルタントによる調査を実施し、セキュリティ対策上の課題の洗い出しを実施した。具体的な対策は令和5年度以降に実施予定。</li> </ul>



## 第4 その他業務運営に関する事項

### 2 施設整備及び医療機器に関する事項

〔自己評定〕 B

〔自己評定の理由〕

医療機器については、機構全体の医療技術部長らで構成する医療器械等審査部会で検討を行い、適正な購入に努めた。  
また、施設改修についても引き続き医療需要や費用対効果を勘案し計画的に実施した。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第4 2 1	<p>地域の医療需要や費用対効果等を総合的に勘案し、中長期的な視野に立って、施設及び医療機器の整備を計画的に実施する。</p> <p>相当の年数が経過した施設については、長寿命化を図るために必要な大規模改修を、県と連携して進める。</p>	信州	A	<p>・耐用年数を超過した設備及び医療機器について計画的に更新を図った。 (令和4年度に改修完了した主な設備) 蒸気ボイラ更新工事、冷却塔改修工事、医療用ガス設備更新工事、エレベーター更新工事 (令和4年度に整備完了した主な医療機器) 無影灯2台、超音波診断装置2台、除細動器1台、生化学・全自動化学発光酵素免疫測定システム1式、X線TV装置1台、内視鏡マネジメントシステム1式</p>

2	同上	駒ヶ根	A	<p>施設設備及び医療機器の計画的な整備を次のとおり実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エアコンの長寿命化を図るためのオーバーホール計画を検討した。</li> <li>・エレベータ(3号機)の主要部品の更新を行い、段階的に進めてきた院内すべてのエレベータの予防保全を完了した。</li> <li>・電話交換機更新工事について、入札及び契約の締結を行った。</li> <li>・井水利用に係る自動塩素滅菌装置の更新工事を実施した。</li> <li>・長期的な収益増を目的とし、データ提出加算用システムを整備した。</li> <li>・高度な治療需要に対応するため、経頭蓋治療用磁気刺激装置を整備した。</li> </ul>	
3	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリ室の床材の変更、言語聴覚室の整備、車いすトイレの整備、ADL（日常生活動作）練習機器の整備などの改修工事を行った。</li> </ul>	
4	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3期中期計画に基づき、優先度を考慮しながら「給食厨房エアコン設置工事」「血液検査室エアコン設置工事」「内視鏡室エアコン設置工事」「療養病棟ナースコール設備更新工事」を行った。</li> </ul>	
5	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建設改良工事では、北棟増改築工事、北棟チラーシステム更新工事、北棟ナースコールシステム更新、北棟無停電電源装置蓄電池交換を実施完了した。</li> <li>・医療機器では、放射線治療装置（リニアック）の更新等を実施した。</li> <li>・翌年度分の医療機器購入については、院長ヒアリングを行うとともに、医療機器等購入委員会において必要性及び緊急性を精査し、計画的な予算申請を行った。また、高額医療機器については、今後5年間の更新計画を作成した。</li> </ul>	
6	同上 <b>【施設及び設備の整備に関する計画】</b>	本部	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機構全体の施設（建物・設備）に係る中長期的な整備計画・資金計画等の最適化管理のため、現状把握等を実施</li> </ul>	
	<table border="1"> <tr> <td>施設・設備の内容</td> <td>予定額</td> <td>財源</td> </tr> </table>				施設・設備の内容
施設・設備の内容	予定額	財源			

施設及び医療 機器等整備	総額 2,968 百万円	長野県長期 借入金等			病院名	実績	年度計画
					病院機構全体	総額 2,215 百万円	総額 2,968 百万円
<p>施設等の整備に当たっては、県の気候非常事態宣言を踏まえ、二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）排出量の削減に取り組む。</p> <p><b>【令和4年度に推進する事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 機構全体の施設（建物・設備）に係る中長期的な整備計画・資金計画等の最適化管理のため、現状把握等を実施（本部）</li> </ul>							

#### 第4 その他業務運営に関する事項

##### 3 中期計画の見直しに関する事項

〔自己評定〕 B

〔自己評定の理由〕

本部は中期計画について見直しを検討し、県と協議を開始した。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
1	病院機構は、診療報酬改定や医師の働き方改革などの動向を踏まえ、中期計画について必要な見直しの検討を行う。	本部	B	・3月の理事会において、県に見直し協議を行うことを報告し、県と協議を開始した。